

HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 9.30

ソフトウェア資産

ドキュメントリリース日 : 2011年 3月 31日
ソフトウェアリリース日 : 2011年 3月



ご注意

著作権について

(c) Copyright 1994-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

権利の権限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。

これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。

商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。

ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。

ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

サードパーティまたはオープンソースのライセンス契約の詳細を確認する場合、またはオープンソースコードを表示する場合は、次のいずれかのパスを使用してください。

- ソフトウェアのインストールCD-ROMの「ThirdParty」ディレクトリ
- ソフトウェアのインストール後にサードパーティまたはオープンソースツールのバイナリファイルが格納されるディレクトリ
- 『Open Source and Third-Party Software License Agreements』ガイドに記載されているコンポーネントのURL

商標について

- Adobe®、Adobe logo®、Acrobat®およびAcrobat Logo®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- Corel®およびCorel logo®は、Corel Corporation or Corel Corporation Limitedの商標または登録商標です。
- Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows NT®、Windows® XP、Windows Mobile®およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。
- Oracle®はOracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/> [<http://www.apache.org/>]) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The Apache Software Foundation.All rights reserved.

本製品には、OpenLDAP Foundationにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright ©, The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.All Rights Reserved.OpenLDAP®は、OpenLDAP Foundationの登録商標です。

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) での使用を目的にOpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSSL Project.All rights reserved.

本製品には、OpenSymphony Group (<http://www.opensymphony.com/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSymphony Group.All rights reserved.

本製品には、RSA Data Securityからライセンス供与されたコードが含まれています。

本製品には、JDOM Project (<http://www.jdom.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © Jason Hunter & Brett McLaughlin.All rights reserved.

目次

はじめに	11
ソフトウェア資産モジュールの対象ユーザ	11
ソフトウェア資産モジュールの使用目的	11
このガイドの使用方法	12
1. 概要	15
1. ソフトウェア資産管理：利害	17
なぜ、企業はソフトウェア資産管理を実施する必要があるのでしょうか？	17
効率的なソフトウェア資産管理の利点	18
既存のライセンスタイプを把握する	19
ソフトウェア資産管理を実装する	19
Asset Managerのソフトウェア資産の管理方法	22
2. ライセンス、資格、インストール、使用、契約	23
主概念	23
インストール/使用とライセンスの間のリンク	25
ソフトウェア資産管理に関連するテーブル	26
管理タイプ	28
ソフトウェア資産 モジュール：実装の順序	29

レコードの作成方法	29
【ソフトウェアの管理】ウィザードの構造 (sysSamLauncher)	29
.....	29
II. ソフトウェア資産モジュールを使用する	31
3. 準備タスク	33
適切なライセンスをAsset Managerデータベースに挿入	33
Windowsクライアント：必要なモジュールを起動	33
専門分野データの既存データベースへのインポート	34
Asset Managerのインストールの詳細については	35
4. ライセンス契約の管理	37
ライセンス契約を作成する	37
【ソフトウェアの管理】 (sysSamLauncher) ウィザードで対象の契約を選択する	39
自動契約承認	39
ライセンス契約を変更する	48
新規メンテナンス契約を契約ライセンスに関連付ける	49
対象の契約に関連付けられているメンテナンス契約を変更する	49
対象の契約に資産を追加する	50
請求明細を対象の契約にリンクする	50
5. ソフトウェアライセンス管理	53
ソフトウェアライセンスの属性を作成する	53
ソフトウェアライセンスモデルを作成する	54
ソフトウェアライセンスタイプを作成する	54
ソフトウェアライセンスを作成する	55
ソフトウェアライセンスを変更する	56
新規ソフトウェアライセンスを依頼する	57
ライセンスを削除する	58
6. ソフトウェア資格の管理	59
ライセンスのための特定資格を作成する	59
ライセンスの特定資格を変更する	60
ライセンスの特定資格を削除する	61
7. ソフトウェアのインストールと使用の管理	63
.....	63

インストール/使用を自動作成する	63
インストール/使用を手動で作成する	70
ポートフォリオ品目に対するインストールのリンク/リンク解除	75
違反インストールが発生した場合に自動メッセージを送信する	77
インストール/使用を除却する	78
不明なインストールの照合更新	79
OEMインストールとしてインストールをフラグ付け	80
ユーザを対象のASP契約に追加する	81
対象のASP契約からユーザを削除する	82

8. インストールのライセンスコンプライアンスを監視する 83

概要	83
ソフトウェアカウンタの作成	88
ソフトウェアカウンタを変更する	92
ソフトウェアカウンタの結果の更新	94
インストール/使用とライセンス間の不整合を処理する	96
ソフトウェアのアップグレードとライセンス権限の転送によりコンプライアンスを最適化する	98
「旧モード」ソフトウェアカウンタ	104
ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する	105
ソフトウェアカウンタの定期的な自動計算	106
実用例6：ソフトウェアカウンタによるSQL Server V2005ライセンスとインストールの管理	108

9. レポートとグラフの表示 115

ソフトウェアのコントロールパネルの表示	115
ソフトウェアに関するレポートを表示する	116

III. 実用例 119

10. 実用例 121

一般情報と前提条件	121
実用例1：必要品目の作成	122
実用例4：契約ライセンスを作成する	123
実用例3：契約ライセンスの承認を管理	136
実用例1a：ライセンスとインストールに対する単純なカウンタの作成	147
実用例1b：特定の部署にカウンタの範囲を制限	153
実用例1c：権限の内部割り当て	155
実用例1d：実際のソフトウェア使用を考慮する	158

実用例5：ライセンス権限を転送する	160
実用例2：Microsoft Select契約	170
IV. 付録	191
11. 用語解説	193
12. リファレンス	195
ナビゲーションバー、メニューとタブ	195
Windowsクライアントツールバーのアイコン	200
Windows クライアントのインタフェースのオプション	201
テーブル	201
テーブルの関係	203
リストデータ	205
特殊フィールド	205
カウンタ	206
アクションとウィザード	206
ワークフロー	210
Asset Manager Automated Process Managerモジュール	212
システムデータと専門分野データ	212
レポート	213
バックグラウンドプロセス	214
API	214
ビュー	214
その他のドキュメント	215
索引	217

図の一覧表

1.1. ソフトウェア資産の管理	20
2.1. 物理データモデル	28
8.1. カウンタにリンクされたテーブル	85
8.2. 特定資格に関連するテーブル	86
8.3. カウンタ、資格、ポートフォリオ品目間のリンク	87

表の一覧表

2.1. テーブル	26
4.1. ライセンス契約承認 - 契約承認ワークフロースキーム	40
7.1. スキャンインポート-最後のスキャン以降に削除されたソフトウェアを検出ワークフロースキーム	70
7.2. ライセンスコントロール-違反インストールワークフロースキーム	77
8.1. カウンタ - カウントに使用できるフィールド	91
8.2. カウンタ - インストール/使用の識別に使用できるフィールド	91
8.3. カウンタ - ライセンスの識別に使用できるフィールド	91
8.4. カウンタ - 資格の識別に使用できるフィールド	92
8.5. ライセンスコントロール-利用できるライセンスがありませんワークフロースキーム	105
8.6. ライセンスコントロール-定期的なライセンス確認ワークフロースキーム	107
12.1. [ソフトウェア資産] モジュール内のナビゲーションバーのリンク、メニュー、タブの一覧	195
12.2. テーブル (ソフトウェア資産) - 一覧	201
12.3. テーブル間の依存関係 - 表	203
12.4. リストデータ - 一覧	205
12.5. 特殊フィールド - 一覧	206
12.6. アクションとウィザード - 一覧	207
12.7. ワークフロー - 一覧	211
12.8. Asset Manager Automated Process Managerモジュール - 一覧	212
12.9. その他のドキュメント - リスト	215

はじめに

ソフトウェア資産モジュールの対象ユーザ

ソフトウェア資産モジュールの対象は、ソフトウェア資産のライフサイクルの各段階で、その管理、制御および保護を必要とする企業や団体です。

ソフトウェア資産モジュールの使用目的

ソフトウェア資産モジュールの一般的な使用方法：

- ソフトウェア契約データベースの入力
- ソフトウェアライセンスデータベースの入力（ソフトウェアアプリケーションを使用するための権限の取得）
- インストールデータベースの入力（ソフトウェアアプリケーションを使用するための権限の消費）
- インストールがライセンスに準拠することを監視
- ソフトウェアポートフォリオ（インストール、更新）を管理

このガイドの使用方法

「ソフトウェア資産管理：利害」の章

この章では、ソフトウェア資産モジュールの開発理由について説明します。ソフトウェア資産管理が大事である理由、Asset Managerでのソフトウェア資産管理方法を把握するには、この章を参照してください。

「ライセンス、資格、インストール、使用、契約」の章

この章では、ソフトウェア資産を管理する、Asset Managerの設計概念について説明します。

ソフトウェア資産管理で実装されるさまざまなメカニズムを把握するには、この章を参照してください。

「準備タスク」の章

この章では、ソフトウェア資産モジュールの使用に必要な設定について説明します。

「ライセンス契約の管理」の章

この章では、ライセンス契約の作成、検証および更新の方法について説明します。

「ソフトウェアライセンス管理」の章

この章では、ソフトウェアライセンスと資格の依頼、作成、変更および削除の方法について説明します。

「ソフトウェアのインストールと使用の管理」の章

この章では、ソフトウェアのインストールと使用の依頼、作成、変更、説明および削除の方法について説明します。

「インストールのライセンスコンプライアンスを監視する」の章

この章では、カウンタを使用して、取得した権限（ライセンス）の個数と使用した権限（インストール）の個数の間に矛盾がないことを確認する方法について説明します。

ソフトウェアのインストールが取得した権限および内部資格ポリシーと整合性があるかどうかを確認する方法については、この章を参照してください。

「レポートとグラフの表示」の章

この章では、ソフトウェア資産のステータスをまとめたレポートを迅速に表示する方法について説明します。

「実用例」の章

この章では、Asset Managerをデモデータベースで使用して実行する実用例を示します。

実用例を一通り実行して、ソフトウェア資産モジュールの使用方法を学習します。

「主概念」の章

用語解説には、ソフトウェア資産モジュールで使用される重要な用語が含まれています。

「リファレンス」の章

この章には、ソフトウェア資産モジュールと組み合わせて使用されるAsset Managerのコンポーネントの参考情報を一覧表示します。

| 概要

1 ソフトウェア資産管理：利害

なぜ、企業はソフトウェア資産管理を実施する必要があるのでしょうか？

ソフトウェア資産は無形の性質を持つため、有形資産と比べると管理が漠然としています。

 **重要項目:**

効率的なソフトウェア資産管理プログラムを実装しているのは、全企業のわずか10%であると推測されています。

それにもかかわらず、ソフトウェア資産は以下の分野でIT支出の大部分を消費しています。

- 取得
- インストール
- サポート
- メンテナンス
- 使用

重要項目:

多くの組織で、ソフトウェア資産の調達に使われるIT予算の割合が年々と増えています。

通常、ソフトウェア資産の調達は、IT予算の18パーセントから37パーセントに相当します。

ほとんどの組織では、次の事柄に無関心です。

- どのソフトウェアがインストールされているか
 - どこにソフトウェアがインストールされているか
 - ソフトウェアのインストールが、ライセンス権限を遵守しているかどうか
- このような情報がないと、組織は以下に挙げる重大なリスクにさらされます。
- 所有するライセンス権限が少ないため、ソフトウェアを不正に使用する
 - 未インストール、未使用のソフトウェアのライセンスを購入して、経費を無駄にする

重要項目:

多くの組織が、10～15パーセントほど余分にライセンスを購入しています。

- ソフトウェアの更新の判断および計画が困難になる

効果的なソフトウェア資産管理とそれに伴う利害の詳細については、次のBusiness Software Alliance (BSA) Webサイトを参照してください。

▶ [Just ask SAM](http://www.justasksam.co.uk/index.cfm) [http://www.justasksam.co.uk/index.cfm].

効率的なソフトウェア資産管理の利点

ソフトウェア資産を効率的に管理することで、組織にさまざまな面で利益をもたらします。

- 誰が、どのソフトウェアを使用しているかをいつでも把握できる
- どのソフトウェアのインストールが使用されなくなったかを把握し、ライセンス権限を他のユーザーに再割り当てすることで、余分な権限を取得することがなくなる
- 組織におけるソフトウェアの現状と望ましい展開とを把握することで、より良くサプライヤと交渉できるようになる
- より正確に更新を設定できる
- 不正インストールを排除
- ワークステーションが必要とし適格である更新を、ワークステーションに受信させることができる
- 不正なソフトウェアのインストールによる罰金のリスクを削減できる

- 不定期の監査期間中、組織のソフトウェアインストールに関するオンデマンドレポートを作成できる

 **重要項目:**

効率的なソフトウェア資産管理プログラムを実装する多くの組織は、ソフトウェア調達経費を25%削減しています。

既存のライセンスタイプを把握する

実際のところ各ソフトウェア発行者は、独自のライセンスポリシーを実施しています。

しかし、主要となるライセンスタイプを定義することは可能です。

ライセンス方法に関する興味深い文書がBSA Webサイトにあります。

▶ [なぜライセンスが重要か](#)

[<http://www.bsa.org/uk/antipiracy/upload/BSA-Licensing-Guide-July-2004.pdf>]

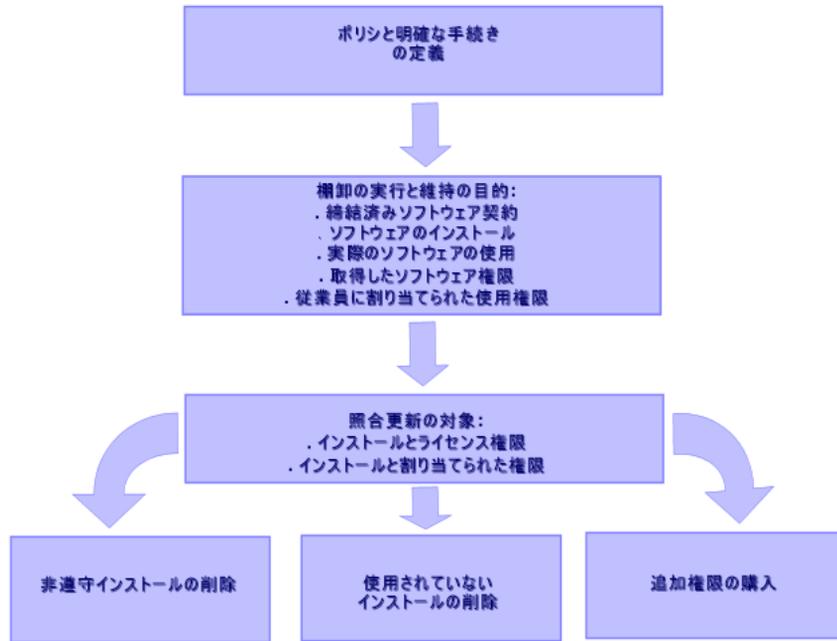
ソフトウェア資産管理を実装する

ソフトウェア資産管理の実装には、ソフトウェア資産をそのライフサイクルの各段階で管理、制御、保護を行うための手続きとツールの実装が必要となります。

ソフトウェア資産を管理することは、その場限りの作業の集積ではありません。継続する、永続的な取り組みです。

ソフトウェア資産管理の実装は、以下に挙げるいくつかの段階で行います。

図 1.1. ソフトウェア資産の管理



- 1 ソフトウェアポリシーを定義し、手続きを明確にします。
 - 事業が法令を遵守していることを再確認するほか、組織に合う、便利さと経済性との最善の比率を維持
 - ソフトウェア調達を集中化
 - ソフトウェア購入依頼の検証手続きを定義
 - 承認済みソフトウェアの一覧を定義
 - 信頼のおけるベンダを選択
 - 購入したソフトウェアの原版（ライセンス、マニュアル、CD、登録カード、請求書など）を、アクセスが制限された**確定版ソフトウェアの保管庫**に収集して保持。
- 2 インストールされたソフトウェアの棚卸しをし、実際の使用を測定します。この作業の最も効果的な方法は、自動インベントリツールを使用することです。

HP Software HP Discovery and Dependency Mapping Inventory は、この作業をIT構造全体に対して行います。

このタスクは、サービスプロバイダにより実行できます。

次に、棚卸したデータを、ソフトウェア資産管理タスクに必要なすべてを実装できるAsset Managerデータベースに転送します。

一度初期棚卸を実行してからは、定期的に棚卸を更新してください。

- 3 取得したソフトウェアインストール権限（ライセンス、契約、請求書、資格）に関する情報を収集します。

次に挙げる2つの権限が存在します。

- **ライセンス**: サードパーティが発行するソフトウェアアプリケーションをインストールする権限を付与するライセンスです。ライセンスを所有することで、法令を遵守することになります。
- **資格**: 資格は従業員にソフトウェアアプリケーションをインストールする権限を付与します。アプリケーションをインストールする前に資格を待つことで、従業員は社内ポリシーを遵守することになります。

このような情報をAsset Managerデータベース（ライセンス、契約）に格納します。

一度この作業を行ってからは、ライセンスの取得や資格の変更のたびにAsset Managerデータベースを更新します。

Asset Managerの**調達**モジュールを使用することが、ライセンス取得管理の効率的な方法です。

このようにすることで、データの信頼性が向上します。

- 4 インストールを、取得した権限（ライセンス）と与えられた権限（資格）とで照合更新します。

各ソフトウェアアプリケーションで、以下に挙げる3つの状況の1つが発生することがあります。

- インストール数がライセンス権限数を超過する場合。超過したインストールを削除するか、さらにライセンス権限を購入します。実際のソフトウェアの使用量を測定することが判断の一助となります。
- ライセンス権限数がインストール数を超過する場合。新しいライセンス権限は購入しません。今後の使用のために未使用のライセンス権限をとっておきます。
- アプリケーションはインストールされているが、資格が与えられていない場合。非遵守インストールを削除するか、資格を与えます。

効果的なソフトウェア資産管理プログラムの実装に関する詳細については、BSA Webサイトを参照してください。

▶ [Guide to Software Asset Management](#)

[<http://www.bsa.org/uk/antipiracy/upload/Guide-to-Software-Management-July-2004.pdf>]

Asset Managerのソフトウェア資産の管理方法

Asset Managerのソフトウェア資産モジュールにより、ソフトウェア資産管理プログラムのあらゆる面の処理が支援されます。

このモジュールは、他のAsset Managerモジュール、とりわけ以下に挙げるモジュールと完全に統合されています。

- ポートフォリオ
- 契約
- 調達

Asset Managerも、自動的にソフトウェアを検出して棚卸するHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryと統合されています。

ソフトウェア資産モジュールを使用して行えることを以下に挙げます。

- ライセンス契約の管理
 - 契約の検証プロセス
 - 新規契約の作成
 - 既存契約の変更
- サードパーティ会社から取得したライセンスの説明
- 権限の内部割り当ての説明
- ソフトウェアインストールの説明
- 実際のソフトウェア使用の説明
- ライセンスとインストールの照合更新
 - ライセンスとインストールの比較
 - 資格とインストールの比較
 - 実際の使用を考慮に入れる不整合の処理
- レポートとグラフの表示

これらのタスクは、ウィザードを介して行われます（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...]リンク）。

2 ライセンス、資格、インストール、使用、契約

ソフトウェアアプリケーションの管理とは、ソフトウェアのライセンス契約、資格、インストール/使用、および関連する契約を管理することを意味します。

主概念

ここでは、ソフトウェア資産管理の主概念について説明します。

ソフトウェアのインストール/使用

ソフトウェアのインストール/使用は、データベース内ではポートフォリオ品目で表現されます。

ソフトウェアを物理的にコンピュータにインストールする際、ソフトウェアをコンピュータのコンポーネントとして宣言できます。

ソフトウェアを物理的にインストールする必要がない場合、ソフトウェアをユーザと関連付けることができます。

ここで定義する使用と、ソフトウェアアプリケーションの使用頻度を反映する**実際の使用**とを混同しないでください。

ソフトウェアライセンス

ソフトウェアライセンスは、ユーザ権限（インストール可能な数、データベースの接続件数等）を記述する資産です。

例：Asset Managerデータベースへの1000アクセスを許可するライセンス。
ライセンスの契約上の側面は、契約レベルで記述します。

ライセンスの権限

ソフトウェアカウンタは、ライセンス権限をカウントし、ライセンスとカウントしたインストール/使用とを比較します。

ソフトウェアカウンタ

ソフトウェアカウンタを使用して、権限とインストール/使用カウントとを照合します。

これらのカウントはグループごとにまとめることができます（ユーザ別、コストセンタ別など）。

カウンタで実行できることを以下に挙げます。

- ソフトウェアプロバイダとの遵守を確認する
- 内部ポリシーの遵守を確認する

カウンタは、ソフトウェア以外のものをカウントするのに簡単に使用できます。

特定資格

ソフトウェアカウンタは権限とインストール/使用をカウントします。

権限に関しては、カウントの基準として使用されるレコードを識別するために単純クエリを使用できることがよくあります（たとえば、会計部署の全従業員など）。

ただし、単純クエリを常に定義できるとは限りません（例えば、使用するレコードに共通の特徴がない場合など）。

この場合、選択対象レコードが1つづつ一覧される、特定資格を定義する必要があります。

棚卸されたモデルの正常化

棚卸されたモデルの正常化は、棚卸データベースからのソフトウェアインストールモデルから、Asset Managerの限られた個数のソフトウェアインストールモデルへのマッピングにより構成されます。

これを行うことで、ソフトウェアインストールの整理と構成を簡単に効率的に行えます。

ITIL

ITIL (Information Technology Infrastructure Library) とは、ITサービス管理の方法体系です。

この方法体系は、試されて検証されたベストプラクティスからなるライブラリを構成しています。

数多くの組織がITILのトレーニングと資格認定を、コンサルタントサービスと併せて提供しています。

インストール/使用とライセンスの間のリンク

注意:

インストールとは、コンピュータ（個別のワークステーションまたはサーバ）に物理的にインストールされているソフトウェアのことです。

使用とは、インストールしないでユーザがソフトウェアにアクセスできることを意味します。例えば、インターネットブラウザ経由でアクセス可能なアプリケーションサービスの場合もこれに該当します。

ソフトウェアアプリケーションの実際の使用とは、特定ユーザに対して測定可能なアプリケーションの実使用量のことです。

以下の2つの方法が選択できます。

- **ライセンスとそのインストール/使用を直接リンクする。**

このためには、フィールドとAsset Managerデータベースでの詳細なトラッキングが必要です。

この方法を採用する場合、まずライセンスを作成し、次にインストール/使用を作成して、対応するライセンスにリンクします。

- **ライセンスとインストール/使用を別々に管理する。**

これが一番厳密な方法に見えなくても、使用を許可するライセンスの場所に関係なく、ソフトウェアのほとんどがCD-ROMまたはサーバからインストールされるので、これがもっとも現実的です。

この方法を使用すると、ライセンスを取得する限り、ライセンスが作成されます。インストールを作成するとき、または自動ネットワークスキャンでインストールするとき、インストールを個別に作成します。

ソフトウェアカウンタを使用することにより、ライセンスとインストール/使用の間に直接のリンクがなくても、これらを調整することが可能です。

ソフトウェア資産管理に関連するテーブル

ソフトウェア資産管理に関するテーブルは、次のとおりです。

表 2.1. テーブル

テーブル	使用
属性 (amNature)	以下の属性を作成します。 <ul style="list-style-type: none">■ ライセンス■ インストール/使用■ 契約
モデル (amModel)	以下のモデルを作成します。 <ul style="list-style-type: none">■ ライセンス■ インストール/使用■ 契約
棚卸されたモデル (amInventModel)	自動棚卸ツールによるインストール/使用モデルとAsset Managerデータベースのモデルとの間のマッピング
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	インスタンスを作成します。 <ul style="list-style-type: none">■ ライセンス■ インストール/使用
資産 (amAsset)	次の品目に対応するポートフォリオ品目が作成されるたびに、対応するレコードが [資産] テーブルに作成されます。 <ul style="list-style-type: none">■ すべてのライセンス。■ [管理条件] (seMgtConstraint) フィールドが「資産タグ」または「固有資産タグ」に設定されている属性に関連付けられたモデルに関連付けられた場合のインストールおよび使用 (▶ 『ポートフォリオ』ガイド、「概要」の章の「3つの管理タイプ」のセクション)。
ソフトウェアのインストール (amSoftInstall)	ソフトウェアのインストール/使用に対応するポートフォリオ品目が作成されるたびに、対応するレコードが [ソフトウェアのインストールまたは使用] テーブルに作成されます。
ライセンスのタイプ (amLicType)	このテーブルには各種のライセンスタイプが含まれています。このテーブルは、[モデル] テーブル (amModel)、[資産] テーブル (amAsset)、[ソフトウェアカウンタ] テーブルにリンクされます。

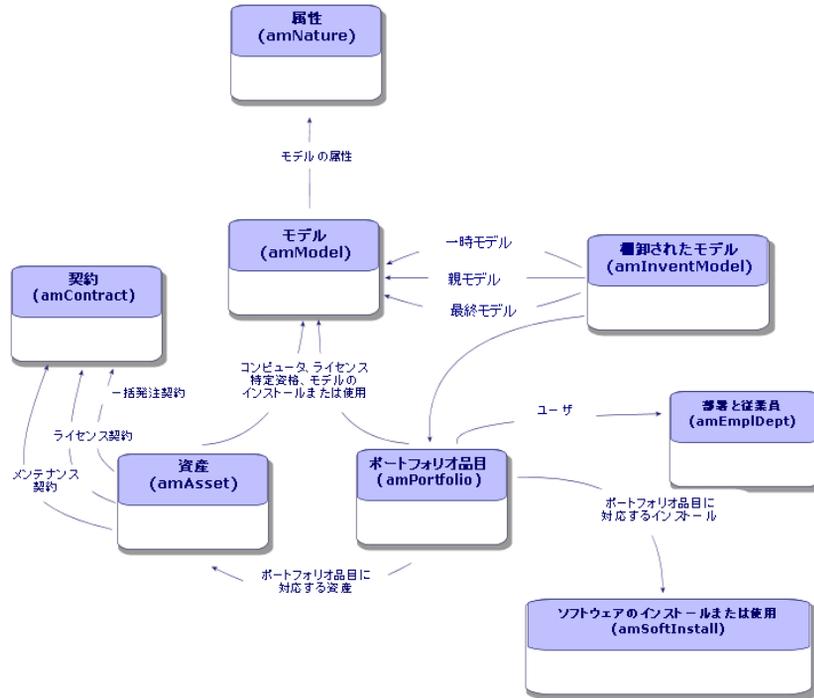
テーブル	使用
ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)	<p>カウンタを使うことで、ソフトウェアプロバイダと会社の内部方針に適合していることを確認できます。</p> <p>カウンタは、インストール/使用の数とライセンス数とを比較します。</p>
ワークフロースキーム (amWfScheme)	<p>このテーブルには、ソフトウェアライセンス管理にリンクされた特定タスクを自動化するワークフロースキームが含まれます。</p>
アクション (amAction)	<p>このテーブルには、ソフトウェアライセンス管理にリンクされた特定タスクを自動化する「ウィザード」の詳細が含まれます。</p>
契約 (amContract)	<p>このテーブルでは以下を作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 必要に応じて、取得契約（ライセンスにリンク）またはメンテナンス契約（一般にインストール、場合によってはライセンスにリンク）。 ■ Microsoft Selectタイプのマスターリース契約。 ■ ASPタイプの契約。

 **注意:**

契約は、ソフトウェアプロバイダとの合意を記述するために使用します。契約の作成は、契約で記述する必要があるASP合意を除いてオプションです。

ライセンス契約の有無に関わらず、取得した各ライセンスに対してポートフォリオ品目を作成する必要があります。

図 2.1. 物理データモデル



管理タイプ

他の資産およびポートフォリオ品目に関しては、ライセンス、インストール/使用に対する管理タイプを選択する必要があります。

これらの管理タイプは、その重要性和記述方法によって異なります。

- 非常に重要で高価値のソフトウェアに対しては、個別管理を適用します (Asset Manager、SAPなど)。
 - ▶ 『ポートフォリオ』ガイド、「ポートフォリオ品目」の章、「資産」のセクション。
- 上記のソフトウェアほどの価値はなく、大量に購入するソフトウェアに対しては、一括管理を適用します (ファイル圧縮ソフトウェアなど)。
 - ▶ 『ポートフォリオ』ガイド、「ポートフォリオ品目」の章、「ロット」のセクション。
- 無料のソフトウェアのユーザ数を把握する必要がある場合は、非個別管理を適用します (RealPlayerタイプのマルチメディアソフトウェアなど)。

- ▶ 『ポートフォリオ』ガイド、「ポートフォリオ品目」の章、「トラッキングしないロット」のセクション。

ソフトウェア資産 モジュール：実装の順序

- 1 ソフトウェアライセンス契約を作成する（▶ [ライセンス契約の管理 \[P. 37\]](#)）
- 2 ソフトウェアライセンスを作成する（▶ [ソフトウェアライセンス管理 \[P. 53\]](#)）
- 3 特定資格を作成する（▶ [ソフトウェア資格の管理 \[P. 59\]](#)）
- 4 ソフトウェアのインストール/使用の作成やインポートを実行します。（▶ [ソフトウェアのインストールと使用の管理 \[P. 63\]](#)）
- 5 ライセンスに対してインストール/使用が適合していることを確認します。（▶ [インストールのライセンスコンプライアンスを監視する \[P. 83\]](#)）
- 6 会社の状況を分析します。（▶ [レポートとグラフの表示 \[P. 115\]](#)）

レコードの作成方法

契約、ライセンス、資格、インストール/使用、および、ソフトウェアカウンタの各レコードの推奨する作成方法は、[\[ソフトウェアの管理\]](#) (sysSamLauncher) ウィザード (ナビゲーションバーの [\[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...\]](#) リンク) を使用します。このウィザードを使用すると、段階を追ってレコードを作成することができます。

重要項目:

ソフトウェア資産モジュールの使用を開始する場合は特に、ウィザードによってレコードを作成することをお勧めします。

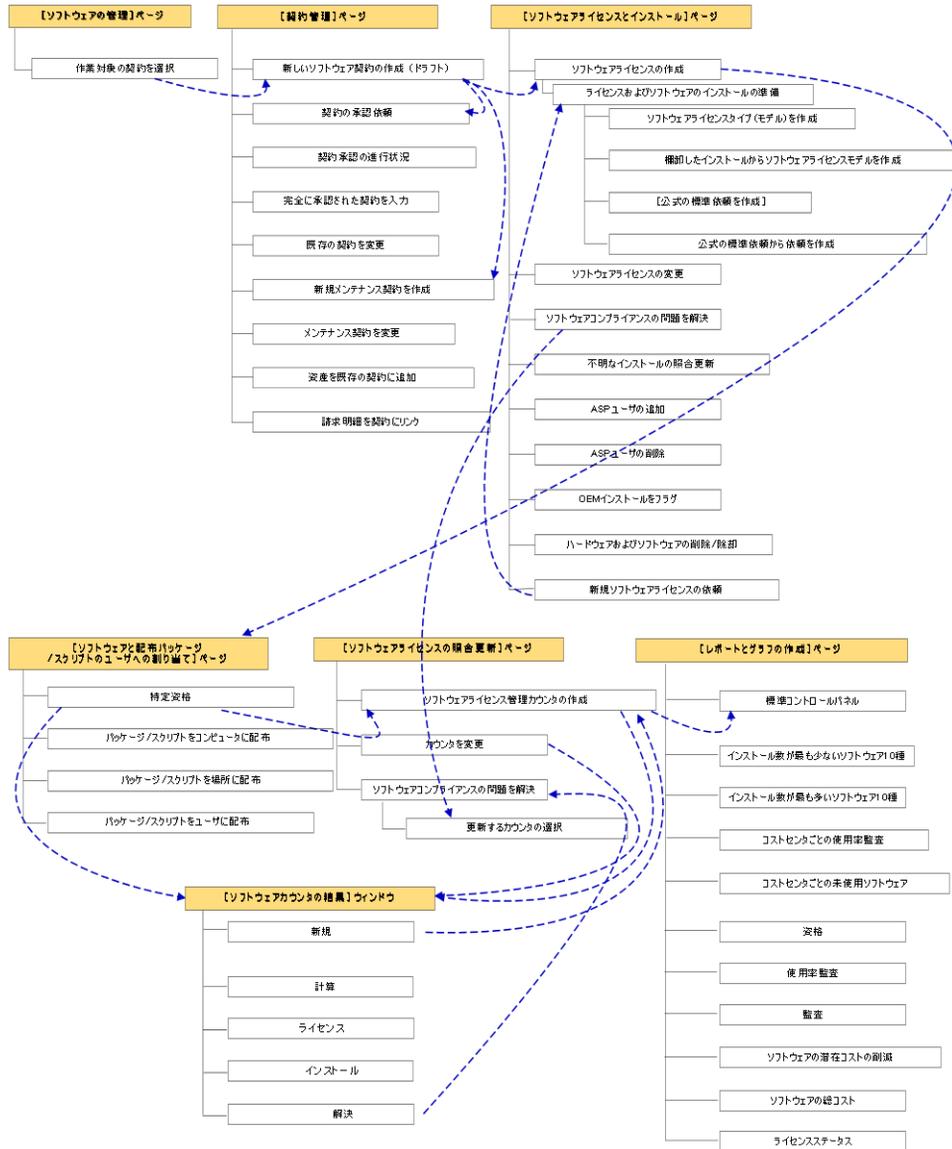
モジュールに慣れたら、ナビゲーションバーのリンクを使用して任意のテーブルのレコードに直接アクセスすることもできます（[\[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ\]](#) リンクなど）。

[ソフトウェアの管理] ウィザードの構造 (sysSamLauncher)

ここでは、[\[ソフトウェアの管理\]](#) ウィザード (ナビゲーションバーの [\[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...\]](#) リンク) の最上位レベルのページ構造の概要を説明します。

このウィザードには独自のページに、ソフトウェア契約、ライセンスとインストール、およびコンプライアンスの管理のための機能が数多く備えられており、その他のさまざまなウィザードを起動するためのリンクもあります。

Manage software wizard (sysSamLauncher)



II ソフトウェア資産モジュールを使用する

3 準備タスク

この章では、ソフトウェア資産モジュールの使用に必要な設定について説明します。

適切なライセンスをAsset Managerデータベースに挿入

Asset Managerライセンスに以下のモジュールが含まれることを確認します。

- ポートフォリオ
- 契約
- ソフトウェア資産

Windowsクライアント：必要なモジュールを起動

- 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動します。
- 2 次のモジュールを起動します（[ファイル/モジュールの管理]メニュー）。
 - 資産ポートフォリオ
 - 契約
 - ソフトウェア資産管理

専門分野データの既存データベースへのインポート

ソフトウェア資産モジュールをデータベースと併用するには、専門分野データをインポートする必要があります。

データベース作成時の専門分野データのインポート

『管理』ガイドの「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」の章、「Asset Manager Application Designerを使ってデータベース構造を作成する」のセクションに記述されている手順に従います。

【インポートするデータ】 ページで、次のオプションを選択します。

- ソフトウェア資産管理 - 専門分野データ
- 契約 - 専門分野データ

専門分野データの既存データベースへのインポート

- 1 Asset Manager Application Designerを起動します。
- 2 【ファイル／開く】メニューを選択します。
- 3 【データベース記述ファイルを開く（新規データベースの作成）】オプションを選択します。
- 4 確定します（【OK】ボタン）。
- 5 「gbbase.xml」ファイルを選択します。このファイルは、Asset Manager インストールフォルダ（通常：C:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30 xx）のconfigのサブフォルダにあります。
- 6 ファイルを開きます（【開く】ボタン）。
- 7 データベース作成ウィザードを開始します（【アクション／データベースの作成】メニュー）。
- 8 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページ間の移動は【次へ】ボタン、【戻る】ボタンを使用します）。

フィールド	値
【SQLスクリプトの生成/データベースの作成】 ページ	
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。（既存のデータベースを選択する場合は、変更できます）
作成	専門分野データをインポートします。
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しません。
【作成パラメータ】 ページ	

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。 注意: Asset Managerデータベース管理者は、[部署名/姓] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている[部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードです。 データベース接続ログインは[ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されます。管理者名は「Admin」です。 パスワードは[パスワード] (LoginPassword) フィールドに保存されます。
[インポートするデータ] ページ 使用可能データ	次の項目を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェア資産管理 - 専門分野データ ■ 契約 - 専門分野データ
エラー発生時にインポートを中止	問題が発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

9 ウィザードで定義したオプションを実行します（[完了] ボタン）。

Asset Managerのインストールの詳細については

『インストールとアップグレード』ガイドを参照してください。

4 ライセンス契約の管理

ここでは、Asset Managerによるライセンス契約管理の方法について説明します。

ライセンス契約は、ソフトウェアプロバイダおよびベンダと決められた条件を記述するために使用されます。

重要項目:

ライセンス契約を実際のライセンス自体（取得したライセンス権限を記述するポートフォリオ品目）と混同してはなりません。

取得した権限と消費した権限を一致させるために、カウンタでは契約でなくてライセンスを基盤として使用します。

ライセンス契約を作成する

ここでは、新しい契約を作成する方法を説明します。

方法1： [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 ソフトウェアプロバイダおよびベンダと締結した契約を収集します。

- 2 [ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク）。
- 3 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[ソフトウェア契約] セクションの [契約を作成] をクリックします。
- 6 [ソフトウェア契約を作成]（sysSamCreateSoftContract）ウィザードが開始します。
必要に応じてウィザードに入力します。
[完了] をクリックして、契約のすべてのパラメータを確定します。
[ソフトウェア契約を作成] ウィザードによって契約が作成されます。

方法2：メニューを使用する

- 1 ソフトウェアプロバイダと締結した契約を収集します。
- 2 契約を表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約] リンク）。
- 3 [新規作成] をクリックして、新しいレコードを追加します。
- 4 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	説明
タイプ (seType)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [マスターリース]：ソフトウェアベンダのマスターリースがある場合 ■ [ライセンス]：厳密な意味でのライセンス契約の場合 ■ [保険]：サポート契約、アップグレード、ソフトウェアアシュアランスなどの場合
[全般] タブ 親契約 (Parent)	ライセンス契約をマスターリースにリンクするか、保険契約をライセンス契約にリンクするには、
[ライセンス] タブ ライセンス契約タイプ (seLicenseType)	ライセンスタイプを指定します。

フィールドまたはリンク	説明
タブリスト（[ライセンス]（Licenses）リンク）	ライセンス契約で取得されたライセンス権限を記述する資産

【ソフトウェアの管理】（sysSamLauncher）ウィザードで対象の契約を選択する

ここでは、契約をデフォルトで【ソフトウェアの管理】ウィザードに関連付ける方法について説明します。

デフォルトの契約は、【ソフトウェアの管理】ウィザードからトリガされる他のウィザードで考慮されます。

注意:

選択した契約は、ウィザードを終了してもそのウィザードに関連付けられたまま残ります。

対象の契約は、Asset Managerデータベースログインに関連付けられているので、ログインごとに異なります。

- 1 【ソフトウェアの管理】ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...】リンク）。
- 2 【ソフトウェアの管理アクションを選択...】ページで、【別の対象となるソフトウェア契約を選択】ボタンをクリックします。
- 3 これにより、【対象のソフトウェア契約を選択】（sysSamGetEnv）ウィザードが起動します。

必要に応じてウィザードに入力します。

【OK】をクリックして、契約の選択を確定します。

このガイドで、**対象の契約**とは、Asset Managerデータベースへの任意のログインに対する【ソフトウェアの管理】ウィザードに関連付けられている現行契約を指します。

自動契約承認

ここでは、Asset Managerによる契約承認の自動化の仕組みとその設定および組み込み方法について説明します。

概要

ソフトウェア資産モジュールに属するシステムデータには、**契約承認** (sysSam_CNTR_APPR) というワークフローが含まれます。
このワークフロースキームによって、ライセンス契約の承認が自動化されます。
このワークフロースキームを次に説明します。

表 4.1. ライセンス契約承認 - 契約承認ワークフロースキーム

ワークフロースキームをトリガするイベント	ワークフロースキームは、次のいずれかのイベントが発生したときに開始します。 <ul style="list-style-type: none">■ [契約] (amContract) テーブルにレコードが追加される。■ [契約] (amContract) テーブル、[ステータス] (Status) フィールドが更新される。									
ワークフローの実行を継続するために必要な条件	ワークフロースキームは、次のようにフィールドに値が設定されている場合に実行を継続します。 <table border="1"><thead><tr><th>テーブル名</th><th>フィールド名</th><th>フィールド値</th></tr></thead><tbody><tr><td>契約 (amContract)</td><td>ステータス (Status)</td><td>SAM_WORKFLOW</td></tr><tr><td>契約 (amContract)</td><td>契約ステータス (seStatus)</td><td>[承認待ち] (13) または [更新承認待ち] (33)</td></tr></tbody></table>	テーブル名	フィールド名	フィールド値	契約 (amContract)	ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW	契約 (amContract)	契約ステータス (seStatus)	[承認待ち] (13) または [更新承認待ち] (33)
テーブル名	フィールド名	フィールド値								
契約 (amContract)	ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW								
契約 (amContract)	契約ステータス (seStatus)	[承認待ち] (13) または [更新承認待ち] (33)								
ワークフロースキームの起動と実行に Asset Manager Automated Process Manager が必要か？	いいえ									

- ワークフロースキームの概要説明
- 1 このワークフロースキームでは、ワークフロースキームによって選択されたグループに割り当てられる予算面での承認依頼が作成されます。
この承認依頼は、グループの責任者に割り当てられたワークフローのアクティビティによって表示されます。このワークフローのアクティビティは、グループ全員に表示されます。また、メッセージがグループの責任者に送信されます。
 - 2 この承認依頼を予算面での承認グループのいずれかのメンバーが承認する場合、ワークフローによって、**請求面での承認**、**法務面での承認**、**財務面での承認**、および**技術面での承認**グループに対する承認依頼が作成されます。
これらの承認依頼は、グループの責任者に割り当てられたワークフローのアクティビティによってそれぞれ表示されます。これらのワークフローのアクティビティは、該当するグループ全員に表示されます。また、メッセージが各グループの責任者に送信されます。
 - 3 4つの承認依頼が承認されたら、契約の責任者がメッセージを受信します。
 - 4 契約が1つ以上の承認グループに却下されたら、契約の責任者にメッセージが通知され、契約を現状のまま残すか承認を受けるために変更を加えて再提出するかを選択するよう促されます。

予算での承認グループの選択方法を設定する

適切な予算面での承認グループを選択するために、デフォルトではワークフロースキームは次のように進みます。

- 1 契約にリンクされたすべてのグループを検索します（従業員グループの詳細の [契約] タブ）。
- 2 [バーコード] (BarCode) フィールドが「**STRBUDGET**」で始まる従業員グループを選択します。
- 3 従業員グループが見つからない場合、[バーコード] (BarCode) フィールドが「**sysSam_CNTR_BUD**」に設定されているグループに依頼承認が割り当てられます。

[契約承認] ワークフロースキームを使用するためには、次の操作を行う必要があります。

- 1 グループを表示します（[組織管理/処理/従業員グループ] リンク）。
- 2 特定のグループによって承認された各契約に対して:
 - a [新規作成] をクリックして新規のグループを作成するか、既存グループの詳細画面を表示します。
 - b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
バーコード (BarCode)	「 STRBUDGET 」で始まる名前。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが 契約承認 ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[明細] タブ	
タブリスト ([メンバー] (Members) リンク)	グループのメンバーは、 契約承認 ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。
[契約] タブ	
タブリスト ([契約] (Contracts) リンク)	グループによって予算の観点から承認されたその契約を追加します。

 **重要項目:**

このシステムが機能するには、[バーコード] (BarCode) フィールドが「**STRBUDGET**」で始まる単一グループのみに、承認対象の契約が含まれている必要があります。

- 3 デフォルトグループを使用して承認する契約に対して:
 - a [バーコード] (BarCode) フィールドが「**sysSam_CNTR_BUD**」に設定された**予算面での承認**グループの詳細画面を表示します。
 - b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが 契約承認 ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[明細] タブ	
タブリスト ([メンバー] (Members) リンク)	グループのメンバーは、 契約承認 ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。

 **重要項目:**

このグループを任意の契約に使用するには、[バーコード] (BarCode) フィールドが「**STRBUDGET**」で始まるグループにこの契約が含まれない必要があります。

その他の承認グループを設定する

その他の承認は、次の承認グループによって処理されます。

- 請求面での承認 (sysSam_CNTR_BILL)
- 法務面での承認 (sysSam_CNTR_JURI)
- 財務面での承認 (sysSam_CNTR_FINA)
- 技術面での承認 (sysSam_CNTR_OPER)

これらのグループは、次のように定義する必要があります。

- 1 グループを表示します（[【組織管理／処理／従業員グループ】](#) リンク）。
- 2 これらのグループの詳細画面を1つずつ表示します。
- 3 次のフィールドとリンクに値を入力します。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[明細] タブ	
タブリスト（ 【メンバー】 (Members) リンク）	グループのメンバーは、契約承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。

契約承認ワークフロースキームのカスタマイズ

注意:

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

この契約承認はほんの一例です。

おそらく、特に次の部分でユーザ自身の承認プロセスに合わせるカスタマイズが必要になります。

- 実行する承認タイプ（予算面、財務面、技術面など）
- 承認者を選択する方法（固定ユーザ、式で表されたユーザ、固定グループ、式で表されたグループ）

ここでは、例えばどのように財務の承認グループを選択する方法を変更して固定だけではなくて推定になるようにするかを示します。

- 1 ワークフロースキームを表示します（ナビゲーションバーの[【管理／ワークフロー／ワークフロースキーム】](#) リンク）。
- 2 [【契約承認】](#) (sysSam_CNTR_APPR) スキームを選択します。

- 3 契約承認：財務（SAM_APPR_CNTR_FINA）アクティビティを表示します（[契約承認：財務] ボックスのショートカットメニュー [アクティビティの詳細] ）。
- 4 [パラメータ] タブを表示します。
- 5 [担当者] リンクの詳細画面を表示します（拡大鏡をクリックします）。
- 6 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
コンテキスト (ContextTable)	契約 (amContract)
タイプ (seType)	式で表されたグループ
スクリプト (memScript)	<pre>Const STR<承認タイプ>="CNTR<承認タイプ>" RetVal=amDbGetLong("SELECT g.lGroupId FROM amRelEmplGrpCntr r, amEmplGroup g WHERE r.lGroupId=g.lGroupId AND r.lCntrId='&[lCntrId] & ' AND g.BarCode LIKE ' & STR<承認タイプ> & '%"") if RetVal=0 Then RetVal=amDbGetLong("SELECT lGroupId FROM amEmplGroup WHERE BarCode='sysSam_CNTR_<承認タイプ>'")</pre> <p><承認タイプ>変数をFINAに置き換える</p> <p>ヒント:</p> <p>別の承認グループタイプを選択する方法をカスタマイズする場合は、同じスクリプトを使用し、<承認タイプ>を次に示す別の値に置き換えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 請求面での承認：BILL ■ 法律面での承認：LEGA ■ 技術面での承認：OPER

- 7 変更を保存し、[閉じる] をクリックしてワークフローの役割の詳細画面を閉じます。
- 8 [閉じる] をクリックして、アクティビティの詳細画面を閉じます。
- 9 [閉じる] をクリックして、ワークフロースキームの詳細画面を閉じます。
- 10 グループを表示します（[組織管理/処理/従業員グループ] リンク）。
- 11 特定のグループによって承認される契約に対して:
 - a [新規作成] をクリックして新規のグループを作成するか、既存グループの詳細画面を表示します。
 - b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
バーコード (BarCode)	CNTR<承認タイプ>で始まる名前。<承認タイプ>は、承認グループ選択のスクリプトで定義された値であり、この例ではFINAです。
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[明細] タブ	
タブリスト ([メンバー] (Members) リンク)	グループのメンバーは、契約承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。
[契約] タブ	
タブリスト ([契約] (Contracts) リンク)	グループによって財務の観点から承認された契約を追加します。

12 特定グループを使用して承認する契約に対して：

- a [バーコード] (BarCode) フィールドが「**sysSam_CNTR_FINA**」に設定されているグループの詳細画面を表示します。
- b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[明細] タブ	
タブリスト ([メンバー] (Members) リンク)	グループのメンバーは、契約承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認します。

重要項目：

このグループを任意の契約に使用するには、[バーコード] (BarCode) フィールドが「CNTRFINA」で始まるグループにこの契約が含まれていないことが必要です。

対象の契約の承認を依頼する

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、ウィザードが対象の契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[契約の承認依頼] をクリックします。
- 5 これにより、[契約の承認依頼] (sysSamReqContractApproval) ウィザードが開始します。

[完了] をクリックして、契約承認依頼を確定します。

このウィザードによって、対象の契約の次に示すフィールドおよびリンクが変更されます。

フィールド名	フィールド値
ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW
契約ステータス (seStatus)	承認待ち

これらの変更によって、現在の契約の**契約承認** (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローがトリガされます (▶ 概要 [P. 40])。

対象の契約の承認状況を表示する

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、ウィザードの対象の契約が、検証プロセスを確認したい契約であることを確認してから、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[承認進行状況を表示] をクリックします。
- 5 これにより、**契約承認** (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローの進行状況を示す画面が表示されます (▶ 概要 [P. 40])。

契約の承認依頼を承認または却下する

依頼された各承認に対して、**契約承認**ワークフロースキームからワークフローのアクティビティが作成されます。

これらのワークフローのアクティビティは、様々な承認のグループの責任者に割り当てられます。

ワークフロースキームは、責任者とそのタスクが割り当てられたグループのメンバーに対して表示されます。

承認依頼を受諾または却下するには：

- 1 責任者またはグループメンバーの一人としてログインし、**Asset Manager**に接続します。
- 2 現在のタスクを表示します（ナビゲーションバーの**〔資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク〕**リンク）。
- 3 承認依頼に対応するタスクを選択します。
- 4 ワークフロータスクを確認します。
- 5 **〔契約を承認〕**または**〔契約を却下〕**のいずれかをクリックします。

契約の承認サイクルを再開始する

契約が却下された場合、ワークフロースキームによって契約責任者にメッセージが送信されます。

契約の処理方法を決定するには：

- 1 契約責任者のログインで**Asset Manager**データベースに接続します。
- 2 メッセージを表示します（ナビゲーションバーの**〔管理/システム/自分のメッセージ〕**リンク）。
- 3 却下通知メッセージの詳細画面で、**〔参照オブジェクト〕**をクリックして、契約の詳細を参照します。
- 4 契約を変更します。
- 5 現在のタスクを表示します（ナビゲーションバーの**〔資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク〕**リンク）。
- 6 承認の却下に該当するタスクを選択します。
- 7 ワークフロータスクを確認します。
- 8 承認サイクルを再開始する場合は**〔はい〕**をクリックし、処理を終了する場合は**〔いいえ〕**をクリックします。

〔はい〕 をクリックした場合、ワークフローのアクティビティによって、承認対象の契約内で次に示すフィールドおよびリンクが変更されます。

フィールド名	フィールド値
ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW

フィールド名	フィールド値
契約ステータス (seStatus)	承認待ち

これらの変更によって、現在の契約の**契約承認** (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローがトリガされます (▶ [概要 \[P. 40\]](#))。

ライセンス契約を変更する

このセクションでは、既存の契約を変更する方法について説明します。

方法1: [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 [ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[ソフトウェア契約] セクションの [契約を変更] をクリックします。
- 5 [ソフトウェア契約を作成] (sysSamCreateSoftContract) ウィザードが開始します。

必要に応じてウィザードに入力します。

[完了] をクリックして、契約のすべてのパラメータを確定します。

ウィザードによって契約が変更されます。

方法2: メニューを使用する

- 1 契約を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約] リンク)。
- 2 変更対象の契約を選択します。
- 3 契約を変更します。
- 4 [変更] (Windowsクライアント) または [保存] (Webクライアント) をクリックして、変更を確定します。

新規メンテナンス契約を契約ライセンスに関連付ける

- 1 【ソフトウェアの管理】 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 【ソフトウェアの管理アクションを選択...】 ページで、【ソフトウェア契約の管理】 オプションを選択します。
- 3 【次へ】 をクリックします。
- 4 【ソフトウェア契約の管理】 ページで、メンテナンス契約セクションの【契約を作成】 をクリックします。
- 5 これにより、【契約を作成】 (BstCntrCreateContract) ウィザードが開始します。
ウィザード内のページに入力します。
【完了】 をクリックして入力事項を確定します。
【ソフトウェア契約を作成】 ウィザードによって、メンテナンス契約が作成され、対象の契約にリンクされます。

対象の契約に関連付けられているメンテナンス契約を変更する

- 1 【ソフトウェアの管理】 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 【ソフトウェアの管理アクションを選択...】 ページで、ウィザードの対象の契約が、これから変更しようとしているメンテナンス契約の対象となるライセンス契約であることを確認してから、【ソフトウェア契約の管理】 オプションを選択します。
- 3 【次へ】 をクリックします。
- 4 【ソフトウェアの管理アクションを選択...】 ページで、【メンテナンス契約】 セクションの【契約を変更】 をクリックします。
- 5 これにより、対象の契約に関連付けられているメンテナンス契約の詳細画面が表示されます。
関連付けられている契約を変更します。
【変更】 (Windowsクライアント) または【保存】 (Webクライアント) をクリックして、変更を確定します。

対象の契約に資産を追加する

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、ウィザードが資産の追加先となる対象の契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[契約に資産を追加] をクリックします。
- 5 これにより、対象の契約にまだリンクされていない [資産] (amAsset) タブ内のレコードが一覧表示されます。
- 6 1つまたは複数の資産を選択します。
- 7 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る] を使用)。
- 8 [完了] をクリックして入力事項を確定します。
これにより、資産が対象の契約にリンクされます (契約の詳細画面の [資産] タブと、資産の詳細画面の [契約] タブに表示されます)。
- 9 [OK] をクリックして、ウィザードを終了します。

請求明細を対象の契約にリンクする

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、ウィザードが請求明細の追加先となる対象の契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[請求明細をリンク] をクリックします。
- 5 これにより、[契約に請求明細をリンク] (sysSamLinkInvoices2Cntr) ウィザードが開始します。
- 6 ウィザードのページに従って入力します (ウィザードページ間の移動には [次へ]、[戻る] ボタンを使用)。

- 7 **【完了】** をクリックして入力事項を確定します。
これにより、請求明細が対象の契約にリンクされます（請求明細の **【関連付けられている契約】**（CntrInvLine）リンク）。
- 8 **【OK】** をクリックして、ウィザードを終了します。

5 ソフトウェアライセンス管理

ソフトウェアライセンスはポートフォリオ品目です（▶『ポートフォリオ』ガイドの「ポートフォリオ品目」）。ほかのすべてのポートフォリオ品目の場合と同様に、この品目について、個別、一括または非個別管理を選択できます。

ソフトウェアライセンスの属性を作成する

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 資産構成 / 属性] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールド	値
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	なし
ライセンス (bSoftLicense)	はい

注意:

- 1つの属性の作成のみが必要であることが分かります。
- 1つの属性を使用して、すべてのライセンスモデルを作成できます。

属性の詳細に関しては、『ポートフォリオ』ガイドの「ポートフォリオ品目」の章、「属性」のセクションを参照してください。

ソフトウェアライセンスモデルを作成する

方法1：[ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

▶ ソフトウェアライセンスを作成する [P. 55]

方法2：メニューを使用する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/モデル] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値についてのコメント
[全般] タブ	
属性 (Nature)	[オーバーフローテーブル] (seOverflowTbl) フィールドが「なし」に設定され、[ライセンス] オプションが選択されている属性

ソフトウェアライセンスタイプを作成する

- 1 [ライセンスのタイプ] (amLicType) テーブルを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ライセンスのタイプ] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [選択可能(モデル、資産、カウンタ)] (bSelectable) ボックスをチェックします。



注意:

このボックスをチェックしなければ、作成されるレコードはテーブルの階層グループとして使用されるだけで、ライセンスタイプとして選択できません。

ソフトウェアライセンスを作成する

方法1： [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 [ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、 [ライセンスを作成] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、 [新規ソフトウェアライセンスを作成] (sysSamCreateLicpfi) ウィザードが開始します。

必要に応じてウィザードに入力します。

特に、ソフトウェアライセンスを作成するための適切なモデルがまだない場合は、 [新規ソフトウェアライセンスを作成] のページの [ライセンスおよびソフトウェアのインストールを準備] をクリックします。

これにより、 [ライセンスおよびソフトウェアのインストールを準備] (sysSamLicenseProcess) ウィザードが開始します。

次の2つのボタンのいずれかをクリックします。

- [ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成] : これにより、ウィザード [ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成] (sysSamCreateLicModel) が開始します。

このウィザードは、既存のモデル ([amModel] テーブル) またはカタログ製品 ([amCatProduct] テーブル) からソフトウェアライセンスモデルを作成するために使用されます。

- [棚卸したインストールからソフトウェアライセンスモデルを作成] : これにより、 [インストールからソフトウェアライセンスモデルを作成] (sysSamCreateLicModFromInst) ウィザードが開始します。

このウィザードは、棚卸済インストールからソフトウェアライセンスモデルを作成するために使用されます。

- 6 [完了] をクリックして、すべてのパラメータを確定します。
ウィザードによって、ライセンスが作成されます。

方法2：メニューを使用する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの[\[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目\]](#)リンク）。
- 2 適切なモデルを基にしてポートフォリオ品目を作成します。
- 3 特に、[\[ライセンス\]](#)タブに入力します。

ソフトウェアライセンスを変更する

方法1：[ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 [\[ソフトウェアの管理\] ウィザード](#)を起動します（ナビゲーションバーの[\[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...\]](#)リンク）。
- 2 [\[ソフトウェアの管理アクションを選択...\]](#) ページで、[\[ソフトウェアライセンスとインストールの管理\]](#) オプションを選択します。
- 3 [\[次へ\]](#) をクリックします。
- 4 [\[ソフトウェアライセンスとインストールの管理\]](#) ページで、[\[ライセンスを変更\]](#) ボタンをクリックします。
- 5 [\[ソフトウェアライセンスの変更\]](#) (sysSamModifyLicpfi) ウィザードがトリガされます。
- 6 ウィザードのページに従って入力します（ウィザードページ間の移動には[\[次へ\]](#)、[\[戻る\]](#) ボタンを使用）。
- 7 [\[完了\]](#) をクリックして、すべてのパラメータを確定します。
ウィザードがライセンスを変更します。
- 8 [\[OK\]](#) をクリックして、ウィザードを終了します。

方法2：メニューを使用する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの[\[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目\]](#)リンク）。
- 2 変更対象のライセンスを選択し変更します。
- 3 [\[変更\]](#) (Windowsクライアント) または [\[保存\]](#) (Webクライアント) をクリックして、変更を確定します。

新規ソフトウェアライセンスを依頼する

方法1： [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 特定資格に関連付けられたユーザのログインを使用して、データベースに接続します。
- 2 [ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 3 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、[ライセンスを依頼] ボタンをクリックします。

これにより、[ソフトウェアライセンスを依頼] (sysSamCreateLicReq) ウィザードが開始します。

- 6 ウィザードのページに従って入力します (ウィザードページ間の移動には [次へ]、[戻る] ボタンを使用)。

特に、ソフトウェアライセンスを作成するための適切なモデルがまだない場合は、[新規ソフトウェアライセンスを作成] のページの [ライセンスおよびソフトウェアのインストールを準備] をクリックします。

これにより、[ライセンスおよびソフトウェアのインストールを準備] (sysSamLicenseProcess) ウィザードが開始します。

次の2つのボタンのいずれかをクリックします。

- [ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成] : これにより、ウィザード [ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成] (sysSamCreateLicModel) が開始します。

このウィザードは、既存のモデル ([amModel] テーブル) またはカタログ製品 ([amCatProduct] テーブル) からソフトウェアライセンスモデルを作成するために使用されます。

- [棚卸したインストールからソフトウェアライセンスモデルを作成] : これにより、[インストールからソフトウェアライセンスモデルを作成] (sysSamCreateLicModFromInst) ウィザードが開始します。

このウィザードは、棚卸済インストールからソフトウェアライセンスモデルを作成するために使用されます。

- 7 [完了] をクリックして、すべてのパラメータを確定します。

ウィザードによって依頼が作成されます。

- 8 **[OK]** をクリックして、ウィザードを終了します。

方法2：メニューを使用する

- 1 社内依頼を表示します（ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/社内依頼]** リンク）。
- 2 **[新規作成]** をクリックします。

ライセンスを削除する

- 1 **[ソフトウェアの管理]**（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理...]** リンク）。
- 2 **[ソフトウェアの管理アクションを選択...]** ページで、**[ソフトウェアライセンスとインストールの管理]** オプションを選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。
- 4 **[ソフトウェアライセンスとインストールの管理]** ページで、**[ポートフォリオからライセンスまたはインストールを削除]** ボタンをクリックします。
- 5 これにより、**[ポートフォリオ品目の除却]**（AstRetire）ウィザードが開始します。

必要に応じてウィザードに入力します。

[完了] をクリックして、すべてのパラメータを確定します。

ウィザードによって、定義されたタスクが実行されます。

6 ソフトウェア資格の管理

ライセンスのための特定資格を作成する

ここでは、ライセンス権限を指定されたユーザやコンピュータに割り当てる、新規特定資格を作成する方法について説明します。

方法1： [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 [ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除] を選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除] ページで、[ソフトウェア (ユーザ/インストール権限)を割り当て] をクリックします。
これにより、[ユーザ/インストール権限を割り当て] (sysSamEntitleUserOrItem) ウィザードが開始します。
- 5 最初のページ ([実行するアクションを選択してください。]) で、[特定資格を追加] オプションを選択します。
- 6 必要に応じてウィザードに入力します。
- 7 すべてのパラメータを確定します ([完了] ボタン)。

- 8 ウィザードを終了します（**[OK]** ボタン）。

方法2：メニューを使用する

- 1 特定資格を表示します（ナビゲーションバーの **[組織管理/処理/特定資格]** リンク）。
- 2 **[新規作成]** をクリックします。

ライセンスの特定資格を変更する

ここでは、ライセンス権限を指定されたユーザやコンピュータに割り当てる特定資格を変更する方法について説明します。

方法1：[ソフトウェアの管理] ウィザード（sysSamLauncher）を使用する

- 1 **[ソフトウェアの管理]** ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...]** リンク）。
- 2 **[ソフトウェアの管理アクションを選択...]** ページで、**[ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除]** を選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。
- 4 **[ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除]** ページで、**[ソフトウェア(ユーザ/インストール権限)を割り当て]** をクリックします。
これにより、**[ユーザ/インストール権限を割り当て]**（sysSamEntitleUserOrItem）ウィザードが開始します。
- 5 最初のページ（**[実行するアクションを選択してください。]**）で、**[特定資格を変更]** オプションを選択します。
- 6 必要に応じてウィザードに入力します。
- 7 すべてのパラメータを確定します（**[完了]** ボタン）。
- 8 ウィザードを終了します（**[OK]** ボタン）。

方法2：メニューを使用する

- 1 特定資格を表示します（ナビゲーションバーの **[組織管理/処理/特定資格]** リンク）。
- 2 変更する資格を選択します
- 3 選択した資格を変更します。

- 4 **【変更】**（Windowsクライアント）または**【保存】**（Webクライアント）をクリックして、変更を保存します。

ライセンスの特定資格を削除する

ここでは、ライセンス権限を指定されたユーザやコンピュータに割り当てる特定資格を削除する方法について説明します。

- 1 特定資格を表示します（ナビゲーションバーの**【組織管理／処理／特定資格】**リンク）。
- 2 削除する資格を選択します。
- 3 **【削除】**をクリックします。

7 ソフトウェアのインストールと使用の管理

【ソフトウェアのインストールまたは使用】（amSoftInstall）テーブルにすべてのソフトウェアインストールが含まれます。これらのソフトウェアインストールは、次の2つの異なる方法でデータベースに記述できます。

- 同じモデルを持つポートフォリオ品目とリンクさせる
ポートフォリオ品目が作成される時、これらのソフトウェアインストールをより詳細に記述できます。例えば、ソフトウェアインストールをビジネスサービスにリンクできます。
ただし、各ソフトウェアインストールのポートフォリオ品目を作成すると、データベースのサイズがかなり増大し、その結果、パフォーマンスが低下します。
- どのポートフォリオ品目ともリンクさせない
このタイプのインストールを行うと、【ポートフォリオ品目】（amPortfolio）テーブルの負荷が削減され、パフォーマンスの問題を回避できます。

インストール/使用を自動作成する

インストール/使用のステータスを反映する最も効率的で信頼性の高い方法は、**HP Discovery and Dependency Mapping Inventory**のような自動ネットワーク棚卸ツールを使用することです。



注意:

他の棚卸ツールも使用できます。必要な変更をHP Connect-Itシナリオに加えて、Asset Manager Automated Process Managerモジュールがその棚卸ソフトウェアと連動するようにします。

これらのツールを使用することにより、コンピュータごとのインストール数を把握し、その情報をAsset Managerデータベースに反映させることができます。



ヒント:

このプロセスでインポートされるすべてのソフトウェアインストールはポートフォリオ品目とリンクされません（[インストールに対応するポートフォリオ品目がない] ボックスがチェックされます）。

ポートフォリオ品目をインポートされたソフトウェアインストールに後でリンクする場合は、「インストール/使用の作成後 [P. 76]」を参照してください。

データベースからHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryで取得した結果をインポートするために環境を設定する

- 1 HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを使ってソフトウェア棚卸を実行します。Asset Manager 9.30付属のHP Connect-Itサポート一覧表で指定されたバージョンを使用します。
- 2 Asset Manager 9.30で提供されるバージョンのHP Connect-Itをインストールします。
- 3 HP Connect-Itを開始します。
- 4 シナリオ「ddmiam_swnorm.scn」（HP Connect-Itインストール先フォルダの「scenario\ed\ddmi<HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号>\ddmi<HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号>am<Asset Managerバージョン番号>」サブフォルダ内）を開きます（**[File/Open]** メニュー）。
例：「C:\Program Files\HP\Connect-It <バージョン番号> <言語>\scenario\ed\ddmi77am93」。
- 5 **[Discovery and Dependency Mapping Inventory]** コネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択し、ショートカットメニューの**[Configure connector]**）。
[Select a connection type] ウィザードページで、接続タイプを選択してから、ウィザード内の関連ページに入力します。
- 6 **[資産管理]** コネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択、ショートカットメニュー**[Configure connector]**）。

設定ウィザードの **[Define the connection parameters]** ページを入力します。

- 7 変更内容を保存して、HP Connect-Itを終了します。
- 8 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 9 Asset Managerデータベースに接続します（**[ファイル/データベースに接続]**）。
- 10 モジュールを表示します（**[ツール/モジュールの設定]** メニュー）。
- 11 **DDMI (Discovery and Dependency Mapping Inventory)**結果を使用して、ソフトウェア正規化情報を更新モジュール（DDMISyncSoftwareNormalization）を選択します。
- 12 **[有効]** オプションを選択します。
- 13 **[ユーザデータ]** フィールドを次のように変更します。

```
"$connectit_exedir$/conitsvc.exe" -once -wpplog '$connectit_exedir$/.scenario/ed/ddmi77/ddmi77am$version$/ddmiam_swnorm.scn' -dc:'Asset Management.SERVER'=$cnx$ -dc:'Asset Management.LOGIN'=$login$ -dc:'Asset Management.TEXTPASSWORD'=$pwd$
```

数値**77**をインストール済HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryバージョン番号に置き換えてください。

- 14 **DDMI (Discovery and Dependency Mapping Inventory)**結果を使用して、ソフトウェア正規化情報を更新モジュールの更新頻度を定義します（**[検証スケジュール]** フレーム）。
- 15 変更を保存します（**[変更]** ボタン）。
- 16 Asset Manager Automated Process Managerを終了します。

モデルの正常化（sysSam_ModelNorm）グループの設定

このグループは、**モデルの正常化**：'**amInventModel**' が追加されました（**sysInvExtModelNew**）からワークフロースキームを割り当てるために使用されます（▶新しいレコードが**[棚卸されたモデル]**（**amInventModel**）テーブル内に作成された場合、または**[棚卸されたモデル]**テーブル内の既存のレコードがソフトウェアインストールに初めてリンクされた場合 [P. 68]）。

ワークフロータスクの処理が可能な人を指定するには：

- 1 グループを表示します（**[組織管理/処理/従業員グループ]** リンク）。
- 2 **モデルの正常化（sysSam_ModelNorm）**グループを表示します。
- 3 少なくとも次のリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	コメント
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定した人は、モデルの正常化: 'amInventModel' が追加されましたワークフロースキームによって作成されたタスクを確認します。
[明細] タブ	
メンバー (Members)	グループのメンバーは、モデルの正常化: 'amInventModel' が追加されましたワークフローによって作成されたワークフロースキームを確認します。

HP Discovery and Dependency Mapping Inventory 棚卸データベースをインポートする

棚卸データベースのインポート

Asset Manager Automated Process Managerは、適切なモジュールが動作中にバックグラウンドで実行すると、HP Discovery and Dependency Mapping Inventory 棚卸データベースから情報を自動的にインポートします。

棚卸データベースからインポートされる情報

棚卸データベースには、棚卸されるすべてのコンピュータが含まれています。棚卸される各コンピュータには、コンポーネント（スクリーン、プリンタなど）と識別済みソフトウェアが添付されています。

Asset Managerデータベースでのインポート結果

各コンピュータと各コンピュータコンポーネントに対してポートフォリオ品目が1つ作成され、そのコンピュータ上で識別される各ソフトウェアアプリケーションに対してソフトウェアインストールテーブル内にレコードが1つ作成されます。

モデルの正常化時にインポートされるすべてのソフトウェアインストールは、同じモデルとリンクされたポートフォリオ品目を持ちません（【インストールに対応するポートフォリオ品目がない】（bCompact）ボックスがチェックされません）。したがって、ソフトウェアインストールと同じモデルにリンクされたポートフォリオ品目は作成されません。

これからソフトウェアをもっと詳細に見てみましょう。

棚卸される各ソフトウェアに対して：

1 HP Connect-ItはAsset Manager内で、【棚卸されたモデル】

(amInventModel) テーブルに【棚卸用キー】 (InventoryKey) フィールドが以下に示す項目の連結であるようなレコードが既に存在するかどうかを検索します。

- 文字列**PDI** |
- インポート対象の棚卸データベースレコードの **[applicationdata.application.versionid]** フィールドの値

このようなレコードが見つからない場合、HP Connect-Itは以下を実行します。

- レコードを作成します。
- 一時モデル (ModelTmp) リンクに不明なソフトウェアのインストールモデルを入力します。

 **注意:**

不明なソフトウェアのインストールモデルは、[バーコード] (BarCode) フィールドが「`sysUNKNOWN_SOFT`」に設定され [名前] (Name) フィールドが「不明なソフトウェアのインストールモデル」と等しいモデル (amModel) テーブルのレコードに該当します。

これが存在する場合、HP Connect-Itによってレコードが更新されます。

 **注意:**

ソフトウェア資産モジュールの専門分野データによって、Asset Manager 9.30 添付のHP Connect-Itサポート一覧表に示されたHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryのバージョンに該当するモデルが [棚卸されたモデル] (amInventModel) テーブルに入力されます。

これらの一時モデルは、[モデル] (amModel) テーブル内のレコードに関連付けられていないので、ポートフォリオ内で使用できるインストールモデルのみが作成されます。棚卸されたモデルに該当するモデルの作成は、自動化されます (▶ 新しいレコードが [棚卸されたモデル] (amInventModel) テーブル内に作成された場合、または [棚卸されたモデル] テーブル内の既存のレコードがソフトウェアインストールに初めてリンクされた場合 [P. 68]) 。

- 2 HP Connect-Itは、[ソフトウェアのインストールまたは使用] (amSoftInstall) テーブルにレコードが存在するかどうか、Asset Manager データベース内を検索します。

- ソフトウェアが識別されたコンピュータにリンクされる
- [インストールフォルダ] (Folder) フィールドがインポート対象レコードの [SWSUBCOMPONENTS.SWVERSION.VERSION_ID] フィールドの値に設定されます。
- [棚卸用キー] (InventoryKey) フィールドがPDI文字列と [SWSUBCOMPONENTS.SWVERSION.VERSION_ID] フィールド値の連結である [棚卸されたモデル] (amInventModel) テーブルのレコードにリンクされます。

このようなレコードが見つからない場合、HP Connect-Itは以下を実行します。

- レコードを作成します。

- **【モデル】** (amModel) リンクに不明なソフトウェアのインストールモデルを入力します。



注意:

不明なソフトウェアのインストールモデルは、**【バーコード】** (BarCode) フィールドが「**sysUNKNOWN_SOFT**」に設定され、**【名前】** (Name) フィールドが「不明なソフトウェアのインストールモデル」と等しいモデル (amModel) テーブルのレコードに該当します。

これが存在する場合、HP Connect-Itによってレコードが更新されます。

インポートによってトリガされる自動処理

新しいレコードが**【棚卸されたモデル】** (amInventModel) テーブル内に作成された場合、または**【棚卸されたモデル】** テーブル内の既存のレコードがソフトウェアインストールに初めてリンクされた場合

【モデルの正常化: 'amInventModel' が追加されました】

(sysIvtExtModelNew) ワークフローが次の場合に自動的にトリガーされます。

- HP Connect-Itによってレコードが**【棚卸されたモデル】** (amInventModel) テーブルに追加されるとき
- HP Connect-Itによって、**【モデル】** (amModel) テーブルのレコードにまだ関連付けられていない**【棚卸されたモデル】** テーブルの既存レコードに関連付けられるソフトウェアインストールが作成される場合
- HP Connect-Itによって、**【モデル】** (amModel) テーブルのレコードにまだ関連付けられていない**【棚卸されたモデル】** テーブルの既存レコードに既存のソフトウェアインストールが関連付けられる場合

最初の場合、このワークフローによって、**モデルの正常化** (sysSam_ModelNorm) グループに割り当てられるタスクが作成されます。

このワークフローのタスクでは、**【棚卸されたモデル】** レコードを**【モデル】** (amModel) レコードに手動でマッピングすることが求められます。

ワークフロータスクを実行するには：

- 1 責任者のログインまたは**モデルの正常化** (sysSam_ModelNorm) グループメンバーのログインでAsset Managerデータベースに接続します。
 - Windowsクライアント：**【ファイル/データベースに接続】** メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続する。
- 2 現在のタスクを表示します (ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク】** リンク)。
- 3 タスクを選択します。

- 4 【ウィザード】 ボタンをクリックします。

Asset Managerによって、【不明なインストールと既知のソフトウェアのインストールとの照合更新】 (sysSamNormalizeModels) ウィザードが開始します。

- 5 【確定版モデル】 リンクに入力します。

- 6 【OK】 をクリックします。

Asset Manager により、【棚卸されたモデル】 テーブルのレコードに【モデル】 テーブルのレコードが関連付けられます。

これにより、**モデルの正常化 : 'amInventModel'** が解決されました (sysIvtExtModelEnd) ワークフロースキームが自動的にトリガされます。

このワークフロースキームは、【棚卸モデルの解決を伝達】 (SYS_RES_MOD_ACT01) アクションをトリガします。

このアクションは、次のことを実行します。

- a 解決された【棚卸されたモデル】 テーブルのレコードにリンクされたすべてのソフトウェアのインストールを検索する。
- b 見つかったすべてのソフトウェアのインストールを【棚卸されたモデル】 テーブルのレコードに関連付けられている【モデル】 テーブルのレコードにリンクする。

残りの場合の両方とも、このワークフロースキームは【棚卸されたモデルからモデルを自動的に作成】 (sysSamCreateModelFinal) をトリガします。

このアクションは、次のことを実行します。

- 1 【棚卸されたモデル】 テーブル内の次のフィールドを使用して、【モデル】 テーブルに新しいレコードを作成する。

- ブランド (BrandName)
- モデル名 (ModelName)
- 親モデル (ModelParent)

このモデルは親モデルと同じ属性にリンクされます。

- 2 【棚卸されたモデル】 テーブルのレコードに関連付けられた【モデル】 テーブルのレコードにソフトウェアインストールをリンクします。

前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアにフラグを設定する

ここでは、Asset Managerで前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアインストール/使用にフラグを自動設定する方法について説明します。

このタスクは、【最後のスキャン以降に削除されたソフトウェアを検出】 (BST_SAM20) ワークフローによって実行されます。

このワークフロースキームは、ソフトウェア資産モジュールの専門分野データの一部です。

表 7.1. スキャンインポート - 最後のスキャン以降に削除されたソフトウェアを検出ワークフロースキーム

ワークフローをトリガするイベント	【コンピュータ】 (amComputer) テーブル、【前回のソフトウェアスキャン】 (dtSoftScan) フィールドの変更。
ワークフロースキームの実行条件	条件なし
ワークフロースキームの起動と実行にAsset Manager Automated Process Manager が必要か？	いいえ
ワークフロースキームの概要説明	ワークフロースキームは、【ソフトウェア割り当て不足】 (BstSamMissingSoftware) アクションをトリガします。 このアクションは、コンピュータに関連付けられた各ソフトウェアインストール/使用を調査します。 インストール/使用の【棚卸日】 (dtInvent) フィールドがコンピュータの【前回のソフトウェアスキャン】 (dtSoftScan) よりも古い場合は、アクションによって、インストール/使用の【割り当て】 (seAssignment) フィールドが「紛失」に更新されます。

インストール/使用を手動で作成する

警告:

インストール/使用を手動で作成するのは、下記の点で手間がかかり、誤りを招くおそれもあります。

- 対象となる数が多いため、手間がかかる。
- 何をインストールしたかを管理している場合はほとんどないため、誤りを招くおそれがある。

ソフトウェアインストールが作成されると、【ソフトウェアのインストールまたは使用】 (amSoftInstall) テーブルにレコードが作成され、必要に応じて、【ポートフォリオ品目】 (amPortfolio) テーブルにレコードが作成されます (▶ 『ポートフォリオ』ガイド、「ポートフォリオ品目」の章)。ほかのすべてのポートフォリオ品目の場合と同様に、この品目について、個別、一括または非個別管理を選択できます。

ソフトウェアのインストール/使用の属性を作成する

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/属性] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールド	値
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)

属性の詳細に関しては、『ポートフォリオ』ガイドの「ポートフォリオ品目」の章、「属性」のセクションを参照してください。

ソフトウェアのインストール/使用のモデルを作成する

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/モデル] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値についてのコメント
[全般] タブ 属性 (Nature)	[オーバーフローテーブル] (seOverflowTbl) フィールドが「ソフトウェアのインストールまたは使用」 (amSoftInstall) に設定されている属性。
[ソフトウェアのインストール] タブ 便利なフィールドおよびリンク	タブの各フィールドの値は、このモデルを基にして作成されるすべてのソフトウェアのインストールに継承されます。

フィールドまたはリンク	値についてのコメント
インストールに対応するポートフォリオ品目がない (bCompact)	<p>このボックスをチェックすれば、このモデルからソフトウェアインストールを作成するたびに同じモデルとリンクしたポートフォリオ品目が作成されなくなります。</p> <p>▶ 方法2: [ソフトウェアのインストールまたは使用] テーブルを通してインストールを作成 [P. 73]</p> <p>注意:</p> <p>このオプションは、ソフトウェアインストールが作成されるときだけ考慮されます。</p> <p>このボックスをチェックするとき、またはこのボックスのチェックを解除するとき、すでに作成されているインストールについては何も変更されません。インストールがポートフォリオ品目にリンクされているかいないかは変わりません。</p>

ソフトウェアのインストール/使用を手動で作成する

方法1: ポートフォリオ品目からインストールを作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値についてのコメント
モデル (Model)	[オーバーフローテーブル] フィールド (seOverflowTbl) が [ソフトウェアのインストールまたは使用] (amSoftInstall) に設定されている属性にリンクされているモデル。
[ソフトウェアのインストール] タブ	
ポイント数 (IUseCount)	<p>ライセンスによっては、ソフトウェアのインストール/使用は一定のポイント数の消費に一致します。例: 「Microsoft Select」ライセンスでは、Microsoft Wordのインストールは3ポイントの消費に相当します。したがって、これらの100のインストールは300ポイントに相当します。</p> <p>各インストールで消費するポイント数は、[ポイント数] フィールド (IUseCount) で指定します。</p> <p>ソフトウェアインストールカウンタ (▶ 実用例1d: 実際のソフトウェア使用を考慮する [P. 158]) を使用するとき、インストールカウンタで各インストール/使用に関連して何ポイントカウントすることも指定できます。</p>
[使用] タブ	

フィールドまたはリンク	値についてのコメント
前回の使用 (dtLastUse)	ソフトウェアのインストール/使用詳細画面の【使用】タブに、ソフトウェアの使用状況に関する情報が表示されます。 このタブのフィールドのうち、【前回の使用】フィールド (dtLastUse) がソフトウェアカウンタによって使用されます (▶ 実用例1b: 特定の部署にカウンタの範囲を制限 [P. 153])。カウンタのレベルで、インストール/使用カウントに前回の使用日付を考慮するかどうかを指定します。

ソフトウェアインストールに使用されるモデルの【ソフトウェアのインストール】タブに入力される情報は、作成されるレコードによって再利用されます。ソフトウェアインストール/使用に対応するレコードがポートフォリオ品目テーブルに作成されるたびに、対応するレコードがソフトウェアインストールテーブルに自動的に作成されます。このテーブルはオーバーフローテーブル (▶ 『ポートフォリオ』ガイドの「概要」の章、「オーバーフローテーブル」のセクション) です。

ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/資産構成/ソフトウェアのインストール】リンクをクリックして、ソフトウェアのインストールのテーブルにアクセスします。

ソフトウェアインストールテーブルに作成されるレコードは、ポートフォリオ品目テーブルに作成されたレコードのための情報を再利用します (ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目】リンク)。

方法2: 【ソフトウェアのインストールまたは使用】テーブルを通してインストールを作成

- 1 ソフトウェアのインストールを表示します (ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/資産構成/ソフトウェアのインストール】リンク)。
- 2 【新規作成】をクリックします。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値についてのコメント
【全般】タブ	
モデル (Model)	【オーバーフローテーブル】フィールド (seOverflowTbl) が【ソフトウェアのインストールまたは使用】 (amSoftInstall) に設定されている属性にリンクされているモデル。
【ソフトウェアのインストール】タブ	

フィールドまたはリンク	値についてのコメント
ポイント数 (IUseCount)	<p>ライセンスによっては、ソフトウェアのインストール/使用は一定のポイント数の消費に一致します。例えば、「Microsoft Select」ライセンスでは、Microsoft Wordのインストールは3ポイントの消費に相当します。したがって、これらの100のインストールは300ポイントに相当します。</p> <p>各インストールで消費するポイント数は、【ポイント数】 フィールド (IUseCount) で指定します。</p> <p>ソフトウェアインストールカウンタ (▶ 実用例1d：実際のソフトウェア使用を考慮する [P. 158]) を使用するとき、インストールカウンタで各インストール/使用に関連して何ポイントカウントするかも指定できます。</p>
【使用】 タブ	
前回の使用 (dtLastUse)	<p>ソフトウェアのインストール/使用詳細画面の 【使用】 タブに、ソフトウェアの使用状況に関する情報が表示されます。</p> <p>このタブのフィールドのうち、【前回の使用】 フィールド (dtLastUse) がソフトウェアカウンタによって使用されます (▶ 実用例1b：特定の部署にカウンタの範囲を制限 [P. 153])。カウンタのレベルで、インストール/使用カウントに前回の使用日付を考慮するかどうかを指定します。</p>

- **【Model】** (Model) フィールドに指定したモデルが同じモデルを持つポートフォリオ品目を作成してインストール/使用にリンクすることを必要とする場合 (モデルの詳細画面で **【インストールに対応するポートフォリオ品目がない】** (bCompact) フィールドがチェックされていない場合)、インストール/使用が **【ソフトウェアのインストールまたは使用】** テーブルに作成されるときに、インストールに対応するレコードが **【ポートフォリオ品目】** テーブルに作成されます。

このポートフォリオ品目は、インストール/使用をより詳細に記述します。
- **【Model】** (Model) フィールドに指定したモデルが同じモデルを持つポートフォリオ品目を作成してソフトウェアインストールにリンクすることを必要としない場合 (モデルの詳細画面で **【インストールに対応するポートフォリオ品目がない】** (bCompact) フィールドがチェックされている場合)、インストール/使用が作成されるときに、レコードがテーブルに作成されません。

ポートフォリオ品目をこのインストールに後でリンクする場合は、「**【ポートフォリオ品目に対するインストールのリンク/リンク解除 [P. 75]**」を参照してください。

ポートフォリオ品目に対するインストールのリンク/リンク解除

インストール/使用を同じモデルを持つポートフォリオ品目にリンクすると、インストール/使用に詳細が追加されます（例：ソフトウェアインストールをビジネスサービスにリンク）。

ポートフォリオ品目をインストール/使用にリンクしなければ、【ポートフォリオ品目】（amPortfolio）テーブル内のデータ量が減り、【ソフトウェアのインストールまたは使用】（amSoftInstall）テーブルと【ポートフォリオ品目】（amPortfolio）テーブル間のリンクのために発生するパフォーマンスの問題のリスクが軽減されます。

インストール/使用を作成する場合

同じモデルを使用してポートフォリオ品目をインストールにリンクする

- 1 インストール/使用に使われるモデル（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/資産構成/モデル】リンク）は、ソフトウェアインストールにリンクされたポートフォリオ品目の作成を必要とします（【ソフトウェアのインストール】タブの【インストールに対応するポートフォリオ品目がない】（bCompact）ボックスはチェックしません）。
- 2 「ソフトウェアのインストール/使用を手動で作成する [P. 72]（方法1または2のどちらでも区別なく使用できます）」の説明の通りに、インストール/使用を作成します。
- 3 【ポートフォリオ品目】テーブル（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目】リンク）と【ソフトウェアのインストール】テーブル（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/資産構成/ソフトウェアのインストール】リンク）にレコードが作成されているはずで

これらの2つのレコードには、同じインストール/使用が記述されます。ポートフォリオ品目は、インストール/使用をより詳細に記述するために使用されます。

リンクしたポートフォリオ品目を使わずにインストールを作成する

- 1 インストール/使用に使われるモデル（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/資産構成/モデル】リンク）は、ソフトウェアインストールにリンクされたポートフォリオ品目の作成を必要としません（【ソフトウェアのインストール】タブの【インストールに対応するポートフォリオ品目がない】（bCompact）ボックスをチェックします）。
- 2 「方法2：【ソフトウェアのインストールまたは使用】テーブルを通してインストールを作成 [P. 73]」の説明通りにインストール/使用を作成します。

- 3 このソフトウェアインストールに対応したレコードが [ポートフォリオ品目] テーブル (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目] リンク) に作成されなかったことを確認できます。

インストール/使用の作成後

同じモデルを使用してソフトウェアインストールとポートフォリオ品目間にリンクを追加する場合、またはソフトウェアインストールにリンクしているポートフォリオ品目を削除する場合：

- 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動します。

警告:

膨大な数のレコード (100レコードを超える数) ではパフォーマンスが低下するため、Webクライアントの下ではこのプロセスで説明されるウィザードを実行しないでください。

- 2 [ポートフォリオ品目に対するインストールのリンク/リンク解除...] (sysCompactInstall) ウィザード (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ユーザのアクション/ポートフォリオ品目に対するインストールのリンク/リンク解除...] リンク) を開始します。
- 3 最初のリストで：
 - a 既存のポートフォリオ品目とのリンクを解除するソフトウェアインストールを選択します。
 - b 必要に応じて、同じモデルのすべてのソフトウェアインストールも対応するポートフォリオ品目からリンク解除 (ポートフォリオ品目は削除されます) ボックスをチェックします。
 - c [選択されたインストールのリンク解除をスケジュール] をクリックします。
- 4 2番目のリストで：
 - a ポートフォリオ品目とリンクするソフトウェアインストールを選択します。
 - b 必要に応じて、[同じモデルのソフトウェアインストールのそれぞれに対してポートフォリオ品目を作成し、ソフトウェアインストールにリンク] ボックスをチェックします。
 - c [選択されたインストールのリンクをスケジュール] をクリックします。
- 5 3番目のリストには、ポートフォリオ品目をリンクするソフトウェアインストールと、既存のポートフォリオ品目とのリンクを解除するソフトウェアインストールが表示されます。
[次へ] をクリックします。

6 概要が表示されます。

【完了】をクリックします。

ポートフォリオ品目を作成してソフトウェアインストールにリンクすることを要求した場合、このポートフォリオ品目は【ソフトウェアのインストールまたは使用】テーブル (amSoftInstall) のレコードの情報を完成します。

ポートフォリオ品目とソフトウェアインストールのリンクの解除を要求した場合、インストールとポートフォリオ品目のリンクがデータベースから削除されます。

違反インストールが発生した場合に自動メッセージを送信する

ここでは、ユーザが違反インストール／使用を作成した場合に自動通知を送信する方法について説明します。

このタスクは、【インストールは許可されていません】 (BST_SAM03) ワークフロースキームによって実行されます。

【違反インストール】 ワークフロースキームの主要機能

このワークフロースキームは、ソフトウェア資産モジュールの専門分野データの一部です。

表 7.2. ライセンスコントロール - 違反インストールワークフロースキーム

パラメータ	説明
ワークフローをトリガするイベント	新しいインストール/使用の作成
ワークフロースキームの実行条件	PortfolioItem.Model.seAuthorization = 2
ワークフロースキームの起動と実行にAsset Manager Automated Process Manager が必要か？	いいえ
ワークフロースキームの概要説明	違反インストールについて管理者にメールを送信する (BstSamUnauthinstallation_found) アクションで指定された人にメッセージが送信されます。 これはデフォルトで、【部署名/姓】 (Name) フィールドが「Admin」に設定されている【部署と従業員】 (amEmplDept) テーブルのレコードに該当する人です。 【電子メール】 (EMail) フィールドで指定されたアドレスにメッセージが送信されます。

違反となるインストール/使用を定義する

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/モデル] リンク）。
- 2 承認しないソフトウェアのインストールを表示します。
- 3 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[ソフトウェアのインストール]	タブ
権限 (seAuthorization)	違反

別の受信者を選択する、警告メッセージの件名または本文を変更する

- 1 アクションを表示します（ナビゲーションバーの [管理/アクション] リンク）。
- 2 [違反インストールについて管理者にメールを送信する] (BstSamUnauthinstallation_found) アクションを表示します。
- 3 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク
[メッセージ] タブ
受信者 (MsgTo)
件名 (Subject)
メッセージ (memMsgText)

通知メッセージの受信アドレスを定義する

- 1 従業員と部署を表示します（ナビゲーションバーの [組織管理/組織/部署と従業員] リンク）。
- 2 [違反インストールについて管理者にメールを送信する] (BstSamUnauthinstallation_found) アクションの受信者を表示します。
- 3 [電子メール] (EMail) フィールドを変更します。

インストール/使用を除却する

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク）。

- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、[ポートフォリオからライセンスまたはインストールを削除] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、[ポートフォリオ品目の除却] (AstRetire) ウィザードが開始します。
ウィザードのページに従って入力します (ウィザードページ間の移動には [次へ]、[戻る] ボタンを使用)。
- 6 [完了] をクリックして、すべてのパラメータを確定します。
ウィザードによって依頼が作成されます。
- 7 [OK] をクリックして、ウィザードを終了します。

不明なインストールの照合更新

このタスクでは、棚卸モデルの確定版モデルへの関連付けを行っていない場合、それを実行します。

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、[不明なインストールを照合更新] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、[不明なインストールと既知のソフトウェアのインストールとの照合更新] (sysSamNormalizeModels) ウィザードが開始します。
必要に応じてウィザードに入力します。
- 6 すべてのパラメータを確定します ([完了] ボタン)。
ウィザードによって、[棚卸されたモデル] テーブル内のレコードが [モデル] テーブル内のレコードに関連付けられます。
これにより、[モデルの正常化: 'amInventModel' が解決されました] (sysSamExtModelEnd) ワークフロースキームが自動的にトリガされます。
このワークフロースキームは、[棚卸モデルの解決を伝達] (SYS_RES_MOD_ACT01) アクションをトリガします。
このアクションは、次のことを実行します。

- a 解決された [棚卸されたモデル] テーブルのレコードにリンクされたすべてのポートフォリオ品目を検索する。
 - b 見つかったすべてのポートフォリオ品目を [棚卸されたモデル] テーブルのレコードに関連付けられている [モデル] テーブルのレコードにリンクする。
- 7 [OK] をクリックして、ウィザードを終了します。

OEMインストールとしてインストールをフラグ付け

このアクションの目的は、特定ライセンスの取得を必要とせず使用できるインストールをフラグ付けすることです。

ライセンスが購入したハードウェアベンダにソフトウェアプロバイダから直接付与されているので、このようなインストールを「OEM」インストールと呼びます。

これは、例えばコンピュータを購入する場合です。コンピュータには、たいてい特定ライセンスを個別に取得することなく法的に使用できるインストール済みソフトウェアが添付されています。

フラグ付けするとは、OEMインストールに対して [インストールタイプ] (seType) フィールドを「OEMインストール」に設定することです。

これにより、OEMインストールをカウンタによって行われる計算から除外できます。

警告:

OEMインストールをインストールカウントから除外するためには、カウンタの [カウント制限(インストール)] (SoftInstQuery) リンクに関連付けられたクエリを適宜変更する必要があります。

例えば、OEMインストールを除外しないクエリは次のようになります。

```
Model.ModelRef = 'PC1 - PowerPoint - インストール'
```

これを以下のように変更します。

```
(Model.ModelRef = 'PC1 - PowerPoint - インストール') AND (SoftInstall.seType <> 2)
```

OEMインストールをフラグ付けするには：

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。

- 2 対象の契約がソフトウェアインストールのリンク先にするOEM契約であることを確認します。
- 3 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、[OEMインストールをフラグ] ボタンをクリックします。
- 6 これにより、[OEMインストールをフラグ付け] (sysSamFlagOEMInst) ウィザードが開始します。
必要に応じてウィザードに入力します。
- 7 [完了] をクリックして、すべてのパラメータを確定します。
ウィザードにより、選択したインストールに対して [インストールタイプ] (seType) フィールドが「OEMインストール」に設定されます。
- 8 [OK] をクリックして、ウィザードを終了します。

ユーザを対象のASP契約に追加する

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、ASP契約が対象の契約として選択されていることを確認してから、[ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、[ASPユーザを追加] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、ASPユーザを追加ウィザード (sysSamAddAspUsers2Cntr) が開始します。
- 6 ウィザードのページに従って入力します (ウィザードページ間の移動には [次へ]、[戻る] ボタンを使用)。
- 7 入力した内容を確定します ([完了] ボタン)。
これにより、選択したユーザが対象のASP契約にリンクされます (契約の詳細画面の [従業員] タブ)。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。
▶ 『契約』ガイドの、パート2「使用」、「ASP契約の日常管理」の章、「ユーザアカウントを管理する/プロセス/ユーザアカウントを作成する」のセクション。

対象のASP契約からユーザを削除する

- 1 【ソフトウェアの管理】（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ソフトウェア資産管理／ユーザのアクション／ソフトウェアの管理...】リンク）。
 - 2 【ソフトウェアの管理アクションを選択...】ページで、ASP契約が対象の契約として選択されていることを確認してから、【ソフトウェアライセンスとインストールの管理】オプションを選択します。
 - 3 【次へ】をクリックします。
 - 4 【ソフトウェアライセンスとインストールの管理】ページで、【ASPユーザを削除...】ボタンをクリックします。
 - 5 これにより、**ASPユーザを削除**ウィザード（sysSamDelAspUsersFromCtr）が開始します。
 - 6 ウィザードのページに従って入力します（ウィザードページ間の移動には【次へ】、【戻る】ボタンを使用）。
 - 7 【完了】をクリックして、すべてのパラメータを確定します。
これにより、選択したユーザが現在のASP契約から削除されます（契約の詳細画面の【従業員】タブ）。
 - 8 【OK】をクリックして、ウィザードを終了します。
- ▶ 『契約』ガイドの、パート2「使用」、「ASP契約の日常管理」の章、「ユーザアカウントを管理する／プロセス／ユーザアカウントを削除する」のセクション。

8 インストールのライセンスコンプライアンスを監視する

概要

ソフトウェア管理の目的

ソフトウェア管理は、以下に対する適合性のチェックを目的とします。

- ソフトウェアプロバイダ
- 内部方針

ソフトウェアカウンタを使用する

ソフトウェア管理は、ソフトウェアカウンタを使って実現されます。

ソフトウェアカウンタは、ライセンス権限カウントとインストール/使用カウントの間の照合更新に用いられます。

実際のソフトウェア使用を考慮に入れることができます。

これらのカウンタは、選択したテーブルのレコード（従業員やコストセンタなど）によってグループにまとめることができます。

グローバルなソフトウェアコンプライアンスを管理する

Asset Managerでは、グローバルにカウンタを管理できます。

カウンタを会社ソフトウェア管理に含めるには、**【会社ソフトウェア管理の一部】（bFamily）** オプションを有効にする必要があります。

ソフトウェアライセンスモデルとソフトウェアのインストール/使用モデルは、グローバルコンプライアンス管理カウンタで同時に1つのみカウントできます。

グローバルコンプライアンス管理カウンタで、権限、資格、インストール、および、使用が1回のみカウントされるようにするため、

【会社ソフトウェア管理の一部】（bFamily） オプションがクリアされているカウンタは、すでに他のカウンタに含まれているライセンスとインストール/使用モデルを参照できます。

カウンタの作成と変更ウィザードを使用する

ウィザードを使用してもしなくても、カウンタの作成と変更を行えます

ウィザードを使用してカウンタを変更するには、ウィザードを使用してのみカウンタの作成と変更を行う必要があります。

ウィザードによって維持されているカウンタの**【ウィザードを使用してカウンタを編集】（bAutomated）** オプションは有効な状態にあります。

会社ソフトウェア管理カウンタの作成と変更は、ウィザードで行う必要があります。

ウィザードにより、カウンタの作成と変更が簡単に行えます。

カウンタ、ライセンス、インストール/使用の間のリンク

カウンタの定義にはきわめて柔軟性があります。

以下の条件に合わせるすることができます。

- ライセンスおよびインストール/使用を記述する方法（このためにはさまざまな方法があります）
- データを分析する方法（従業員、サイトなど）

ヒント:

カウンタは、ソフトウェア権限およびインストール/使用以外の目的にも使用できます。

ここに記すカウンタ使用の指針は、可能なあらゆる場合を想定しているわけではありません。

カウンタにリンクされたメインテーブル

図 8.1. カウンタにリンクされたテーブル

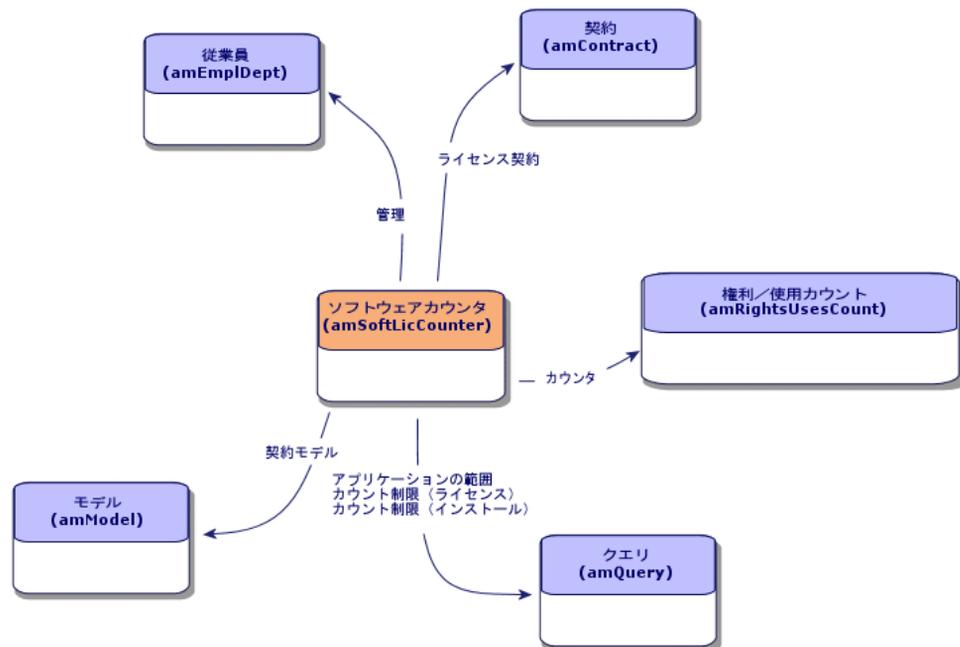


図 8.2. 特定資格に関連するテーブル

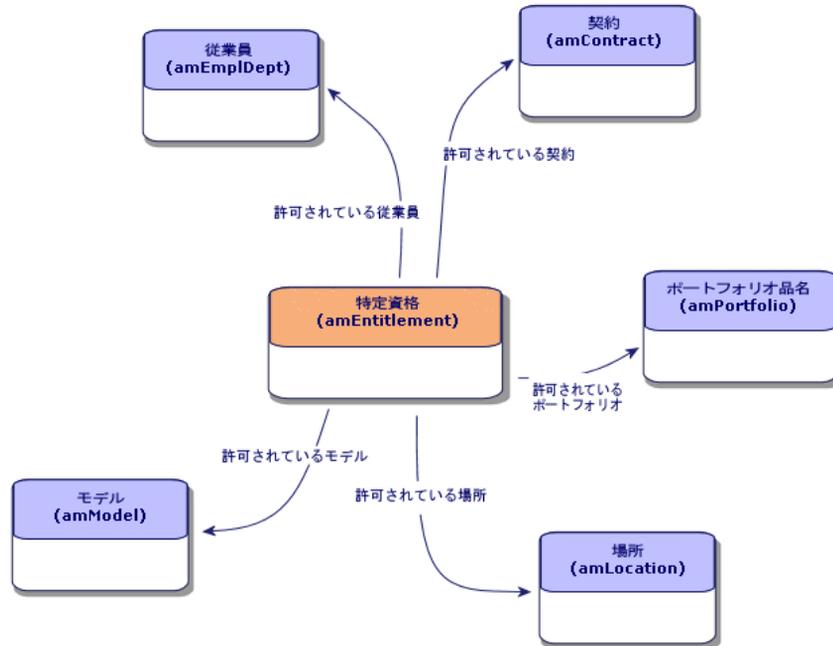
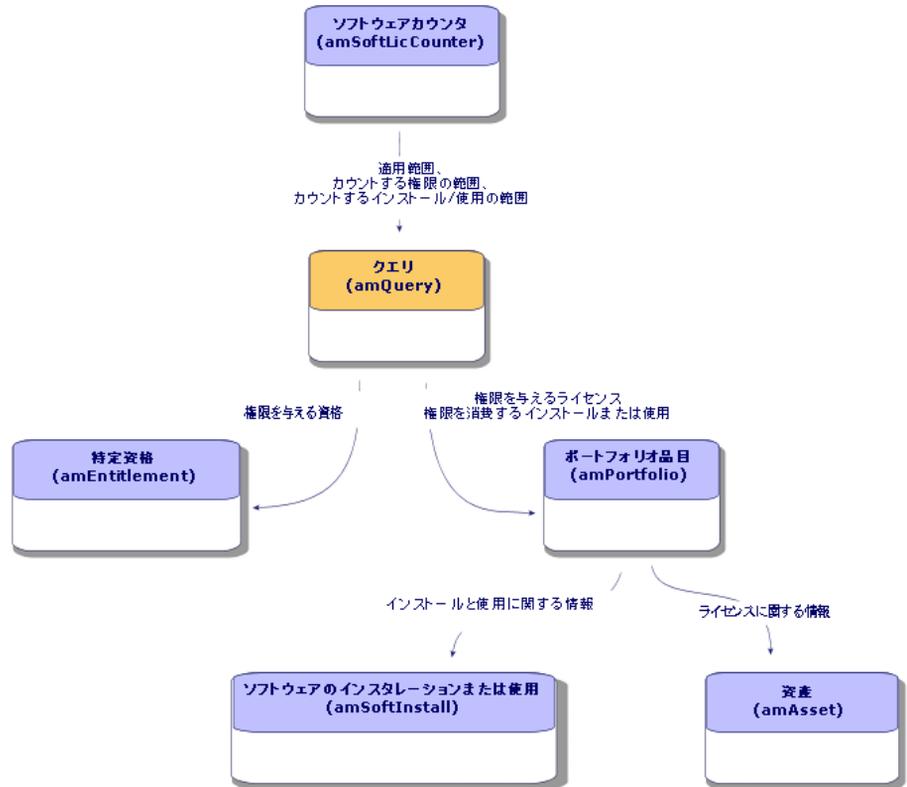


図 8.3. カウンタ、資格、ポートフォリオ品目間のリンク



カウンタとカウントされるオブジェクトとの間には直接のリンクは存在しません。このリンクはクエリによって確立されます。

この方法によって、カウンタの柔軟性は大幅に高まります。ただし、このためには適切なクエリを設計する必要があります。

ソフトウェアカウンタの作成

方法1： [ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを使用してカウンタを作成する

前提条件

[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] ウィザードを使用するには、カウンタのテンプレートが動作する必要があります。

ヒント:

ソフトウェア資産モジュール専用のデータキットの中にある専門分野データに、いくつかのカウンタのテンプレートが用意されています。

▶ 専門分野データの既存データベースへのインポート [P. 34]].

[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] ウィザードを使用するには

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] ページで、[カウンタを作成] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードが開始します。
必要に応じてウィザードに入力します。
カウンタのすべてのパラメータを確定します ([完了] ボタン)。

方法2：カウンタを直接作成する

カウンタを直接作成するには：

- 1 カウンタを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 詳細の上半分、特に以下のフィールドとリンクに記入します。

- **【グループ】 (Context)** : 例えば、**【結果】** タブに従業員ごとのカウント行を表示する場合は、**【部署と従業員】 (amEmplDept)** テーブルを選択します。
 - **【適用範囲】 (Definition)** : **【グループ】** フィールドに示されたテーブルの一部のレコードだけを考慮する場合は、クエリを作成して選択します。
- 4 **【権限カウント】 (bCountLic)** ボックスを必要に応じてチェックし、以下のフィールドとリンクに注意して**【権限】** タブに入力します。
- **【権限カウンタのコンテキスト】 (LicContext)** : 例えば、ライセンス権限を考慮する場合は、**【資産】 (amAsset)** テーブルを選択します。
 - **【カウントする権限の範囲】 (LicQuery)** : 権限をカウントするレコードを識別するクエリを作成して選択します。
 - **【権限 -> グループ】 (EntGroupBy) リンク** : **【権限カウンタのコンテキスト】** フィールドで指定されたテーブルから**【グループ】** フィールドで指定されたテーブルへのリンクを指定します。例えば、**【資産】 (amAsset)** テーブルから**【部署と従業員】 (amEmplDept)** テーブルへのリンクの場合、「**PortfolioItem.User**」のようになります。
 - **【ライセンスのタイプ】 (LicType)** : ライセンスのタイプを選択します。



警告:

【ライセンスのタイプ】 (LicType) は権限カウントに考慮されません。
権限をカウントする対象のレコードを【カウントする権限の範囲】 (LicQuery) フィールドに定義する必要があります。

- タブの下部にも記入します。これらは権限カウントを得るために必要な計算を表しています。
- 5 **【インストール/使用カウント】 (bCountInst)** ボックスを必要に応じてチェックし、以下のフィールドとリンクに特に注意して**【インストール/使用】** タブに入力します。
- **【インストール/使用カウンタのコンテキスト】 (InstContext)** : 例えば、ソフトウェアのインストールを考慮したい場合は、**【ソフトウェアのインストールまたは使用】 (amSoftInstall)** テーブルを選択します。
 - **【カウント制限 (インストール)】 (SoftInstQuery)** : インストール/使用をカウントするレコードを識別するクエリを作成して選択します。
 - **【インストール/使用 -> グループ】 (InstGroupBy) リンク** : **【インストール/使用カウンタのコンテキスト】** フィールドに指定されたテーブルから、**【グループ】** フィールドに指定されたテーブルへのリンクを指定します。例えば、**【ソフトウェアのインストールまたは使用】 (amSoftInstall)** テーブルから**【部署と従業員】 (amEmplDept)** テーブルへのリンクは、**PortfolioItem.Parent.User**のようになります。

- **【測定情報の使用】** (bUseMetering) : インストール/使用の前の使用日付をカウンタに考慮させる場合は、このオプションを使用します (インストール/使用詳細画面の (**【前回の使用】** フィールド (dtLastUse)))。

 **注意:**

未使用のインストール/使用が次に示す箇所のインストール/使用カウントから削除されません。

- カウンタの **【全般】** タブ、**【インストール/使用カウント】** フィールド (dSoftInstallCount)
 - カウンタの **【結果】** タブ、**【インストール/使用数】** 列
- また、未使用のインストール/使用は次のフィールドで簡潔に計算されます。
- カウンタの **【全般】** タブ、**【未使用のインストール】** フィールド (dUnusedInstall)
 - カウンタの **【結果】** タブ、**【未使用インストールの数】** フィールド

- **【測定情報の使用】** (bUseMetering) :
 - **【未使用の期間】** (tsUnusedDuration) : 実際のソフトウェアの使用を計算に入れる場合、このオプションを選択します。
 - **【未使用インストールの定義】** (UnusedQuery) : 使用されなくなった可能性があると思なされるレコードのリストを制限する場合は、クエリを作成および選択します。
 - タブの下部分にも入力します。ここでは、インストール/使用カウントを取得するために必要な計算を指定します。
- 6 **【資格カウント】** (bCountEnt) ボックスを必要に応じてチェックし、以下のフィールドとリンクに注意して **【資格】** タブに入力します。
- **【資格カウンタのコンテキスト】** (EntContext) : 権限を部署と従業員に割り当てるのであれば、**【部署と従業員】** (amEmplDept) テーブルを選択します。
 - **【カウントする資格の範囲】** (EntQuery) : カウント対象とする権限を持つレコードを識別するクエリの作成と選択を行います。
 - **【資格 -> グループリンク】** (EntGroupBy) : **【資格カウンタのコンテキスト】** フィールドで指定されたテーブルから、**【グループ】** フィールドで指定されたテーブルへのリンクを指定します。たとえば、**【部署と従業員】** (amEmplDept) テーブルから **【会社】** (amCompany) テーブルへのリンクは、**CostCenter.Company** となります。
 - タブの下部分も入力します。ここでは、資格カウントを得るのに必要な計算を記述します。
- 7 **【作成】** をクリックします。

関連する参照フィールド

ライセンス、資格およびインストール/使用に関連する情報は、いくつかの場所に
あります。

以下の表は、カウントに使用できるフィールドの例です。

表 8.1. カウンタ - カウントに使用できるフィールド

テーブル	フィールド
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	数量 (fQty)
ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)	ポイント数 (IUseCount)
資産 (amAsset)	権限 (ISoftLicUseRights)

以下の表は、使用とインストールの識別に使用できるフィールドの例です。

表 8.2. カウンタ - インストール/使用の識別に使用できるフィールド

テーブル	フィールド
属性 (amNature)	オーバーフローテーブル (seOverflowTbl) 名前 (Name)
ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)	権限 (seAuthorization) インストールタイプ (seType) ローカル/リモート (bLocal) ソフトウェアスイートのコンポーネント (bSuiteComponent)
モデル (amModel)	名前 (Name) OS (SoftOS) バージョン (VersionLevel) 技術リファレンス (ModelRef)

以下の表は、ライセンスの識別に使用できるフィールドの例です。

表 8.3. カウンタ - ライセンスの識別に使用できるフィールド

テーブル	フィールド
属性 (amNature)	ライセンス (bSoftLicense) 名前 (Name)
資産 (amAsset)	導入日 (dInstall) ライセンスのタイプ (LicType)

テーブル	フィールド
	ユーザのタイプ (seSoftLicMulti)
モデル (amModel)	名前 (Name)
	OS (SoftOS)
	バージョン (VersionLevel)
	技術リファレンス (ModelRef)

以下の表は、資格の定義に使用できるフィールドの例です。

表 8.4. カウンタ - 資格の識別に使用できるフィールド

テーブル	フィールド
amEntitlement (特定資格)	コード (Code)
	名前 (Name)
従業員の資格 (amRelEmplEntitl)	従業員 ID (lEmplDeptId)
	資格 ID (lEntitlId)
契約資格 (amRelEntitlContract)	契約 (lCntrId)
	資格 (lEntitlId)
場所の資格 (amRelEntitlLoc)	場所 (lLocaId)
	資格 (lEntitlId)
ポートフォリオ品目の資格 (amRelEntitlPortf)	ポートフォリオ品目 (lPortfolioItemId)
	資格 ID (lEntitlId)
資格 (amRelModelEntitl)	モデル ID (lModelId)
	資格 ID (lEntitlId)
部署と従業員 (amEmplDept)	バーコード (BarCode)
	ID 番号 (IDNo)
契約 (amContract)	リファレンス (Ref)
場所 (amLocation)	バーコード (BarCode)
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	コード (Code)

ソフトウェアカウンタを変更する

ウィザードが変更したカウンタ

前提条件

カウンタをウィザードで変更できるのは、カウンタの作成を[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードで行

い、[ウィザードを使用してカウンタを編集] (bAutomated) オプションが有効な場合のみです。

- ▶ 方法1: [ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...]
(sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを使用してカウンタを作成する [P. 88].

カウンタを変更するには

- 1 [ソフトウェアカウンタの結果] ページを表示します
 - 方法1: [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する
 - a [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
 - b [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] オプションを選択します。
 - c [次へ] をクリックします。
 - d [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] ページで、[カウンタを変更] ボタンをクリックします。
 - 方法2: Windowsクライアントメニューを使用する
[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタの結果] メニューをクリックします。
- 2 変更するカウンタを選択します。
- 3 以下のボタンを使用します。
 - [ライセンス]: [考慮に入れるライセンスモデルのリストを変更] (sysSamAddLic2Counter) ウィザードがトリガされます。

注意:

[追加] をクリックして、ライセンスモデルを下側のリストボックス (インストール/使用カウントに含むライセンスモデル) に追加すると、そのライセンスモデルは上側のリストボックス (権限/資格カウントに含むことができるライセンスモデル) から削除されます。[削除] をクリックして、下側のリストボックスからライセンスモデルを削除すると、上側のリストボックスに再び追加されます。

- [インストール]: [考慮に入れるインストールモデルのリストを変更] (sysSamAddInst2Counter) ウィザードがトリガされます。
- [範囲]: [カウンタの適用範囲の定義または再定義] (sysSamAddScope2Counter) ウィザードがトリガされます。



注意:

これらのボタンは、カウンタの詳細にある以下に挙げるフィールドの値に応じて表示されます。

- 権限カウント (bCountLic)
- インストール/使用カウンタのコンテキスト (InstContext)
- 測定情報の使用 (bUseMetering) :

ウィザードなしで変更したカウンタ

カウンタの詳細にある以下のフィールドおよびリンクを変更できるのは、カウンタの **【ウィザードを使用してカウンタを編集】** (bAutomated) オプションが無効の場合のみです。

- 適用範囲 (definition) リンク
- **【権限】** タブにあるフィールドおよびリンク :
- **【資格】** タブにあるフィールドおよびリンク :
- **【インストール/使用】** タブにあるフィールドおよびリンク :

ウィザードを使用しないでカウンタを変更するには :

- 1 カウンタを表示します (ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ】** リンク)。
- 2 変更するカウンタを選択します。
- 3 カウンタを変更します。
- 4 変更を保存します (**【変更】** ボタン)。

ソフトウェアカウンタの結果の更新

カウンタの結果を更新するには

ウィザードが変更したカウンタ

前提条件

カウンタをウィザードで変更できるのは、カウンタの作成を **【ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成】** (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードで行い、 **【ウィザードを使用してカウンタを編集】** (bAutomated) オプションが有効な場合のみです。

- ▶ 方法1： [ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを使用してカウンタを作成する [P. 88].

カウンタを変更するには

- 1 [ソフトウェアカウンタの結果] ページを表示します
 - 方法1： [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する
 - a [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
 - b [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、 [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] オプションを選択します。
 - c [次へ] をクリックします。
 - d [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] ページで、 [カウンタを変更] ボタンをクリックします。
 - 方法2： Windowsクライアントメニューを使用する
[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタの結果] メニューをクリックします。
- 2 更新するカウンタを選択します。
- 3 [計算] をクリックします。

注意:

[計算] ボタンを押すと、 [ソフトウェアカウンタを更新] (sysCoreSoftLicCountCalc) アクションが開始します。これは、ユーザから見て連続しています。

- 4 上部のリストには、全カウンタの合計カウントが表示されます。
- 5 下部のリストには、上部のリストで選択したカウンタの詳細な結果が表示されます。

カウンタに対して定義された範囲の制限 ([適用範囲] (Definition) フィールド) 内で、 テーブルごとのグループ (グループ (Context) フィールド) 内のレコードごとに1行で表示されます。

すべてのカウンタタイプ

ウィザードを使用しないでカウンタを変更するには：

- 1 カウンタを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ] リンク)。
- 2 更新するカウンタを選択します。

- 3 【計算】 をクリックします。



注意:

【計算】 ボタンを押すと、【ソフトウェアカウンタを更新】 (sysCoreSoftLicCountCalc) アクションが開始します。これは、ユーザから見て連続しています。

- 4 【全般】 タブと【結果】 タブにある結果を調べます。

定期削除

【計算】 をクリックするたびに、【結果】 タブに表示される行のそれぞれに対して、【権限/使用カウント】 テーブル (amRightsUsesCount) にレコードが作成されます。

【結果】 タブに表示されるのは、【計算】 ボタンをクリックして実行された最後の計算の結果だけです。

ただし、以前の結果は消去されてはいません。

これらの結果を使って、ライセンスおよびインストール/使用の進展をトラッキングし、レポートの作成などを行えます。

【権限/使用カウント】 テーブルが大きくなりすぎた場合は、このテーブルの不要なレコードを定期的に削除することをお勧めします。



ヒント:

同じ計算で生成されたレコード同士では、【結果識別子】 (lResultId) フィールドと【カウント日】 (dtCountRequest) フィールドの値が同じです。

インストール/使用とライセンス間の不整合を処理する

ここでは、ソフトウェアライセンスコンプライアンスを実現する方法について説明します。

- 不足したライセンス権限を発注する
- 余分なインストール/使用を削除する

前提条件

会社ソフトウェア管理カウンタのみを使用して、インストール/使用とライセンス間の不整合を解決できます

カウンタを会社ソフトウェア管理に含めるには、[会社ソフトウェア管理の一部] (bFamily) オプションを有効にする必要があります。

[ソフトウェアコンプライアンスの問題を解決] (sysSamIdentifyIllegalInstall) ウィザードでは、[バーコード] (BarCode) フィールドが「SOFTUNINST」に一致する作業指示モデルが使用されます。

このモデルがデータベース中に存在することを確認してください。

不整合を解決する

- 1 以下の方法のいずれかを使用できます。
 - 方法1: [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する
 - a [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
 - b [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] オプションを選択します。
 - c [次へ] をクリックします。
 - d [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] ページで、[ソフトウェアコンプライアンスの問題を解決] ボタンをクリックします。
 - 方法2: Windowsクライアントメニューを使用する
 - a [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタの結果] メニューをクリックします。
 - b 解決するカウンタを選択します。
 - c [解決] をクリックします。
- 2 これにより、[ソフトウェアコンプライアンスの問題を解決] (sysSamIdentifyIllegalInstall) ウィザードが開始します。

調査するカウンタを選択します。

[次へ] をクリックしてから、ウィザードの指示に従います。

ライセンス権限が足りない場合、ウィザードによってライセンス依頼を作成するかソフトウェアを削除することができます。
- 3 すべてのパラメータを確定します ([完了] ボタン)。
- 4 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

ソフトウェアのアップグレードとライセンス権限の転送によりコンプライアンスを最適化する

このセクションは、次のような場合に有用です。

1 以下を所有する場合：

- ユーザ権限を転送可能な複数のソフトウェアアプリケーション（または複数のソフトウェアバージョン）。
- 前バージョンからのライセンスを所有する場合、最新バージョンのソフトウェアの使用を可能にするソフトウェアアップグレードライセンス。新しいソフトウェアライセンスを取得することなく最新バージョンの使用が可能になります。

2 以下を考慮することによって、ユーザがライセンスとインストール／使用を遵守しているかどうかを確認します。

- ソフトウェアアプリケーションのライセンス権限
- ソフトウェアアップグレードライセンスによって取得したユーザの権限
- 以前のソフトウェアバージョンの使用を可能にする最も最新のソフトウェアバージョンによって取得したユーザの権限

ソフトウェアライセンスおよび関連するインストール／使用についていえば、ソフトウェアアップグレードライセンスカウントは、他のカウントと同じ方法で作成される**ソフトウェアアップグレードカウント**によって管理されます。▶ [ソフトウェアカウントの作成 \[P. 88\]](#)。

Asset Managerでは、以下を指定する必要があります。

- 所定のバージョンのライセンスによって付与される以前のソフトウェアバージョンを使用する権限
- ソフトウェアアップグレードライセンスによって付与される最新のソフトウェアバージョンを使用する権限

これは、**ソフトウェアカウント**と**ソフトウェアアップグレードカウント**でも実行されます。▶ [転送可能なユーザ権限をカウントに指定する \[P. 98\]](#)。

[[リンクされているカウントを表示](#)] (sysSamSoftLicLinkedCount) リンクが、カウントとコンプライアンス結果の関係の表示に使用されます。

注意:

このウィザードでは**ライセンス権限は変更されません**。

カウントは、ユーザが自分のコンプライアンスを測定するために、動的に収集される情報を表示するだけです。

転送可能なユーザ権限をカウントに指定する

ユーザ権限の転送はカウントの詳細画面で指定します。

これは、カウンタの作成時に、またはカウンタを後で修正するときに指定できます。

以下の2つの間に区別があります。

- 所定のバージョンのライセンスによって付与される以前のソフトウェアバージョンを使用する権限
- ソフトウェアアップグレードライセンスによって付与される最新のソフトウェアバージョンを使用する権限

以前またはより最新のソフトウェアバージョンへのライセンス権限の転送を指定する

注意:

権限を転送できるのは（前の1つのソフトウェアバージョンから）他の1つのカウンタに対してのみです。ただし、権限の転送が許可済みの場合は、トランジティビティ（移行性）によって権限を以前のバージョンへ転送できます。

例えば、以下の場合を想定できます。

- ソフトウェアライセンス権限を**SoftApp v4**から**SoftApp v3**へ転送
- ソフトウェアライセンス権限を**SoftApp v3**から**SoftApp v2**へ転送
- ソフトウェアライセンス権限を**SoftApp v2**から**SoftApp v1**へ転送

したがって、トランジティビティによって、ライセンス権限を**SoftApp v4**から**SoftApp v2**へ（**SoftApp v3**経由で）、**SoftApp v4**から**SoftApp v1**へ（**SoftApp v3**および**SoftApp v2**経由で）転送できます。

前提条件

直前および最新のソフトウェアのバージョンに関連付けられているカウンタが存在している必要があります。

直前のソフトウェアバージョンは、権限を現在のバージョン（最近のバージョン）から転送可能なソフトウェアバージョンです。

最新のソフトウェアバージョンは、権限を現在のバージョン（旧バージョン）へ転送可能なソフトウェアバージョンです。

方法1： [ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] ウィザードを使用してソフトウェアカウンタを作成する場合

[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...]

(sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを起動して入力します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] リンク）。▶ **方法1： [ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを使用してカウンタを作成する [P. 88]**

[実行するカウンタ合計アクションを選択] ページで、[カウンタに他のカウンタをリンク] を選択します。

次に、[リンクするカウンタを選択] ページで、前バージョンのカウンタまたは最新バージョンのカウンタを選択して、権限を転送可能かどうかを指示します。

方法2：カウンタを手動で作成または変更する場合

注意:

この方法では、以前のソフトウェアバージョンへのライセンス権限の転送を指定できるだけです。

「▶方法2：カウンタを直接作成する [P. 88]」の指定の通りに、既存のカウンタを選択するか、またはカウンタを作成します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ] リンク）。

次に、

- 1 カウンタの詳細画面の[合計] タブを使用して、
 - a [以前のバージョンのカウンタ] (bHasPreviousCntr) ボックスをチェックします。
 - b 以前のバージョンのソフトウェアに関連付けられているカウンタを[前バージョン用カウンタ] (Previous) フィールドに指定します。

注意:

この段階では、権限の転送を許可しません。同じソフトウェアのバージョン間のリンクを記述するだけです。

- c 以前のバージョンへのライセンス権限の転送を許可する場合は、[権限を転送できます] (bLicRightsTransfer) ボックスをチェックします。
- 2 変更を保存します。

最近のソフトウェアバージョンへのアップグレードによりライセンス権限の転送を指定する

前提条件

アップグレード元のソフトウェアバージョンとアップグレード先のソフトウェアバージョンに関連付けられているカウンタがすでに存在する必要があります。

方法1：[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] ウィザードを使用してソフトウェアカウンタを作成する場合

[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...]

(sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを起動して入力します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] リンク）。▶方法1：[ソ

ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを使用してカウンタを作成する [P. 88]

[実行するカウンタ合計アクションを選択] ページで、[ソフトウェアアップグレードカウンタとしてカウンタを宣言] を選択し、以降のページで、アップグレード元およびアップグレード先のカウンタに入力します。

方法2：カウンタを手動で作成または変更する場合

「▶方法2：カウンタを直接作成する [P. 88]」の指定の通りに、既存のカウンタを選択するか、またはカウンタを作成します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアアップグレードカウンタ] リンク)。

次に、

- 1 [ソフトウェアアップグレードカウンタ] (bLicUpgrade) ボックスがチェックされていることを確認します。
このオプションは、このカウントと標準のソフトウェアカウンタを区別するために使用されます。
- 2 カウンタの詳細画面の [合計] タブで、アップグレード元のカウンタとアップグレード先のカウンタを指定します。
- 3 変更を保存します。

権限を転送してコンプライアンスをチェックできるカウンタ間のリンクを表示する

特定のカウンタに権限を転送できるカウンタを表示するには：

- 1 カウンタの詳細画面を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ] リンク)。
- 2 最新の権限カウントと権限計算では、[計算] ボタンをクリックし、選択したカウンタおよびそのカウンタにリンクされているすべてのカウンタについて、権限とインストールデータを計算します。
- 3 [全般] タブを表示して、コンプライアンスのチェックサマリを確認します。
- 4 コンプライアンス情報を表示するには：
 - Windowsクライアント：[リンクカウンタ] ボタンをクリックします。
 - Webクライアント：[アクション...] ドロップダウンリストから [リンクカウンタ] を選択します。

[リンクされているカウンタを表示] (sysSamSoftLicLinkedCount) ウィザードが開始します。

このウィザードは、このカウンタとその他のカウンタの間の各種リンクのサマリを表示して、コンプライアンス計算の結果を提供します。

- ▶ [リンクされているカウンタを表示] ウィザードの機能 [P. 103]

アップグレードプロセスを実行する

前提条件

アップグレードプロセスを実行する前に、以下を実行する必要があります。

- アップグレード元のソフトウェアバージョンとアップグレード先のソフトウェアバージョンに関連付けられるカウンタを作成する（▶ソフトウェアカウンタの作成 [P. 88]）。
- 関連付けるソフトウェアアップグレードカウンタを作成する（▶最近のソフトウェアバージョンへのアップグレードによりライセンス権限の転送を指定する [P. 100]）。

ソフトウェアアップグレードで権限を転送する

前のソフトウェアバージョン（V1）から後のバージョン（V2）へアップグレードします。

V1に関連付けられているカウンタ、V2に関連付けられているカウンタ、V1->V2に関連付けられているソフトウェアアップグレードカウンタが存在します。

N1個のV1のライセンス権限、N2個のV2のライセンス権限、およびカウンタV1->V2に関連付けられているNm個のアップグレード権限を所有しているものと仮定します。

V1からV2へのアップグレードによるソフトウェアライセンス権限の転送では、V1からX個の権限を取得し、それらをX個のV1->V2アップグレード権限に関連付けて、X個の追加のV2の権限を獲得します。したがって、XはN1およびNmよりも小さい値となる必要があります。

ソフトウェアのアップグレード後、N1-X個のV1のライセンス権限、N2+X個のV2のライセンス権限、およびカウンタV1->V2に関連付けられているNm-X個のアップグレード権限を所有します。

- **【最大合計権限カウンタ】**（▶ [リンクされているカウンタを表示] ウィザードの機能 [P. 103]）では、N1個のライセンス権限（または、Nm < N1の場合は、Nm個の権限）をV1から取得してV2に転送されるということが分かります。一定のライセンス権限がV1によってすでに使用されているかどうかは考慮されませんし、転送可能な権限カウンタがV1が非遵守になるかどうかに関係なく実行されます。
- **【合計権限カウンタ】**（▶ [リンクされているカウンタを表示] ウィザードの機能 [P. 103]）では、V1にすでに使用されているライセンスが考慮され、V1が非遵守となるのが防止されます。

N1uをV1が使用するライセンス数とします。

- N1-N1u < Nmの場合：ソフトウェアアップグレードによりV2に転送できる権限の最大数はN1-N1uです。
- N1-N1u > Nmの場合：ソフトウェアアップグレードによりV2に転送できる権限の最大数はNmです。

[リンクされているカウンタを表示] ウィザードの機能

[リンクされているカウンタを表示] (sysSamSoftLicLinkedCount) ウィザードの計算ルールは次のとおりです。

- 1 リンクされているカウンタを計算して、カウンタごとの権限およびソフトウェアインストールを決定します。
- 2 ソフトウェアアップグレードプロセスが適用されます (ソフトウェアアップグレードカウンタを使用して、リンク先のソースカウンタと宛先カウンタの権限をアップグレードします)。次の規則が適用されます。
 - 転送可能な権限の最大数は、ソフトウェアアップグレードカウンタの権限の数と同じです。
 - アップグレードによる転送可能な権限の数は、ソースが遵守を維持できる数に制限されます。
 - 最新バージョンで未使用の権限は以前のバージョンにできるだけ転送して、ソースの権限数を増加させます。
- 3 コンプライアンスの計算：アップグレード後の権限数とインストール/使用数との差。
- 4 合計コンプライアンスが計算されます。できるかぎり、ライセンス権限を以前の非遵守のバージョンに転送します (最新バージョンを非遵守にすることなく)。

ウィザードによって表示される結果は以下の通りです。

- 1 最初の画面：リンクされるカウンタ、権限およびインストール/使用カウンタ、および合計したコンプライアンスの計算のサマリ。
- 2 2番目の画面：この画面はより詳細で、以下が表示されます。
 - リンクしているソフトウェアカウンタと以下の情報のリスト：

列	説明
権限カウンタ	使用可能なライセンス権限数 (直接の権限)
インストール/使用カウンタ	実際のインストール/使用数
最大合計権限カウンタ	直接の権限とソフトウェアアップグレードによって取得できる権限を組み合わせた使用可能な権限の最大数 (権限を転送するカウンタが非遵守になる場合があります) ▶ ソフトウェアアップグレードで権限を転送する [P. 102]
合計権限カウンタ	直接の権限とソフトウェアアップグレードによって取得できる権限を組み合わせた使用可能な権限の最大数 (権限を転送するカウンタが遵守状態を維持します) ▶ ソフトウェアアップグレードで権限を転送する [P. 102]

注意:

ソースカウンタのアップグレードプロセスによる転送可能な権限の数がインストールの遵守を維持するために十分でない場合は、以下のカウンタが権限をソースカウンタに転送して、アップグレードのための権限の転送を可能にします。

列	説明
コンプライアンス	権限数（アップグレード後）（[合計権限カウント] 列）とインストール／使用数の差
合計コンプライアンス	権限転送後（バージョン間のアップグレードと転送後に継承した権限数を含む）のコンプライアンス（該当する場合）

- ソフトウェアアップグレードカウンタと権限数および転送された権限カウントのリスト

実際の転送およびアップグレードはカウンタの詳細画面に一覧表示されます。実際のアップグレード数も、ソフトウェアアップグレードカウンタの詳細画面に表示されます。

ヒント:

このウィザードにより、インストールにおけるソフトウェアライセンスの最適化が容易になり、遵守しているかどうかが表示されます。このウィザードではライセンスおよびライセンス権限は変更されません。

「旧モード」ソフトウェアカウンタ

警告:

このセクションはWindowsクライアントにのみ適用されます。

Asset Managerのバージョン4.3.0では、カウンタの機能が全面的に改良されています。

ただし、Asset Managerの旧バージョンから移行したカウンタもそのまま使用できるように、「旧モード」のカウンタがサポートされています。

「旧モード」カウンタの使用

- 1 画面一覧を表示します（[管理／画面一覧] メニュー）。
- 2 リストのヘッダーで[画面]をクリックします。
- 3 [ソフトウェアカウンタ（以前の書式）]（**sysOldamSoftLicCounter**）を検索します。
- 4 この画面を開きます。

「旧モード」カウンタに関する情報

「旧モード」の詳細については、『AssetCenter 4.2.0 - ポートフォリオ』ガイドの「ソフトウェア」の章、「ソフトウェアカウンタ」のセクションを参照してください。

「旧モード」カウンタの変換

9.3よりも前のバージョンのデータベースをマイグレーションした場合、カウンタはそのままインポートされます。

カウンタは従来と同様にそのまま使用できます。

カウンタをアップグレードしたい場合は、従来のカウンタを参考にして新しいカウンタを作成することをお勧めします。

ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する

ここでは、ソフトウェアライセンス権限が超過している場合に自動通知を送信する方法について説明します。

このタスクは、**【利用できるライセンスがありません】** (BST_SAM01) ワークフロースキームによって自動的に実行されます。

このワークフロースキームは、ソフトウェア資産モジュールの専門分野データの一部です。

▶ 専門分野データの既存データベースへのインポート [P. 34].

このワークフロースキームを次に説明します。

表 8.5. ライセンスコントロール - 利用できるライセンスがありませんワークフロースキーム

パラメータ	説明
ワークフローをトリガするイベント	新しいカウンタの作成 または、次に示す【ソフトウェアカウンタ】 (amSoftLicCounter) テーブルのいずれかのフィールドの変更 <ul style="list-style-type: none">■ 権限数 (lLicUseRights)■ インストール数 (iSoftInstallCount)■ 権限カウント (dLicUseRights)■ インストール/使用カウント (dSoftInstallCount)
ワークフロースキームの実行条件	(iSoftInstallCount > lLicUseRights) OR (dSoftInstallCount > dLicUseRights)
ワークフロースキームの起動と実行にAsset Manager Automated Process Managerが必要か？	いいえ

パラメータ	説明
ワークフロースキームの概要説明	<p>アクション「ライセンス超過について管理者にメールを送信する」(BstSamLicenses_exceeded)で指定した人にメッセージが送信されます。</p> <p>これはデフォルトで、[部署名/姓] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている[部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードに該当する人です。</p> <p>指定された従業員の[電子メール] (EMail) フィールドで指定されたアドレスにメッセージが送信されます。</p>

別の受信者を選択するには、警告メッセージの本体または件名を変更します。

- 1 アクションを表示します (ナビゲーションバーの[管理/アクション] リンク)。
- 2 アクション「ライセンス超過について管理者にメールを送信する」(BstSamLicenses_exceeded)を表示します。
- 3 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク

[メッセージ] タブ

受信者 (MsgTo)

件名 (Subject)

メッセージ (memMsgText)

通知メッセージの受信アドレスを定義するには、

- 1 従業員と部署を表示します (ナビゲーションバーの[組織管理/組織/従業員] リンク)。
- 2 アクション「ライセンス超過について管理者にメールを送信する」(BstSamLicenses_exceeded)の受信者を表示します。
- 3 [電子メール] (EMail) フィールドを変更します。

ソフトウェアカウンタの定期的な自動計算

ここでは、すべてのカウンタを定期的に自動で再計算する方法を説明します。

このタスクは、[定期的なライセンス確認] (BST_SAM02) ワークフローによって実行されます。

[定期的なライセンス確認] ワークフロースキームの主要機能

このワークフロースキームは、ソフトウェア資産モジュールの専門分野データの一部です。

▶ 専門分野データの既存データベースへのインポート [P. 34].

表 8.6. ライセンスコントロール - 定期的なライセンス確認ワークフロースキーム

パラメータ	説明
ワークフロースキームのトリガ	ワークフロースキームの開始イベントのカレンダーで定義された頻度に従う
ワークフロースキームの起動と実行に Asset Manager Automated Process Manager が必要か？	はい
ワークフロースキームの概要説明	このワークフロースキームによって、アクションすべてのソフトウェアのインストールの計算 (BstSamComputeAllLicAndInstall) が実行され、すべてのカウンタが再計算されます。

Asset Manager Automated Process Managerを設定する

Asset Manager Automated Process Managerは、**【定期的なライセンス確認】**ワークフロースキームの最初のイベントのカレンダーに与えられた情報を使用して、**【定期的なライセンス確認】**ワークフローをトリガする必要があるかどうかを試験します。

Asset Manager Automated Process Managerでこのタスクを実行するには：

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 Asset Managerデータベースに接続します（**【ファイル/データベースに接続】**メニュー）。
- 3 モジュールを表示します（**【ツール/モジュールの設定】**メニュー）。
- 4 **「実行グループ'SYS_SAM'にワークフロー規則を適用」** (WkGroupSYS_SAM) モジュールを選択します。
- 5 モジュールのトリガ実行カレンダーを定義します（**【検証スケジュール】** フレーム）。

Asset Manager Automated Process Managerをバックグラウンドタスクとして実行する

Asset Manager Automated Process Managerは、**【実行グループ"SYS_SAM"にワークフロー規則を適用】**モジュールを定期的に行うために、バックグラウンドタスクとして実行する必要があります。

カウンタ再計算の結果

カウンタを再計算すると、特に次のフィールドが更新されます。

フィールド

権限数 (lLicUseRights)

インストール数 (lSoftInstallCount)

権限カウント (dLicUseRights)

インストール/使用カウント (dSoftInstallCount)

資格カウント (dEntCount)

これらのフィールドのいずれかが変更されると、[利用できるライセンスがありません] (BST_SAM01) がトリガされます (▶ ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する [P. 105]) 。

実用例6：ソフトウェアカウンタによるSQL Server V2005ライセンスとインストールの管理

概要

複雑なライセンスポリシーを管理するためのソフトウェアカウンタの実装方法を示す実用例として、ホスト型仮想マシンでのインストールなどのSQL Server V2005ライセンスとインストールの包括的な統計を提示するために4つのソフトウェアカウンタセットが備えられています。

注意:

SQL Server V2008用のカウンタと関連モデルセットも備えられています。SQL Server V2005カウンタに加えて、あるいはSQL Server V2005カウンタに代わってSQL Server V2008カウンタを使用する場合は、このセクションで記載する説明の「SQL Server V2005」の部分を「SQL Server V2008」に置き換えてお読みください。

SQL Server V2005ソフトウェアカウンタ

以下の4つのソフトウェアカウンタが備えられています。

カウンタ名	用途
SQL Server V2005 Standard CPU (BST_SAM_MSSQL_SIDCPU)	[ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルの [割当] (seAssignment) フィールドを [使用中] に設定し、[IT機器] (amComputer) テーブルの [有効なライセンスモデル] (InstallLicType) フィールドを [SQL Server V2005 Standard CPU] に設定している物理コンピュータおよびVM上の各物理CPU に対するMSSQLのインストール総数を返します。

カウンタ名	用途
SQL Server V2005 Standard Server (BST_SAM_MSSQLSTDSRV)	[ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルの [割当] (seAssignment) フィールドを [使用中] に設定し、 [IT機器] (amComputer) テーブルの [有効ライセンスモデル] (InstallLicType) フィールドを [SQL Server V2005 Standard Server] に設定している物理コンピュータおよびVM上のMSSQLのインストール総数を返します。
SQL Server V2005 Enterprise Server (BST_SAM_MSSQLENTSRV)	[ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルの [割当] (seAssignment) フィールドを [使用中] に設定し、 [IT機器] (amComputer) テーブルの [有効ライセンスモデル] (InstallLicType) フィールドを [SQL Server V2005 Enterprise Server] に設定している物理コンピュータ上のMSSQLのインストール総数を返します。
SQL Server V2005 Enterprise CPU (BST_SAM_MSSQLENTCPU)	<p>注意:</p> <p>MSSQLは、ライセンスポリシールールに従った正確なインストール数を返すことが可能なカウンタに対して指定した物理マシン上にインストールする必要があります。そうしないと、物理マシンに搭載されている物理CPUの数に関係なく、物理マシン上でホストされるVM上でのインストール総数を返します。</p> <p>[ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルの [割当] (seAssignment) フィールドを [使用中] に設定し、 [IT機器] (amComputer) テーブルの [有効ライセンスモデル] (InstallLicType) フィールドを [SQL Server V2005 Enterprise Server] に設定 (ただし、CPU数の最大数に制限がある) している物理コンピュータおよびVM上の各物理CPUに対するMSSQLのインストール総数を返します。</p>

SQL Server V2005モデル

SQL Server V2005カウンタをサポートするために以下の新モデルが用意されています。

- 1つの新しいインストールモデル : **SQL Server V2005**
このモデルはSystem\Database管理システムソフトウェアの親を持ち、属性は [ソフトウェアインストール] (SOFT_INSTALL) です。このモデルは、HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryの棚卸モデルに対応する確定版モデルになります。
- 4つの新しいライセンスモデル :
 - **SQL Server V2005 Standard Server** (MSSQL2005STDSRV)
 - **SQL Server V2005 Enterprise Server** (MSSQL2005ENTSRV)
 - **SQL Server V2005 Standard CPU** (MSSQL2005STDCPU)
 - **SQL Server V2005 Enterprise CPU** (MSSQL2005ENTCPU)

これらのモデルの属性は [ソフトウェアライセンス] (SOFT_LICENSE) です。これらのモデルは、 [IT機器] (amComputer) テーブルの [有効ライセンスモデル] (InstallLicType) フィールドへの入力に使用します。

SQL Server V2005クエリ

ライセンスモデルに対応する実際のレコードを返すために以下の標準クエリ（フィルタ）セットが用意されています。

クエリ名	SQL名	クエリ操作の対象となるテーブル
SQL Server V2005 Enterprise CPUインストール	MSSQL2005ENTSTDLIC	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)
SQL Server V2005 Enterprise CPUライセンス	MSSQL2005ENTCPULIC	資産 (amAsset)
SQL Server V2005 Enterprise Serverインストール	MSSQL2005ENTSRVINST	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)
SQL Server V2005 Enterprise Serverライセンス	MSSQL2005ENTSRVLIC	資産 (amAsset)
SQL Server V2005 Standard CPUライセンス	MSSQL2005ENTSTDLIC	資産 (amAsset)
SQL Server V2005 Standard CPUインストール	MSSQL2005STDCPUINST	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)
SQL Server V2005 Standard Serverインストール	MSSQL2005STDSRVINST	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)
SQL Server V2005 Standard Serverライセンス	MSSQL2005STDSRVLIC	資産 (amAsset)

前提条件

ソフトウェア資産ライセンスモジュールをアクティブにする必要があります。前述のカウンタを使用可能にするには、さらに次の手順に従う必要があります。

- SAM専門分野データをインストールする必要があります。
このインストールにより、上記に一覧したモデル、クエリ、カウンタがインストールされます。
- カウンタが合計数を正確に算出できるように、**[IT機器]** (amComputer) テーブルの**[有効なライセンスモデル]** (InstallLicType) フィールドに適切なSQL Serverライセンスポリシーに対応するモデルを入力します。**[IT機器]** (amComputer) 画面の**[ライセンス]** ボタンを押すと、ウィザードが起動します。ウィザードに従うと操作が簡単にできます。



注意:

物理コンピュータに割り当てられているライセンスモデルは、どのホスト型VMにも適用されます。

以下にこれらの手順を説明します。

SAM専門分野データをインストールする

拡張された専門分野データをインストールするのに必要な一般的な手順の詳細については、専門分野データの既存データベースへのインポート [P. 34]を参照してください。[インポートするデータ] ページで、[ソフトウェア資産管理] 行を選択し、[完了] をクリックします。

スクリプトの実行が完了すると、「sam.lst」スクリプトの正常実行を確認したことになります。

HP Discovery and Dependency Mapping InventoryでSQL Server V2005インストールをスキャンする

HP Discovery and Dependency Mapping Inventoryを使用してスキャンしたSQL Server V2005インストールをインポートするための推奨HP Connect-Itシナリオは、「dmiam-swnorm.scn」です。このシナリオは、**SQL Server V2005**インストールモデルにインストールをリンクします。

ライセンスモデルをコンピュータにリンクおよびリンク解除する

ソフトウェアアプリケーションの多くでは、IT機器上でHP Discovery and Dependency Mapping Inventoryなどを使用してスキャンしたソフトウェアインストールから直接そのライセンスポリシーを推測できます。ただし、SQL Server V2005インストールの場合、指定されたサーバーに適用可能なライセンスポリシーを、スキャンした詳細情報から推測することができないので、関連カウンタが結果を正確に算出するように手動で関連付ける必要があります。表示されたウィザードを使用してモデルをコンピュータにリンクするには、次の手順に従います。

- 1 [IT機器] (amComputer) 画面の [Install.Types(インストールの種類)] ボタンをクリックします。



注意:

実際、このボタンは、**Computers and virtual machines**(コンピュータと仮想マシン)、[モバイル機器]、および[仮想マシン]などの他のIT機器画面で使用できるため、これらの種類の機器からライセンスモデルへのリンクを容易に管理できます。

このボタンをクリックすると、[有効なライセンスモデルをコンピュータに関連付け] (sysSAMAddLicInstall2Computers) ウィザードが起動します。

- 2 [ライセンスポリシーを選択] ページで、適用するライセンスモデルを選択し、[次へ] をクリックします。

 ヒント:

文字列SQLを含むライセンスモデルのみを表示するには、[次の文字を含むモデル名] フィールドにこの文字列を入力し、[フィルタを適用] をクリックします。モデル階層をドリルダウンしたときに、ここで指定したライセンスモデルが表示されるようになります。

- 3 [ソフトウェアインストールモデルを選択] ページで、ソフトウェアをインストールするIT機器をフィルタするインストールモデルを選択し、[次へ] をクリックします。

 ヒント:

文字列SQLを含むライセンスモデルのみを表示するには、[次の文字を含むモデル名] フィールドにこの文字列を入力し、[フィルタを適用] をクリックします。

- 4 フィルタに含める機器の種類を選択するには、[IT機器に適用する追加フィルタを選択] ページで該当する機器の種類をクリックします。少なくとも、[コンピュータ] などの1つの機器の種類を選択する必要があります。

Filter on(次で検索) トグルを使用して、関連付けられたライセンスモデルが1つ以上存在するIT機器、または関連付けられたライセンスモデルがまだ存在しないIT機器のいずれかを選択します。[次へ] をクリックします。

- 5 [IT機器を選択] ページには、ここまでのページで定義したフィルタの結果が表示されます。ここで次のページのモデルと関連付けるサブセットを選択できます。[次へ] をクリックします。
- 6 [ライセンスポリシーにIT機器をリンク] ページで、機器をライセンスモデルにリンク、またはリンク解除することができます。
 - 機器とモデルをリンクするには、機器とモデルを上位2つのリストから選択し、[選択されたIT機器を選択されたライセンスモデルにリンク] をクリックします。
 - 機器とモデルのリンクを解除するには、下位のリストからエントリを選択し、[IT機器を選択されたエントリのライセンスモデルからリンク解除] をクリックします。

[完了] をクリックします。

メッセージにより、正常にリンクまたはリンク解除されたことが確認できます。

SQL Server V2005カウンタを使用する

SQL Server V2005カウンタの機能は他のソフトウェアカウンタと同様です。これらのカウンタには、ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ】** リンクからアクセスできます。

- 1 更新するカウンタを選択します。
- 2 **【計算】** をクリックします。
- 3 **【全般】** タブと **【結果】** タブにある結果を調べます。

ソフトウェアカウンタの使用の詳細については、「**カウンタの結果を更新するには** [P. 94]」セクションを参照してください。

SQL Server V2005クエリを使用する

SQL Server V2005クエリの機能は他の標準クエリと同様です。SQL Server V2005クエリは、Windowsクライアントのメニューバーにある **【ツール/クエリ...】** リンクからアクセスし、必要に応じてカスタマイズできます。

クエリを手動で実行するには、次の手順に従います。

- 1 クエリ操作の対象となる次のテーブルを選択します。
ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/資産】** または **【ポートフォリオ管理/資産構成/ソフトウェアのインストール】**。
- 2 右クリックして状況依存メニューを表示し、**【クエリフィルタ】** を選択します。
- 3 **【条件】** フィールドで、表示されたテーブルに適用するクエリを1つ選択します。
- 4  (**【検索開始】**) ボタンをクリックします。

例えばレポートやウィザードの一部としてAQLコードでクエリを呼ぶために **AmQueryExec()**関数を使用することもできます。詳細については、『**Programmers' reference**』ガイドの「**Alphabetical reference/AmQueryExec()**」のセクションを参照してください。

9 レポートとグラフの表示

ソフトウェアのコントロールパネルの表示

コントロールパネルを表示する

方法1： [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- a [ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- b [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、 [レポートとグラフを表示] オプションを選択します。
- c [次へ] をクリックします。
- d [レポートとグラフを表示] ページで、 [一般的なコントロールパネル] ボタンをクリックします。

方法2： ナビゲーションバーのリンクを使用する

ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/コントロールパネル/ソフトウェアのコントロールパネル] リンクをクリックします。

コントロールパネルをカスタマイズする

コントロールパネルを構成するレポートの一覧を変更するには：

- 1 アクションを表示します（ナビゲーションバーの **【管理／アクション】** リンク）。
- 2 アクション **【ソフトウェアのコントロールパネル】**（BstSamDashBoard）を選択します。
- 3 **【インジケータ】** タブを選択します。
- 4 コントロールパネル内の統計とレポートの一覧を変更します。
- 5 変更を保存します（**【変更】** ボタン）。

ソフトウェアに関するレポートを表示する

方法1： **【ソフトウェアの管理】ウィザード（sysSamLauncher）** を使用する

- 1 **【ソフトウェアの管理】** ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル／ソフトウェア資産管理／ユーザのアクション／ソフトウェアの管理...】** リンク）。
- 2 **【ソフトウェアの管理アクションを選択...】** ページで、**【レポートとグラフを表示】** オプションを選択します。
- 3 **【次へ】** をクリックします。
- 4 **【レポートとグラフを表示】** ページで、選択したレポートに対応するボタンをクリックします。

方法2： **メニュー** を使用する

 **注意:**

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

- 1 レポートを表示します（ナビゲーションバーの **【管理／レポート機能／レポート】** リンク）。
- 2 **【ドメイン】** 列がリストに表示されない場合：
 - a リスト内で右クリックします。
 - b ショートカットメニューから **【ユーティリティ／リストの設定】** を選択します。
 - c **【ドメイン】**（Domain）リンクをリスト内の列に追加します。
 - d **【OK】** をクリックします。

- 3 【ドメイン】列でリストを並び替えます。
- 4 ソフトウェア資産モジュールに属するレポートは、「/資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/レポート/」または「/ポートフォリオ管理/資産構成/レポート/」のオプションパスによって選択可能です。

III 実用例

10 実用例

一般情報と前提条件

一般情報

実用例は、**Asset Manager**を使ってソフトウェア資産を管理する方法を示します。

実用例はそれぞれ、ソフトウェア管理の特定の側面を扱っています。

実用例を正しく動作させるには、各ステップを最後まで実行し、示された手順に従う必要があります。基本的なフィールドとリンクだけが示されています。他のフィールドやリンクを自分で調べてみてもかまいません。

前提条件

実用例を実行するには、次の準備が必要です。

- 1 **Admin**ログイン（対応パスワードは空）を使用して**Asset Manager**のデモ用データベースに接続する。
- 2 **Windows**クライアント使用時：[ファイル/モジュールの管理]メニューで、少なくとも**ポートフォリオ**、**ソフトウェア資産**、**調達**、**ファイナンス**、**契約**、**管理**の各モジュールを起動してください。
- 3 **ソフトウェア資産**モジュールから、**専門分野データ**をインポートします。
 - ▶ **専門分野データの既存データベースへのインポート** [P. 34].

実用例1：必要品目の作成

はじめに

この実用例は、今後の実用例で使用する品目の作成方法について説明します。

属性を作成します

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産構成/属性]リンク）。
- 2 3つの新規レコードを作成します。各レコードについて、[新規作成]をクリックして開始します。次のテーブルで示すようにフィールドとリンクに必要な情報を入力します。[作成]をクリックします。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - コンピュータ
[全般] タブ	
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	コンピュータ (amComputer)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ソフトウェアをインストール (bHasSoftInstall)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - ライセンス
[全般] タブ	
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	(テーブルなし)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ライセンス (bSoftLicense)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - インストール
[全般] タブ	
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)

フィールドまたはリンク	値
管理条件 (seMgtConstraint)	個別管理しない

実用例4：契約ライセンスを作成する

前提条件

この実用例は、必ず実用例1を最後まで実行してから実行する必要があります。

はじめに

この実用例は、ライセンス契約を作成および変更する方法について説明します。

シナリオ

「**Pc4 - 鴨山**」氏は、本社の経営情報管理部門にいます。

「**PC4 - 鴨山**」氏は、グローバルライセンス契約と別にライセンス「**PC4 - PowerPoint**」を取得します。このライセンスをAsset Managerデータベースに記録します。

後の段階で、「**PC4 - 鴨山**」氏はグローバルライセンス契約「**PC4 - Microsoft ライセンス契約**」を会社「**PC4 - Microsoft**」と結びます。

契約「**PC4 - Microsoft ライセンス契約**」は、データベース内に作成してから、更新します。また、通知期間内に契約を終了するために期間満了日のアラームを設定します。

「**Pc4 - 鴨山**」氏は、ライセンス「**PC4 - PowerPoint**」を契約「**PC4 - Microsoft ライセンス契約**」に改めて組み込むことによって、一括契約にしようと思っています。

契約「**PC4-001**」はメンテナンス契約にリンクされているので、「**PC4 - 鴨山**」氏はメンテナンス契約をAsset Managerデータベースに作成し、それを契約「**PC4 - Microsoft ライセンス契約**」にリンクします。

実用例の主要段階

- 1 契約の責任者を作成する [P. 124]
- 2 会社の場所を作成する [P. 124]
- 3 サプライヤが署名した紙の書類をスキャンしたファイルを作成する [P. 125]
- 4 「**PC4 - 鴨山**」としてデータベースに接続する [P. 125]
- 5 PC4 - PowerPointライセンスのリセラーを作成する [P. 125]
- 6 PC4 - PowerPointライセンスのモデルを作成する [P. 127]
- 7 PC4 - PowerPointライセンスに対応する資産を作成する [P. 127]

- 8 契約を作成する [P. 126]
- 9 契約「PC4-001」を変更する [P. 128]
- 10 ウィザードによって作成および変更された契約を調べる [P. 129]
- 11 契約終了日に対するアラームに関連付けられたアクションを作成する [P. 130]
- 12 アラームを終了日に関連付ける [P. 130]
- 13 Asset Manager Automated Process Managerでアラームの検証 (Alarms) モジュールをトリガする [P. 131]
- 14 「PC4 - 鴨山」としてデータベースに再接続する [P. 131]
- 15 PC4 - PowerPointライセンスに関連付けられた請求書を作成する [P. 132]
- 16 ライセンス「PC4 - PowerPoint」に対応した請求書に明細を追加 [P. 132]
- 17 ライセンス「PC4 - PowerPoint - ライセンス」の請求明細を契約「PC4-001」にリンクする [P. 133]
- 18 メンテナンス契約を契約「PC4-001」に関連付ける [P. 134]
- 19 メンテナンス契約を変更する [P. 135]

実行する手順

契約の責任者を作成する

- 1 従業員を表示します (ナビゲーションバーの [組織管理/組織/従業員] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。([新規作成] ボタン)。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC4 - 鴨山
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:kamoyama
[プロフィール] タブ	
アクセスタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ユーザ名 (UserLogin)	kamoyama
パスワード (LoginPassword)	空にしておきます。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

会社の場所を作成する

- 1 場所を表示します (ナビゲーションバーの [組織管理/組織/場所] リンク)。

- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。（**【新規作成】** ボタン）。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - 本社
市町村 (City)	PC4 - パリ

注意:

「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、**【はい】** をクリックします。

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

サプライヤが署名した紙の書類をスキャンしたファイルを作成する

- 1 テキストエディタを起動します。
- 2 テキストを入力します。

このドキュメントは、サプライヤが署名した紙の書類をスキャンしたものです。

- 3 このファイルを「C:\Temp\Contract.txt」として保存します。
- 4 テキストエディタを終了します。

「PC4 - 鴨山」としてデータベースに接続する

- 1 「PC4 - 鴨山」としてデータベースに接続します。
 - Windowsクライアント：**【ファイル／データベースに接続】** メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	kamoyama
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

PC4 - PowerPointライセンスのリセラーを作成する

- 1 会社を表示します（ナビゲーションバーの**【組織管理／組織／会社】** リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - Microsoft

3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

契約を作成する

- 1 【ソフトウェアの管理】 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 2 【ソフトウェアの管理アクションを選択...】 ページで、【ソフトウェア契約の管理】 オプションを選択します。
- 3 【次へ】 をクリックします。
- 4 【ソフトウェア契約の管理】 ページで、【契約を作成】 ボタンをクリックします。
これにより、【ソフトウェア契約を作成...】 (sysSamCreateSoftContract) ウィザードが開始します。
- 5 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動は【次へ】 ボタン、【戻る】 ボタンを使用します)。

フィールドまたはリンク	レコード
【ソフトウェア契約を作成...】 ページ	
新規作成	はい
【契約のタイプを決定】 ページ	
作成する契約のタイプを選択	一般ソフトウェア契約
【契約に関連する情報を指定】 ページ	
契約番号	PC4-MSNUM001
【この契約のサプライヤ(会社)を選択】 ページ	
名前	PC4 - Microsoft
新規ベンダ	いいえ
【サプライヤの詳細を定義】 ページ	
新規連絡先	はい
【新規連絡先を定義】 ページ	
姓	PC4 - Kramer
役職	PC4 - セールスエンジニア
【サプライヤの場所を定義】 ページ	
新しい場所	はい
【サプライヤの場所を定義】 ページ	
場所の名前	PC4 - フランスの子会社
市町村	PC4 - パリ
【一般契約情報を定義】 ページ	
契約の内部リファレンス (Ref)	PC4-001
目的	PC4 - Microsoft ライセンス契約
契約番号	PC4-MSREF001

フィールドまたはリンク	レコード
開始	2005/01/01
終了	2005/12/31
通知	2 ヶ月
財務情報を定義 ページ	
支払属性	なし
【社内連絡先を定義】 ページ	
責任者	PC4 - 鴨山
通知先住所	/PC4 - 本社/
【契約上の契約条件を指定】 ページ	何も入力しないでください。
【契約に新規ドキュメントを追加】 ページ	何も入力しないでください。
【概要】 ページ	
契約の作成後に実行するステップを選択	なし

- 6 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（**【完了】** ボタン）。
ウィザードによって契約、サプライヤの場所、およびサプライヤの連絡先が作成されます。
- 7 ウィザードを終了します（**【OK】** ボタン）。
- 8 ウィザードを終了します（**【完了】** ボタン）。

PC4 - PowerPointライセンスのモデルを作成する

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの **【ポートフォリオ管理／資産構成／モデル】** リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - PowerPoint - ライセンス
属性 (Nature)	PC1 - ライセンス

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

PC4 - PowerPointライセンスに対応する資産を作成する

- 1 **【ソフトウェアの管理】** (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル／ソフトウェア資産管理／ユーザーのアクション／ソフトウェアの管理】** リンク）。
- 2 **【ソフトウェアの管理アクションを選択...】** ページで、**【対象のソフトウェア契約を選択】** ボタンをクリックします。
- 3 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページ間の移動は **【次へ】** ボタン、**【戻る】** ボタンを使用します）。

フィールドまたはリンク	レコード
[対象のソフトウェア契約を選択] ページ	
[契約] リスト	契約「 PC4-001 (PC4 - Microsoftライセンス契約) 」を選択します。

- 4 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（**[OK]** ボタン）。
- 5 **[ソフトウェアの管理アクションを選択...]** ページで、**[ソフトウェアライセンスとインストールの管理]** オプションを選択します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 **[ソフトウェアライセンスとインストールの管理]** ページで、**[ライセンスを作成]** ボタンをクリックします。
これにより、**[新規ソフトウェアライセンスを作成...]** (sysSamCreateLicpfi) ウィザードがトリガされます。
- 8 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページ間の移動は**[次へ]** ボタン、**[戻る]** ボタンを使用します）。

フィールドまたはリンク	レコード
[作成するソフトウェアライセンスモデルを選択] ページ	
[ソフトウェアモデルを選択] リスト:	「PC4 - PowerPoint - ライセンス」 レコードを選択します
[ライセンスに関する全般情報を入力] ページ	
資産タグ	PC4-001
[ライセンスに関する財務情報を入力] ページ	
ライセンス契約	PC4-001 (PC4 - Microsoftライセンス契約)
概要: ページ	
なし	はい

- 9 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（**[完了]** ボタン）。
ウィザードにより、ライセンスが作成され、契約にリンクされます。

契約「**PC4-001**」を変更する

- 1 **[ソフトウェアの管理]** (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの**[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理]** リンク）。
- 2 対象の契約が「**PC4-001**」であることを確認します。
そうでない場合は選択します（**[別の対象となるソフトウェア契約を選択]** ボタン）。
- 3 **[ソフトウェアの管理アクションを選択...]** ページで、**[ソフトウェア契約の管理]** オプションを選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。

- 5 【ソフトウェア契約の管理】 ページで、【契約を変更】 ボタンをクリックします。
これにより、【ソフトウェア契約を変更...】 (sysSamCreateSoftContract) ウィザードが開始します。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動は【次へ】 ボタン、【戻る】 ボタンを使用します)。

フィールドまたはリンク	値
【ソフトウェア契約を変更...】 ページ	
変更する契約を選択：	対象の契約PC4-001 (PC4-Microsoftライセンス契約) を変更する
変更する契約の項目を選択ページ	
契約にドキュメントを追加	はい
【契約に新規ドキュメントを追加】 ページ	
名称	PC4 - ISPとの契約
完全ファイル名	C:\Temp\Contract.txt
カテゴリ	PC4 - スキャンされた契約
ステータス	承認済
【リストに追加】 をクリックします。	
【概要】 ページ	
契約の作成後に実行するステップを選択	なし

- 7 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します (【完了】 ボタン)。
ウィザードによってドキュメントが追加されます。
- 8 ウィザードを終了します (【OK】 ボタン)。
- 9 ウィザードを終了します (【完了】 ボタン)。

ウィザードによって作成および変更された契約を調べる

- 1 契約を表示します (ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約】 リンク)。
- 2 契約「PC4-001」 (リファレンス (Ref) フィールド) の詳細画面を表示します。
- 3 特に、次のフィールドとリンクに注意を向けて下さい。

フィールドまたはリンク	値
リファレンス (Ref)	PC4-001
タイプ (seType)	選択することなく、値「ライセンス」がウィザードによって自動的に割り当てられます。
目的 (Purpose)	PC4 - Microsoftライセンス契約
【全般】 タブ	
責任者 (Supervisor)	PC4 - 鴨山

フィールドまたはリンク	値
属性 (Nature)	一般ソフトウェア契約
契約番号 (ContractNo)	PC4-MSREF001
会社 (Company)	PC4 - Microsoft
開始日 (dStart)	2005/01/01
終了日 (dEnd)	2005/12/31
通知 (tsNotice)	2ヶ月
[連絡先] タブ	
通知先住所 (NotiffAddress)	/PC4 - 本社/
連絡先 (Contact)	PC4 - Kramer
[ドキュメント] タブ	ウィザードにリンクしたドキュメントが表示されます。
[ライセンス] タブ	「PC4 - PowerPoint - ライセンス (PC4-001)」が見つかります。

4 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

契約終了日に対するアラームに関連付けられたアクションを作成する

- 1 アクションを表示します (ナビゲーションバーの [管理/アクション] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。([新規作成] ボタン)。

フィールドまたはリンク	値
名前	PC4 - 期間満了アラーム
コンテキスト	契約 (amContract)
タイプ	メッセージ
[メッセージ] タブ	
受信者	AM:kamoyama
件名	満了日が近づいています
メッセージ	契約[Ref]の満了日は[dEnd]です。通知期間：[ts Notice]

3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

アラームを終了日に関連付ける

- 1 契約を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約] リンク)。
- 2 契約「PC4-001」(リファレンス (Ref) フィールド) の詳細画面を表示します。
- 3 [全般] タブを選択します。
- 4 [終了] (dEnd) フィールドの右にある [アラーム] アイコンをクリックします。

- 5 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
アラーム日	はい
トリガ	90
アクション	PC4 - 期間満了アラーム

- 6 アラームを保存します（**[OK]** ボタン）。
- 7 契約を変更します（**[変更]** ボタン）。
- 8 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

Asset Manager Automated Process Managerでアラームの検証（Alarms）モジュールをトリガする

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します（Windowsの【スタート/プログラム/HP Software/Asset Manager 9.30 <言語>/Asset Manager Automated Process Manager】メニュー）。
- 2 **Admin**としてデータベースに接続します（【ファイル/データベースに接続】メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	Admin
パスワード	空にしておきます。
この接続をサービスモードで使用	いいえ

- 3 起動するアクションを表示します（【アクション/起動】リンク）。
- 4 アクション【アラームの検証】を選択します。
- 5 選択したアクションを実行します（**[OK]** ボタン）。
- 6 Asset Manager Automated Process Manager を終了します（【ファイル/終了】メニュー）。

「PC4 - 鴨山」としてデータベースに再接続する

- 1 Asset Managerクライアントを有効にします。
- 2 「PC4 - 鴨山」としてデータベースに再接続します。
 - Windowsクライアント：【ファイル/データベースに接続】メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続

フィールド	値
ログイン	kamoyama
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

Asset Managerによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。

- 未読のメッセージを表示します（[はい] ボタン）。
 [メッセージを読む] (sysCoreReadMsg) ウィザードがトリガされます。
- [次へ] をクリックします。
 契約の終了日が近づいていることを通知するメッセージの詳細画面がウィザードによって表示されます。
- 契約の詳細画面を表示します（参照オブジェクトボタン）。
- 契約の詳細画面を閉じます
- ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。

PC4 - PowerPointライセンスに関連付けられた請求書を作成する

- 請求書を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/請求書/サプライヤの請求書] リンク）。
- 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
番号 (InvoiceNumber)	PC4-001
サプライヤ (Supplier)	PC4 - Microsoft
[全般] タブ	
目的 (Purpose)	PC4 - PowerPoint - ライセンス
請求ステータス (seStatus)	支払済

- 請求書の詳細画面を表示したままにします。

ライセンス「PC4 - PowerPoint」に対応した請求書に明細を追加

- 「PC4-001」請求書の詳細画面が表示されていることを確認します。
- [明細] タブを選択します。
- 次の表に示すように、フィールドとリンクを入力して次のレコードを追加します（[+] ボタン）。

フィールドまたはリンク	値
数量 (fQty)	1

フィールドまたはリンク	値
詳細 (Description)	PC4 - PowerPoint - ライセンス

- 4 明細を追加します（[追加]）。
- 5 請求書を変更します（[変更] ボタン）。
- 6 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

ライセンス「PC4 - PowerPoint - ライセンス」の請求明細を契約「PC4-001」にリンクする

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理] リンク）。
- 2 対象の契約が「PC4-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します（[別の対象となるソフトウェア契約を選択] ボタン）。
- 3 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ソフトウェア契約の管理] ウィザードページで、[請求明細をリンク] ボタンをクリックします。
これにより、[契約に請求明細をリンク] (sysSamLinkInvoices2Cntr) ウィザードが開始します。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページ間の移動は[次へ] ボタン、[戻る] ボタンを使用します）。

フィールドまたはリンク	レコード
[契約 'PC4-001 (PC4 - Microsoftライセンス契約) ' でサプライヤ別に請求明細をフィルタする場合に指定] ページ	
契約サプライヤでフィルタ	はい
サプライヤの請求書を選択ページ	
サプライヤの請求書	請求「PC4-001 PC4 - Microsoft」を選択します。
契約 'PC4-001 (PC4 - Microsoftライセンス契約) ' にリンクする請求明細を選択ページ	
請求明細	明細「PC4-001 1 PC4 - PowerPointライセンス 10」を選択します。

- 7 入力した内容を確定します（[完了] ボタン）。
これにより、請求明細が契約にリンクされます。
- 8 ウィザードを終了します（[OK] ボタン）。
- 9 ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。

- 10 契約を表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約] リンク）。
- 11 「PC1-004」（リファレンス（Ref）フィールド）を選択します。
- 12 特に、次のフィールドとリンクに注意を向けて下さい。

フィールドまたはリンク	値
[請求明細] タブ	請求明細「1 PC4 - PowerPointライセンス 0 /PC4-001/」が表示されます。

- 13 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

メンテナンス契約を契約「PC4-001」に関連付ける

- 1 「Pc4 - 鴨山」としてデータベースに接続していることを確認します。
- 2 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理] リンク）。
- 3 対象の契約が「PC4-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します（[別の対象となるソフトウェア契約を選択] ボタン）。
- 4 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[メンテナンス契約] セクションの [契約を作成] をクリックします。
これにより、[契約を作成] (BstCntrCreateContract) ウィザードが開始します。
- 7 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページ間の移動は [次へ] ボタン、[戻る] ボタンを使用します）。

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェア契約 PC4-001 (PC4-Microsoftライセンス契約) にリンクされたメンテナンス契約を定義します。] ページ	
契約番号	PC4-MAINT001
目的	サポートとアップグレード
開始	2011年1月1日
終了	2011年11月30日
資産をメンテナンス契約にリンク	はい
[資産を契約にリンク] ページ	
追加日	2011年1月1日
削除予定日	2011年11月30日

フィールドまたはリンク	レコード
資産のリスト	「 PC4-001 」レコードを選択します（[資産タグ] フィールド）。
[契約の作成] ページ	
責任者	PC4 - 鴨山
通知先住所	/PC4 - 本社/
[契約の作成] ページ	何も入力しないでください。
[契約書およびメモ] ページ	何も入力しないでください。
[概要] ページ	
契約の詳細を表示	はい

- 8 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（[完了] ボタン）。
- 9 ウィザードを終了します（[OK] ボタン）。
ウィザードによって、メンテナンス契約が作成および表示されます。
- 10 特に、次のフィールドとリンクに注意を向けて下さい。

フィールドまたはリンク	値
タイプ (seType)	選択することなく、値「メンテナンス」がウィザードによって自動的に割り当てられます。
目的 (Purpose)	サポートとアップグレード
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	契約が対象の契約「 PC4-001 (PC4 - Microsoft ライセンス契約) 」に自動的にリンクされます。
責任者 (Supervisor)	PC4 - 鴨山
契約番号 (ContractNo)	PC4-MAINT001
会社 (Company)	PC4 - Microsoft
開始日 (dStart)	2011年1月1日
終了日 (dEnd)	2011年11月30日
通知 (tsNotice)	2ヶ月
[連絡先] タブ	
通知先住所 (NotiffAddress)	/PC4 - 本社/
連絡先 (Contact)	PC4 - Kramer
[資産] タブ	「 PC4 - PowerPoint - ライセンス 」が表示されます。

- 11 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

メンテナンス契約を変更する

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理] リンク）。
- 2 対象の契約が「**PC4-001**」であることを確認します。

そうでない場合は選択します（[別の対象となるソフトウェア契約を選択] ボタン）。

- 3 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[メンテナンス契約] セクションの [契約を変更] をクリックします。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページ間の移動は [次へ] ボタン、[戻る] ボタンを使用します）。

フィールドまたはリンク	レコード
[変更するメンテナンス契約を選択] ページ	
契約	契約「PC4-001」の付属契約を選択します。
契約を既存の契約にリンク	いいえ
[作成する契約の任意管理項目を変更] ページ	
終了	2011年12月31日

- 7 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（[完了] ボタン）。
ウィザードによって契約、サプライヤの場所、およびサプライヤの連絡先が作成されます。
- 8 ウィザードを終了します（[OK] ボタン）。
- 9 ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。
- 10 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

実用例3：契約ライセンスの承認を管理

はじめに

この実用例では、ライセンス契約の完全な承認手順を紹介します。

シナリオ

経営情報管理部門の「PC3 - 高田」氏は、サプライヤとの間で契約を締結しようとしています。

この種類の契約は、「PC3 - 予算面での承認」というグループによって予算の観点から承認する必要があります。このグループは、リーダーが最高財務責任者「Pc3 - 安藤」氏で、メンバーに会計士「Pc3 - 手塚」氏がいます。

契約を予算の観点から承認する場合、「**PC3 - 法務面での承認**」というグループによって法律的な点から承認することも必要です。このグループは、リーダーが法律顧問の「**PC3 - 寺井**」氏で、メンバーに弁護士「**PC3 - 福山**」氏がいます。承認は、グループリーダーが行うことも、メンバーの一員が行うこともできます。

実用例の主要段階

- 1 承認者を作成する [P. 137]
- 2 契約を作成する（「PC3 - 高田」氏） [P. 139]
- 3 承認グループを作成する [P. 140]
- 4 契約承認（sysSam_CNTR_APPR）ワークフロースキームのカスタマイズ [P. 141]
- 5 承認を依頼する（「Pc3 - 高田」氏） [P. 142]
- 6 契約の予算面での承認を却下する（「Pc3 - 安藤」氏） [P. 143]
- 7 契約を変更して承認用に再提出する（「Pc3 - 高田」氏） [P. 144]
- 8 予算の観点から契約を承認する（「Pc3 - 手塚」氏） [P. 144]

実行する手順

承認者を作成する

- 1 従業員を表示します（ナビゲーションバーの「**組織管理／組織／従業員**」リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。（「**新規作成**」ボタン）。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC3 - 安藤
役職 (Title)	最高財務責任者
注意:	
「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。	
【全般】 タブ	
電子メール (EMail)	AM:andou
【プロフィール】 タブ	
アクセスタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ユーザ名 (UserLogin)	andou
パスワード (LoginPassword)	空にしておきます。

フィールドまたはリンク	値
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC3 - 手塚
役職 (Title)	会計担当者

注意:

「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。

[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:tezuka
[プロフィール] タブ	
アクセスタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ユーザ名 (UserLogin)	tezuka
パスワード (LoginPassword)	空にしておきます。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC3 - 福山
役職 (Title)	法律顧問

注意:

「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。

[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:fukuyama
[プロフィール] タブ	
アクセスタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ユーザ名 (UserLogin)	fukuyama
パスワード (LoginPassword)	空にしておきます。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	Pc3 - 寺井

注意:

「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。

フィールドまたはリンク	値
役職 (Title)	弁護士
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:terai
[プロフィール] タブ	
アクセスタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ユーザ名 (UserLogin)	terai
パスワード (LoginPassword)	空にしておきます。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC3 - 高田
役職 (Title)	最高情報責任者

注意:

「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。

[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:takada
[プロフィール] タブ	
アクセスタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ユーザ名 (UserLogin)	takada
パスワード (LoginPassword)	空にしておきます。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

3 Windowsクライアント：従業員のリストを閉じます（[閉じる] ボタン）。

契約を作成する（「PC3 - 高田」氏）

- 1 最高情報責任者「PC3 - 高田」としてデータベースに接続します：
 - Windowsクライアント：[ファイル/データベースに接続] メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空にしておきます。

フィールド	値
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理] リンク)。
- 3 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ソフトウェア契約の管理] ページで、[契約を作成] ボタンをクリックします。
[ソフトウェア契約を作成] (sysSamCreateSoftContract) ウィザードが開始します。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動には [次へ]、[戻る] ボタンを使用)。変更しないページは省略)。

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェア契約を作成...] ページ	
新規作成	はい
[契約のタイプを決定] ページ	
一般ソフトウェア契約	はい
[一般契約情報を定義] ページ	
契約の内部リファレンス (Ref)	PC3-001
財務情報を定義 ページ	
初回金	10000
[社内連絡先の定義] ページ	
責任者	PC3 - 高田
[概要] ページ	
なし	はい

- 7 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します ([完了] ボタン)。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。
- 9 ウィザードを終了します ([完了] ボタン)。

承認グループを作成する

- 1 グループを表示します ([組織管理/処理/従業員グループ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。 ([新規作成] ボタン)。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 予算面での承認
責任者 (Supervisor)	PC3 - 安藤
バーコード (BarCode)	CNTRBUDGET-PC3
新規レコードを作成（ [作成] をクリック）して、次に進みます	
[明細] タブ	
メンバー (Members)	「PC3 - 手塚」を追加します。
[契約] タブ	
契約 (Contracts)	「Pc3 - 001」を追加します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 法務面での承認
責任者 (Supervisor)	PC3 - 寺井
バーコード (BarCode)	CNTRLEGA-PC3
新規レコードを作成（ [作成] をクリック）して、次に進みます	
[明細] タブ	
メンバー (Members)	「Pc3 - 福山」を追加します。
[契約] タブ	
契約 (Contracts)	「Pc3 - 001」を追加します。

- 3 Windowsクライアント：グループのリストを閉じます（ [閉じる] ボタン）。

契約承認 (sysSam_CNTR_APPR) ワークフロースキームのカスタマイズ

注意:

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

- 1 ワークフロースキームを表示します（ナビゲーションバーの [管理/ワークフロー/ワークフロースキーム] リンク）。
- 2 [契約承認] (sysSam_CNTR_APPR) スキームを選択します。
- 3 [アクティビティ] タブを表示します。
- 4 契約承認：技術 (SAM_APPR_CNTR_OPER) アクティビティを削除します（ [契約承認：技術] ボックスのショートカットメニュー [削除] ）。
- 5 契約承認：財務 (SAM_APPR_CNTR_FINA) アクティビティを削除します（ [契約承認：財務] ボックスのショートカットメニュー [削除] ）。
- 6 契約承認：請求 (SAM_APPR_CNTR_BILL) アクティビティを削除します（ [契約承認：請求] ボックスのショートカットメニュー [削除] ）。
- 7 契約承認：法務 (SAM_APPR_CNTR_JURI) アクティビティの詳細を表示します（ [契約承認：法務] ボックスのショートカットメニュー [アクティビティの詳細] ）。
- 8 [パラメータ] タブを表示します。
- 9 [担当者] リンクの詳細画面を表示します（拡大鏡をクリックします）。

10 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
コンテキスト (ContextTable)	契約 (amContract)
タイプ (seType)	式で表されたグループ
スクリプト (memScript)	Const STRJURI="CNTRJURI" RetVal=amDbGetLong("SELECT g.lGroupId FROM amRelEmp lGrpCntr r, amEmplGroup g WHERE r.lGroupId=g.lGroupId AND r.lCntrId='& [lCntrId] & ' AND g.BarCode LIKE ' & STRJURI & '%" if RetVal=0 Then RetVal=amDbGetLong("SELECT lGroupId FROM amEmplGroup WHERE BarCode ='sysSam_CNTR_JURI")

- 11 変更を保存して（[変更] ボタン）、ワークフローの役割の詳細画面を閉じます（[閉じる] ボタン）。
- 12 アクティビティの詳細画面を閉じます（[閉じる] ボタン）。
- 13 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

承認を依頼する（「Pc3 - 高田」氏）

- 1 最高情報責任者「Pc3 - 高田」としてデータベースに接続していない場合は接続します：
 - Windowsクライアント：[ファイル/データベースに接続] メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理] リンク）。
- 3 対象の契約が「PC3-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します（[別の対象となるソフトウェア契約を選択] ボタン）。
- 4 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [契約の承認依頼] ボタンをクリックします。

これにより、**【契約の承認依頼】**（sysSamReqContractApproval）ウィザードがトリガされます。

- 7 ウィザードのページに次のように入力します（ウィザードページ間の移動は**【次へ】** ボタン、**【戻る】** ボタンを使用します）。

フィールドまたはリンク	レコード
【契約の承認を依頼】 ページ	
契約の承認依頼	はい

- 8 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（**【完了】** ボタン）。
- 9 ウィザードを終了します（**【OK】** ボタン）。
- 10 ウィザードを終了します（**【完了】** ボタン）。

契約の予算面での承認を却下する（「Pc3 - 安藤」氏）

- 1 最高財務責任者「**Pc3 - 安藤**」としてデータベースに接続します：
 - Windowsクライアント： **【ファイル/データベースに接続】** メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	andou
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 Asset Managerによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 3 未読のメッセージを表示します（**【はい】** ボタン）。
【メッセージを読む】（sysCoreReadMsg）ウィザードがトリガされます。
- 4 **【次へ】** をクリックします。
ウィザードには、契約の承認が保留中であることを通知するメッセージが表示されます。
- 5 ウィザードを終了します（**【完了】** ボタン）。
- 6 現在のタスクを表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク】** リンク）。
- 7 契約承認：予算タスクを選択します。
- 8 契約を却下します（**【契約を却下】** に続いて **【変更】** ）。
- 9 タスクのリストを閉じます（**【閉じる】** ボタン）。

- 10 最高情報責任者「**PC3 - 高田**」としてデータベースに接続します：
- Windowsクライアント：[ファイル/データベースに接続] メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 11 Asset Managerによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 12 未読のメッセージを表示します（[はい] ボタン）。
- [メッセージを読む]（sysCoreReadMsg）ウィザードがトリガされます。
- 13 [次へ] をクリックします。
- 契約が却下されたこと、承認サイクルを再開できる旨を「**Pc3 - 高田**」氏に通知するメッセージの詳細がウィザードに表示されます。
- 14 ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。

契約を変更して承認用に再提出する（「**Pc3 - 高田**」氏）

- 1 「**Pc3 - 高田**」としてデータベースに接続していることを確認します。
- 2 現在のタスクを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク] リンク）。
- 3 タスク再処理のために却下された契約を選択します。
- 4 却下されたばかりの契約の詳細画面を表示します（[詳細] ボタン）。
- 5 次の表に示すフィールドとリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
初回金 (mIntPay)	3000

- 6 変更を保存します（[変更] ボタン）。
- 7 契約の詳細画面を閉じます（[閉じる] ボタン）。
- 8 契約の承認サイクルを再開します（[はい] に続いて [変更] ）。
- 9 タスクのリストを閉じます（[閉じる] ボタン）。

予算の観点から契約を承認する（「**Pc3 - 手塚**」氏）

- 1 会計士「**PC3 - 手塚**」としてデータベースに接続します：

- Windowsクライアント：[ファイル/データベースに接続] メニュー。
- Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	tezuka
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 契約承認ワークフロースキームではメッセージが承認グループの責任者にしか送信されないため、メッセージがあることはAsset Managerによって通知されません。
- 3 現在のタスクを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク] リンク）。

 **注意:**

「Pc3-手塚」は、予算面での承認タスクに「PC3-予算面での承認」グループのメンバーとしてアクセスできます。

- 4 契約承認：予算タスクを選択します。
- 5 契約を承認します（[契約を承認] に続いて [変更] ボタン）。
- 6 タスクのリストを閉じます（[閉じる] ボタン）。

法律の観点から契約を承認する（「Pc3 - 寺井」氏）

- 1 法律顧問「Pc3 - 寺井」としてデータベースに接続します：
 - Windowsクライアント：[ファイル/データベースに接続] メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	terai
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 Asset Managerによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか？」というメッセージが表示されます。
- 3 未読のメッセージを表示します（[はい] ボタン）。
[メッセージを読む]（sysCoreReadMsg）ウィザードがトリガされます。
- 4 [次へ] をクリックします。

ウィザードには、契約の承認が保留中であることを通知するメッセージが表示されます。

- 5 ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。
- 6 現在のタスクを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク] リンク）。
- 7 **契約の承認：法律タスク**を選択します。
- 8 契約を承認します（[契約を承認] に続いて [変更] ボタン）。
- 9 タスクのリストを閉じます（[閉じる] ボタン）。

承認ステータスについて常に通知を受ける（「PC3 - 高田」氏）

- 1 最高情報責任者「PC3 - 高田」としてデータベースに接続します：
 - Windowsクライアント：[ファイル/データベースに接続] メニュー。
 - Webクライアント：右上にあるアイコンをクリックして接続を解除してから再接続してください。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空にしておきます。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 Asset Managerによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 3 未読のメッセージを表示します（[はい] ボタン）。
[メッセージを読む] (sysCoreReadMsg) ウィザードがトリガされます。
- 4 [次へ] をクリックします。
契約が承認されたことを通知するメッセージの詳細画面がウィザードによって表示されます。
- 5 ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。
- 6 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理] リンク）。
- 7 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェア契約の管理] オプションを選択します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 [承認進行状況を表示] ボタンをクリックします。
これにより、進行状況が表示されます。
使用可能な情報を参照します。
- 10 進捗ステータスを閉じます（[閉じる] ボタン）。

- 11 ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。

実用例1a：ライセンスとインストールに対する単純なカウンタの作成

はじめに

この単純な実用例は、カウンタの基本的な使用法を説明するためのものです。

実用例のシナリオ

- 目的は、**PowerPoint**アプリケーションがどのように導入されているかを調べることです。
- **PowerPoint**のユーザ権限は、ポートフォリオ品目テーブルの「**PC1 - PowerPoint**」というライセンスで記録されます。
ライセンスはユーザと直接リンクしています。
- **PowerPoint**のインストールは、ポートフォリオ品目テーブルの「**PC1 - PowerPoint - インストール**」というインストールで記録されます。
インストールはユーザと直接リンクしています。
1つのインストールは2つのライセンス権限を消費します。
- **PowerPoint**ソフトウェアライセンスの使用権限が、**[PC1 - マーケティング]** コストセンタに与えられます。

実用例の主要段階

- 1 部署とユーザを作成します。
- 2 ライセンス、インストール、コンピュータモデルを作成します。
- 3 コンピュータ、ライセンス、インストールのポートフォリオ品目を作成します。
- 4 カウンタを作成します。

実行する手順

部署を作成します。

- 1 部署と従業員を表示します（ナビゲーションバーの**[組織管理／組織／部署]** リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	Pc1 - マーケティング

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC1 - 研修

コストセンタを作成する

- 1 コストセンタを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/コストラッキング/コストセンタ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署 (Title)	PC1 - マーケティング

フィールドまたはリンク	値
部署 (Title)	PC1 - 研修

従業員を作成します

- 1 部署と従業員を表示します (ナビゲーションバーの [組織管理/組織/従業員] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC1 - Doe
部署 (Parent)	PC1 - マーケティング
[ファイナンス] タブ	
コストセンタ (CostCenter)	PC1 - マーケティング

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC1 - Smith
部署 (Parent)	PC1 - 研修
[ファイナンス] タブ	

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC1 - 研修

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/モデル] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - コンピュータ
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC1 - コンピュータ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC1 - ライセンス
技術リファレンス (ModelRef)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
[ライセンス] タブ	
ライセンスのタイプ (LicType)	特定ワークステーション

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - PowerPoint - インストール
属性 (Nature)	PC1 - インストール
技術リファレンス (ModelRef)	PC1 - PowerPoint - インストール

ポートフォリオ品目を作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - コンピュータ
[全般] タブ	
ユーザ (User)	PC1 - Doe

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC1 - マーケティング

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
[全般] タブ	
ユーザ (User)	PC1 - Doe
[ライセンス] タブ	
権限 (ISoftLicUseRights)	2

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - PowerPoint - インストール
[全般] タブ	
数量 (fQty)	1
ユーザ (User)	PC1 - Doe
親レコード (Parent)	「PC1 - コンピュータ」レコードをリストから選択します

- 3 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理] リンク)。
- 4 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、[ライセンスを作成] ボタンをクリックします。
これにより、[新規ソフトウェアライセンスを作成...] (sysSamCreateLicpfi) ウィザードがトリガされます。(契約を選択しないと、まず契約を指定するよう求められます)。
- 7 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動は [次へ] ボタン、[戻る] ボタンを使用します)。

フィールドまたはリンク	レコード
[作成するソフトウェアライセンスモデルを選択]	ページ
既存のソフトウェアライセンスからこの新規ライセンス用のライセンスタイプ (モデル) を選択	「PC4 - PowerPoint - ライセンス」レコードを選択します
[ライセンスに関する全般情報を入力]	ページ
資産タグ	PC1-001
総数	1
権限	1
ユーザ名	PC1 - Doe
[ライセンスに関する財務情報を入力]	ページ
	変更しない

フィールドまたはリンク	レコード
[概要] ページ	
なし	なし

- 8 [完了] をクリックします。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

カウンタを作成します。

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] ページで、[カウンタを作成] ボタンをクリックします。
- 5 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールド、ページ、リンク	レコード
[ソフトウェアのインストール/使用のカウンタ方法を選択] ページ	[特定ワークステーション] オプション ([商用 /ワークステーション別] の下にある) を選択します
[カウンタのテンプレートを選択] ページ カウンタのテンプレート	[コストセンタ別のインストール、資格および実際の使用 (特定ワークステーション)] モデルを選択します
このカウンタをグローバルソフトウェアコンプライアンス管理に使用する	いいえ
コンプライアンスレポートで公開しない	はい
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアライセンスを選択] ページ	[PC1 - PowerPoint - ライセンス] モデルを選択します
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアのインストールを選択] ページ	[PC1 - PowerPoint - インストール] モデルを選択します。
[未使用基準を定義] ページ 未使用の期間	0
[資格の定義方法を選択] ページ	資格のリストを定義
[資格の対象となるコストセンタを選択] ページ	[PC1 - マーケティング] レコードを選択します
[カウンタの適用範囲を定義] ページ カウンタの適用範囲を制限するためにコストセンタを選択	いいえ
[カウンタのその他のパラメータを入力] ページ	

フィールド、ページ、リンク	レコード
カウンタ名	PC1 - PowerPointのライセンスとインストールの単純なカウント
契約なし	はい
[実行するカウンタ合計アクションを選択] ページなし	はい
[ウィザード実行後に実行するタスクを選択] ページ	[カウントを表示/調整/計算] オプションを選択します

- 6 [完了] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [ソフトウェアカウンタの結果] ウィンドウを調べます。
「PC1 - マーケティング 0 1 2 2」という行に注意してください。
このコストセンタは遵守していません。インストールでは2つの権限が使用されています。コストセンタには、1つのライセンス権限と1つの資格がありません。

ウィザードが作成したカウンタを確認します

- 1 カウンタを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ] リンク)。
- 2 [PC1 - PowerPointのライセンスとインストールの単純なカウント] カウンタを選択します。
- 3 画面上部を確認します。
[グループ] (Context) : このフィールドは [コストセンタ] (amCostCenter) にセットされています。これはデフォルト値です。実用例 1b : 特定の部署にカウンタの範囲を制限 [P. 153]で、このフィールドの使用目的と、[適用範囲] (Definition) フィールドとの関連付けについて説明しています。
- 4 [全般] タブを表示します : カウンタの要約がこのタブに表示されます。
- 5 [権限] タブを表示します。
ウィザードによって、[カウントする権限の範囲] (LicQuery) リンクに関連付けられたクエリが作成されています。これは、モデルが [PC1 - PowerPoint - ライセンス] であるポートフォリオ品目を識別するために用いられます。
[権限計算モード] (seLicCountMode) は、[ポイントカウント] に設定されています。このカウンタは権限ポイントを考慮します。
- 6 [資格] タブを表示します。
ウィザードによって、[カウントする資格の範囲] (EntContext) リンクに関連付けられたクエリが作成されています。これは、[PC1 - マーケティング] コストセンタに関連付けられている部署と従業員を識別するために用いられます。

7 【インストール/使用】タブを表示します。

ウィザードによって、【**カウント制限(インストール)**】 (SoftInstQuery) リンクに関連付けられたクエリが作成されます。これは、モデルが【**PC1 - PowerPoint - インストール**】であるポートフォリオ品目を識別するために用いられます。

【**インストール/使用計算モード**】 (seInstallCountMode) は、【**ポイントカウント**】に設定されています。カウンタは権限ポイントの消費を考慮しません。

実用例1b：特定の部署にカウンタの範囲を制限

はじめに

この単純な実用例は、以下の場合のカウンタの原則を説明するためのものです。

- 【**グループ**】 (Context) リンクで選択されたテーブルのレコードをフィルタする範囲を定義します。

この実用例のシナリオは、以下の点を除いて実用例1aと同一です。

- カウンタは、部署【**PC1 - マーケティング**】の各ユーザについて、**PowerPoint**に対して取得されたライセンス数を宣言された確認済インストール数と比較します。

実用例の主要段階

- 1 最初の手順は実用例1aと一致します。
- 2 ライセンスを変更します。
- 3 カウンタを作成します。

前提条件

この実用例は、必ず実用例1および1aを最後まで実行してから実行する必要があります。

実行する手順

ライセンスを変更する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの【**資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目**】リンク)。
- 2 モデルが【**PC1 - PowerPoint - ライセンス**】であるポートフォリオ品目を選択します。
- 3 以下の表に示すフィールドとリンクを入力して、レコードを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
ユーザ (User)	PC1 - マーケティング
[ライセンス] タブ	
ライセンスのタイプ (LicType)	インストールまたは使用

カウンタを作成します。

- 1 【ソフトウェアの管理】 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理] リンク)。
- 2 【ソフトウェアの管理アクションを選択...】 ページで、【ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理】 オプションを選択します。
- 3 【次へ】 をクリックします。
- 4 【ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理】 ページで、【カウンタを作成】 ボタンをクリックします。
- 5 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	レコード
【ソフトウェアのインストール/使用のカウンタ方法を選択】 ページ	【インストールまたは使用】 オプションを選択します
【カウンタのテンプレートを選択】 ページ カウンタのテンプレート	【部署/従業員別のインストール、資格および実際の使用 (インストールと使用)】 モデルを選択します
このカウンタをグローバルソフトウェアコンプライアンス管理に使用する	いいえ
コンプライアンスレポートで公開しない	はい
【ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアライセンスを選択】 ページ	【PC1 - PowerPoint - ライセンス】 モデルを選択します
【ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアのインストールを選択】 ページ	【PC1 - PowerPoint - インストール】 モデルを選択します。
【未使用基準を定義】 ページ 未使用の期間	0
【資格の定義方法を選択】 ページ	資格のリストを定義
【資格の対象となるコストセンタを選択】 ページ	【PC1 - マーケティング】 レコードを選択します
【カウンタの適用範囲を定義】 ページ カウンタの適用範囲を制限するためにコストセンタを選択	はい
【カウンタの適用範囲を定義】 ページ 部署と従業員 部署全体を選択	【PC1 - マーケティング】 レコードを選択します。 はい
【カウンタのその他のパラメータを入力】 ページ	

フィールドまたはリンク	レコード
カウンタ名	PC1b - マーケティング部署のPowerPointインストール
契約なし	はい
[ウィザード実行後に実行するタスクを選択] ページ	[カウントを表示/調整/計算] オプションを選択します

- 6 [完了] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [ソフトウェアカウンタの結果] ウィンドウを調べます。
「PC1 - マーケティング 0 1 2 2」という行に注意してください。
このコストセンタは遵守していません。インストールでは2つの権限が使用されています。コストセンタには、1つのライセンス権限と1つの資格がありません。

実用例1c: 権限の内部割り当て

はじめに

この単純な実用例は、特定資格を使用するカウンタの原則を説明するためのものです。

実用例のシナリオ

- 目的は、会社の内部資格方針に照らして**PowerPoint**がどのように導入されているかを調べることです。
- **PowerPoint**に対する内部ユーザ権限が [特定資格] テーブルに指定されています。
- **PowerPoint**のインストールは、ポートフォリオ品目テーブルの「**PC1 - PowerPoint - インストール**」というインストールで記録されます。
インストールはユーザのコンピュータにリンクしています。
各インストールは1つのライセンス権限を消費します。
- カウンタは、特定資格 [**PC1c - PowerPointの特定ユーザ権限**] に記載された各ユーザについて、**PowerPoint**に対して宣言されたユーザ権限を記録済のインストールと比較します。

実用例の主要段階

- 1 最初の手順は実用例1、1aおよび1bと一致します。
- 2 特定資格を作成します。
- 3 カウンタを作成します。

前提条件

この実用例は、必ず実用例1、1aおよび1bを最後まで実行してから実行する必要があります。

実行する手順

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／資産構成／モデル】リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1c - PowerPoint - ライセンス
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC1 - ライセンス
[ライセンス] タブ	
ライセンスのタイプ (LicType)	固定ユーザ

フィールドまたはリンク	値
部署名/姓 (Name)	PC1c - PowerPoint - インストール
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC1 - インストール

ポートフォリオ品目を作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ポートフォリオ品目】リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1c - PowerPoint - ライセンス
[全般] タブ	
コストセンタ (CostCenter)	PC1 - 研修
[ライセンス] タブ	
権限 (ISoftLicUseRights)	1

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1c - PowerPoint - インストール

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
数量 (fQty)	1
親レコード (Parent)	「PC1 - コンピュータ」レコードをリストから選択します

特定資格の作成

- 1 特定資格を表示します (ナビゲーションバーの [組織管理/処理/特定資格] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1c - PowerPointに対する固定ユーザ権限
[作成] をクリックして続けます。	
[資格を持つ従業員および部署] タブ	
	PC1 - Doe
	PC1 - Smith

カウンタを作成する

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理] リンク)。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] ページで、[カウンタを作成] ボタンをクリックします。
- 5 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェアのインストール/使用のカウンタ方法を選択] ページ	[固定ユーザ] オプションを選択します
[カウンタのテンプレートを選択] ページ	
カウンタのテンプレート	「コストセンタ別のコンプライアンスと資格(特定ユーザ)」を選択します
このカウンタをグローバルソフトウェアコンプライアンス管理に使用する	いいえ
コンプライアンスレポートで公開しない	はい

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアライセンスを選択] ページ	[PC1c - PowerPoint - ライセンス] モデルを選択します
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアのインストールを選択] ページ	[PC1c - PowerPoint - インストール] モデルを選択します。
[未使用基準を定義] ページ	ページはそのままにします。
[資格の定義方法を選択] ページ	特定資格を選択
[資格の対象となる特定資格を選択] ページ	[PC1c - PowerPoint]に対する固定ユーザ権限資格を選択します。
[カウンタの適用範囲を定義] ページ	
カウンタの適用範囲を制限するためにコストセンタを選択	いいえ
[カウンタのその他のパラメータを入力] ページ	
カウンタ名	PC1c - PowerPointに対する固定ユーザ権限
契約なし	はい
[ウィザード実行後に実行するタスクを選択] ページ	[カウントを表示/調整/計算] オプションを選択します

- 6 [完了] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

カウンタの結果を調べる

「PC1 - マーケティング」と「PC1 - 研修」について各1行あります。どちらのコストセンタも、内部方針に適合しています（資格）。
 [Pc1 - マーケティング] コストセンタがライセンスを遵守していません。

実用例1d：実際のソフトウェア使用を考慮する

はじめに

この単純な実用例では、インストール／使用の実際の使用を考慮する場合のカウンタの機能を説明します。

シナリオは、カウンタがソフトウェアの実際の使用を考慮することを除いて実用例1bと同じです。

実用例の主要段階

- 1 最初の手順は実用例1、1aおよび1bと一致します。
- 2 インストールの使用に関する情報を追加します。
- 3 カウンタを作成します。

前提条件

この実用例は、必ず実用例1、1aおよび1bを最後まで実行してから実行する必要があります。

実行する手順

インストールの使用情報を入力する

- 1 ソフトウェアのインストールを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/ソフトウェアのインストール] リンク）。
- 2 [PC1 - PowerPoint - インストール] を選択します。
- 3 以下の表に示すフィールドとリンクを入力して、レコードを変更します。

フィールド	値
[使用] タブ	
前回の使用 (dtLastUse)	現在の日時の2ヶ月前

未使用基準を定義

- 1 [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理] リンク）。
- 2 [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスコンプライアンスを管理] ページで、[カウンタを変更] ボタンをクリックします。
- 5 「PC1 - PowerPointのライセンスとインストールの単純なカウント」レコードを選択します。
- 6 [インストール] ボタンをクリックします。
- 7 これにより、[考慮に入れるインストールモデルのリストを変更...] (sysSamAddInst2Counter) ウィザードがトリガされます。
- 8 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	レコード
[考慮に入れるインストールモデルのリストを変更] ページ	
未使用の期間	1ヶ月
ウィザードの実行後にカウンタの結果を再計算	はい

- 9 [完了] をクリックします。

- 10 **[OK]** をクリックします。
- 11 **[PC1 - PowerPointのライセンスとインストールの単純なカウント]** カウンタの **[ソフトウェアカウンタの結果]** ウィンドウの上部分を調べます。
[インストール/使用カウント] フィールド (dSoftInstallCount) が実用例1bのように**2**に設定されますが、**[未使用のインストール]** フィールド (dUnusedInstall) が**2**に設定されます。
- 12 **[PC1 - PowerPointのライセンスとインストールの単純なカウント]** カウンタの **[ソフトウェアカウンタの結果]** ウィンドウの下部分を調べます。
 実用例1bの場合と同じように、「**PC1 - マーケティング**」の行があります。
 この結果は、インストールポイント数に対して十分なライセンスを所有していないこと、および、ソフトウェアが **[PC1 - マーケティング]** コストセンタで使用されていないことを示します。ソフトウェアを使用していない場合はアンインストールします。

実用例5：ライセンス権限を転送する

前提条件

この実用例は、実用例1：必要品目の作成 [P. 122]を終了した後に実行できます。

はじめに

この実用例では、ライセンス権限の転送と、ソフトウェアインストールのコンプライアンスの計算の方法について説明します。

シナリオ

SoftApp v3のライセンスを5個、**SoftApp v2**のライセンスを20個、**SoftApp v1**のライセンスを5個持っています。

SoftApp v3のインストールが10、**SoftApp v2**のインストールが12、**SoftApp v1**のインストールが8存在します。

また、**SoftApp v2**を**SoftApp v3**.にアップグレードするためのアップグレードライセンスを10個持っています。

さらに、ライセンスを**SoftApp v3**から**SoftApp v2**へ、**SoftApp v2**から**SoftApp v1**へ転送できます。

これを次の表に要約します。

ソフトウェア	ライセンス数	インストール数	可能な権限の転送先
SoftApp v3	5	10	SoftApp v2

ソフトウェア	ライセンス数	インストール数	可能な権限の転送先
SoftApp v2	20	12	SoftApp v1
SoftApp v1	5	8	
SoftApp v2 -> SoftApp v3 へのアップグレード	10		

ソフトウェアライセンスを最適化して、インストールを遵守しているかどうかを確認します。

実用例の主要段階

- 1 ソフトウェアライセンスとソフトウェアアップグレードライセンスを作成する [P. 161]
- 2 ソフトウェアインストールの作成 [P. 163]
- 3 ソフトウェアカウンタの作成とリンク [P. 164]
- 4 ソフトウェアアップグレードカウンタを作成する [P. 167]
- 5 このウィザードを起動してコンプライアンスを計算する [P. 168]

手順

ソフトウェアライセンスとソフトウェアアップグレードライセンスを作成する

- 1 **【ソフトウェアの管理】** (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザーのアクション/ソフトウェアの管理】** リンク)。
- 2 次の表に指定した通りに、ウィザードのページに入力します (ウィザードページ間の移動には **【次へ】** ボタン、**【戻る】** ボタンを使用)。

ページ/セクション/フィールド	値
【ソフトウェアの管理アクションを選択...】 ページ	
アクションの選択	ソフトウェアライセンスとインストールの管理
【ソフトウェアライセンスとインストールの管理】 ページ	
【ライセンスを作成】 をクリックします	
契約を選択しないと、 【対象のソフトウェア契約を選択】 (sysSamGetEnv) ウィザードが起動します。	
この場合、何も選択しないで、 【OK】 をクリックします。	
これにより、 【新規ソフトウェアライセンスを作成】 (sysSamCreateLicpfi) ウィザードが開始します。	
【作成するソフトウェアライセンスモデルを選択】 ページ	
リストから何も選択せずに、リストの下で、 【ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成】 をクリックして新しいモデルを作成します。	
これにより、 【ライセンスおよびソフトウェアのインストールを準備】 (sysSamLicenseProcess) ウィザードが開始します。	
【ライセンスおよびソフトウェアのインストールを準備】 ページ	

ページ/セクション/フィールド	値
[ソフトウェアライセンスタイプ(モデル)を作成]	をクリックします
[ソフトウェアライセンスモデルの作成方法を選択]	ページ
[既存のモデルから作成]	を選択します
[次へ]	をクリックします。
[ライセンスモデルを選択]	ページ
何も選択しないで、[次へ]	をクリックします。
[ソフトウェアライセンスモデルに関する全般情報を入力]	ページ
名前	PC5 - SoftApp v3
ソフトウェアタイプ (親モデル)	ソフトウェアライセンス
管理条件 (属性)	PC1 - ライセンス
ソフトウェアベンダ (ブランド)	Hewlett Packard
[次へ]	をクリックします。
[ソフトウェアライセンスタイプに関する全般情報]	ページ
ライセンスのタイプ	インストールまたは使用
[次へ]	をクリックします。
[ソフトウェアライセンスに関連する全般情報を入力]	ページ
権限	1
[次へ]	をクリックします。
[概要]	ページ
[完了]	をクリックします。
[ソフトウェアライセンスタイプ(モデル)を作成...]	ページ
[OK]	をクリックします。もう一度 [OK] をクリックします。
これにより、[ライセンスおよびソフトウェアのインストールの準備] (sysSamLicenseProcess) ウィザードが終了します。	
[新規ソフトウェアライセンスを作成] (sysSamCreateLicpfi) ウィザードの [作成するソフトウェアライセンスモデルを選択]	ページ
ソフトウェアモデルを選択	PC5 - SoftApp v3 ([ITおよび通信/ソフトウェア/ソフトウェアライセンス] の下にあります。リスト全体を表示するには、[契約の資産に関連付けられたライセンスタイプ(モデル)のみを表示] の選択を解除します。
[ライセンスに関する全般情報を入力]	ページ
資産タグ	PC5 - 001
総数	5
[ライセンスに関する財務情報を入力]	ページ
[次へ]	をクリックします。
[概要]	ページ
[完了]	をクリックします。 [OK] をクリックします。
これにより、[新規ソフトウェアライセンスを作成] (sysSamCreateLicpfi) ウィザードを終了します。	

- 3 これにより、前の手順の [ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードの [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページに戻ります。

前の手順を3回繰り返し、3つの各ライセンスについて以下のフィールドだけを修正して、ソフトウェアライセンス「**PC5 - SoftApp v2**」と「**PC5 - SoftApp v1**」、ソフトウェアアップグレードライセンス「**PC5 - SoftApp v2 -> SoftApp v3**」を作成します。

フィールド	PC5 - SoftApp v2	PC5 - SoftApp v1	PC5 - SoftApp v2 -> SoftApp v3
名前（[ソフトウェアライセンスモデルに関する全般情報を入力] ページ）	PC5 - SoftApp v2	PC5 - SoftApp v1	PC5 - SoftApp v2 -> SoftApp v3
資産タグ（[ライセンスに関する全般情報を入力] ページ）	PC5 - 002	PC5 - 003	PC5 - 004
総数（[ライセンスに関する全般情報を入力] ページ）	20	5	10

- 4 ここで、[完了] をクリックして、[ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードを終了します。

ソフトウェアインストールの作成

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/モデル] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力して3つの新規レコードを作成します。各レコードについて、[新規作成] をクリックして開始し、[作成] をクリックして終了します。

フィールドまたはリンク	SQL名	値
名前 [全般] タブ	Name	PC5 - SoftApp v3インストール
属性	Nature	PC1 - インストール

フィールドまたはリンク	SQL名	値
名前 [全般] タブ	Name	PC5 - SoftApp v2インストール
属性	Nature	PC1 - インストール

フィールドまたはリンク	SQL名	値
名前 [全般] タブ	Name	PC5 - SoftApp v1インストール

フィールドまたはリンク	SQL名	値
属性	Nature	PC1 - インストール

ポートフォリオ品目を作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの「資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目」リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力して3つの新規レコードを作成します。各レコードについて、「新規作成」をクリックして開始し、「作成」をクリックして終了します。

フィールドまたはリンク	SQL名	値
モデル	Model	PC5 - SoftApp v3インストール
【全般】 タブ		
数量	fQty	10

フィールドまたはリンク	SQL名	値
モデル	Model	PC5 - SoftApp v2インストール
【全般】 タブ		
数量	fQty	12

フィールドまたはリンク	SQL名	値
モデル	Model	PC5 - SoftApp v1インストール
【全般】 タブ		
数量	fQty	8

ソフトウェアカウンタの作成とリンク

「SoftApp v1」、「SoftApp v2」、および「SoftApp v3」の各ソフトウェアライセンスに関連付けたカウンタを作成する必要があります。

さらに、SoftApp v3からSoftApp v2へ、SoftApp v2からSoftApp v1への転送のために、ライセンス権限を使用できるようにする必要があります。

【ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...】

(sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを使用して、これらの要求を満たします。

- 1 【ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...】 ウィザードを開始します（ナビゲーションバーの「資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...」リンク）。
- 2 PC5 - SoftApp v3のライセンスとインストールをカウントするカウンタを作成するには、次の表に指定した通りに、ウィザードのページに入力します（ウィザードページ間の移動には【次へ】ボタン、【戻る】ボタンを使用）。

フィールドまたはリンク	値
[ソフトウェアのインストール/使用のカウント方法を選択] ページ	
ライセンスのタイプ	インストールまたは使用
[カウンタのテンプレートを選択] ページ	
カウンタのテンプレート	コストセンタ別のインストール、資格、および実際の使用（インストールと使用）
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアライセンスを選択] ページ	
ソフトウェアライセンス（モデル）	PC5 - SoftApp v3
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアのインストールを選択] ページ	
ソフトウェアのインストール（モデル）	PC5 - SoftApp v3インストール
[未使用基準を定義] ページ	
[次へ] をクリックします。	
[資格の定義方法を選択] ページ	
[資格をカウントしない] ボックスをチェックします。	
[カウンタのその他のパラメータを入力] ページ	
カウンタ名	PC5 - SoftApp v3ライセンスおよびインストールのカウント
[実行するカウンタ合計アクションを選択] ページ	
[なし] を選択します	
[ウィザード実行後に実行するタスクを選択] ページ	
ウィザード実行後に実行するタスク	カウンタを計算してカウンタコントロールパネルを表示を選択
[完了] をクリックします。	
[OK] をクリックします。	

- これにより、ウィザードが終了し、ソフトウェアカウンタが表示されます。作成したところのカウンタの詳細を表示して、カウントの結果を表示します。
- 3 同じ手順を使用して、PC5 - SoftApp v2ライセンスおよびインストールをカウントするために使用するカウンタを作成します。
- [ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] ウィザードを起動して、次の表に指定した通りにフィールドに入力します。

フィールドまたはリンク	値
[ソフトウェアのインストール/使用のカウント方法を選択] ページ	
ライセンスのタイプ	インストールまたは使用
[カウンタのテンプレートを選択] ページ	
カウンタのテンプレート	コストセンタ別のインストール、資格、および実際の使用（インストールと使用）
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアライセンスを選択] ページ	
ソフトウェアライセンス（モデル）	PC5 - SoftApp v2
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアのインストールを選択] ページ	
ソフトウェアのインストール（モデル）	PC5 - SoftApp v2インストール
[未使用基準を定義] ページ	
[次へ] をクリックします。	
[資格の定義方法を選択] ページ	

フィールドまたはリンク	値
[資格をカウントしない]	ボックスをチェックします。
[カウンタのその他のパラメータを入力]	ページ
カウンタ名	PC5 - SoftApp v2ライセンスおよびインストールのカウント
[実行するカウンタ合計アクションを選択]	ページ
カウンタに他のカウンタをリンクを選択	
[リンクするカウンタを選択]	ページ
次バージョン用カウンタ	PC5 - SoftApp v3ライセンスおよびインストールのカウント
権限を転送できます	このボックスをチェックします。
[ウィザード実行後に実行するタスクを選択]	ページ
ウィザード実行後に実行するタスク	カウンタを計算してカウンタコントロールパネルを表示 を選択
[完了]	をクリックします。
[OK]	をクリックします。

これにより、ウィザードが終了し、ソフトウェアカウンタが表示されます。作成したばかりのカウンタの詳細を表示して、カウンタおよびカウンタ間のリンクの結果を確認できます（[合計] tab）。

- 4 同じ手順を使用して、PC5 - SoftApp v1ライセンスおよびインストールをカウンタするために使用するカウンタを作成します。

[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] ウィザードを起動して、次の表に指定した通りにフィールドに入力します。

フィールドまたはリンク	値
[ソフトウェアのインストール/使用のカウント方法を選択]	ページ
ライセンスのタイプ	インストールまたは使用
[カウンタのテンプレートを選擇]	ページ
カウンタのテンプレート	コストセンタ別のインストール、資格、および実際の使用（インストールと使用）
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアライセンスを選択]	ページ
ソフトウェアライセンス（モデル）	PC5 - SoftApp v1
[ソフトウェアアプリケーションタイプを基にソフトウェアのインストールを選択]	ページ
ソフトウェアのインストール（モデル）	PC5 - SoftApp v1インストール
[未使用基準を定義]	ページ
[次へ]	をクリックします。
[資格の定義方法を選択]	ページ
[資格をカウントしない]	ボックスをチェックします。
[カウンタのその他のパラメータを入力]	ページ
カウンタ名	PC5 - SoftApp v1ライセンスおよびインストールのカウント
[実行するカウンタ合計アクションを選択]	ページ
カウンタに他のカウンタをリンクを選択	
[リンクするカウンタを選択]	ページ
次バージョン用カウンタ	PC5 - SoftApp v2ライセンスおよびインストールのカウント
権限を転送できます	このボックスをチェックします。
[ウィザード実行後に実行するタスクを選択]	ページ

フィールドまたはリンク	値
ウィザード実行後に実行するタスク	カウンタを計算してカウンタコントロールパネルを表示 を選択
	[完了] をクリックします。
	[OK] をクリックします。

これにより、ウィザードが終了し、ソフトウェアカウンタが表示されます。
作成したばかりのカウンタの詳細を表示して、カウンタおよびカウンタ間の
リンクの結果を確認できます（[合計] tab）。

ソフトウェアアップグレードカウンタを作成する

- 1 ソフトウェアアップグレードカウンタを表示します（ナビゲーションバーの
[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアアップグレー
ドカウンタ] リンク）。
- 2 新しいカウンタを作成します（[新規作成]）。
- 3 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成しま
す。

フィールドまたはリンク	SQL名	値
名前	Name	PC5 - SoftApp v2 -> SoftApp v3カウンタ
グループ	コンテキスト	コストセンター (amCostCenter)
コンプライアンスレポートには 含めません	bInternal	はい（このボックスをチェックします）
権限カウント	bCountLic	はい（このボックスをチェックします）
すべての他の使用可能なチェックボックスのチェックを解除します		
[権限] タブ		
権限カウンタのコンテキスト	LicContext	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
カウントする権限の範囲	LicQuery	<ul style="list-style-type: none"> ■ 名前：ライセンスアップグレードカウンタ ■ [クエリ] タブ：Model.Name = 'PC5 - SoftApp v2 -> SoftApp v3' 以下の情報を使用して新規クエリを作成します （フィールドの詳細画面の[新規作成] ボタン）。
権限 -> グループリンク	LicGroupBy	CostCenter
ライセンスのタイプ	LicType	インストールまたは使用
[合計] タブ		
アップグレード前	UpgFrom	PC5 - SoftApp v2ライセンスおよびインストールの カウンタ

フィールドまたはリンク	SQL名	値
アップグレード後	UppTo	PC5 - SoftApp v3ライセンスおよびインストールの カウント

 **注意:**

ソフトウェアアップグレードカウンタモデルがあれば、[ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザード (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] リンク) を使用して、「ソフトウェアカウンタの作成とリンク [P. 164]」の通りに、このカウンタも作成できます。

このウィザードを起動してコンプライアンスを計算する

- 1 ソフトウェアカウンタを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ] リンク)。
- 2 例えば、「PC5 - SoftApp v2ライセンスおよびインストールのカウント」カウンタの詳細を表示します。
- 3 [計算] ボタンをクリックします。これにより、選択したカウンタおよびすべての関連するカウンタについて、[権限数とインストール数を再計算...] (sysSamReCalcCounters) ウィザードが開始します。

この結果は、[全般] タブと [結果] タブで確認できます。

- 4 [リンクカウンタ] ボタンをクリックして、[リンクされているカウンタを表示] (sysSamSoftLicLinkedCount) ウィザードを起動します。
 - 最初の画面は主要な情報を要約: 権限とインストール/使用カウント、合計したコンプライアンス。
これにより、ライセンス権限を遵守していることと、実際のインストール数/使用数を確認できます。
 - 2番目の詳細な画面では、さまざまなソフトウェアアプリケーションの合計コンプライアンスを改善するために実行された各種の転送とアップグレードの手順を確認できます。
以下と同様な表に、ソフトウェアカウンタが一覧表示されます (これらの結果を得るために使用された各種の手順が下に詳細に説明されます)

名前	権限カ ウント	インス トール/使 用カウ ント	最大合計権 限カウ ント	合計権限カウ ント	コンプライ アンス	合計コンプライ アンス
PC5 - SoftApp v3 ライセンス およびイン ストールの カウント	5	10	15 5個のライ センス権限 + アップグ レードプロ セスで取得 した10個の ライセンス 権限	13 5個のライ センス権限 + PC5 - SoftApp v2の コンプライ アンスを保持したま まのアップ グレード プロセス で取得した8個 のライセンス 権限	3 13個の合計 権限 -10個 のイン ストール/使 用数	0 3個のライ センス権限がPC5 - SoftApp v2に 転送され、次に PC5 - SoftApp v1に転送された
PC5 - SoftApp v2 ライセンス およびイン ストールの カウント	20	12	10 20個のライ センス権限 - アップグ レードプロ セスで転送 した10個の ライセンス 権限	12 20個のライ センス権限 - ア ップグ レードプロ セスでPC5 - SoftApp v3へ 転送された未使 用の8個のライ センス権限	0 12個の合計 権限 -12個 のイン ストール/使 用数	0
PC5 - SoftApp v1 ライセンス およびイン ストールの カウント	5	8	5	5	-3 5個の合計 権限 -8個の イン ストール/使 用数	0 3個のライ センス権限がPC5 - SoftApp v3か らPC5 - SoftApp v2へ 転送され、次に PC5 - SoftApp v1へ転送された

また、次の表に、ソフトウェアアップグレードカウンタを一覧表示します。

名前	アップグレード前	アップグレード後	権限カウント	移行済み権限数
PC5 - SoftApp v2 -> SoftApp v3 カウント	PC5 - SoftApp v2 ライセンスおよび インストールの カウント	PC5 - SoftApp v3 ライセンスおよび インストールの カウント	10	8 8個の PC5 - SoftApp v2 のライセンス権限に関連付けられたこれらの8個の権限により、アップグレードによる8個の追加の権限が PC5 - SoftApp v3 に与えられます。

最初の表の最後の列（合計コンプライアンス）で、インストールとライセンス権限を遵守していることが確認されます。

2番目の表で、10個のアップグレード権限のうちの8個が転送されたことが分かります。2個のアップグレード権限は未使用です。

実用例2 : Microsoft Select契約

はじめに

この詳細な実用例は、Microsoft Select契約を管理する方法を示します。

Microsoft Select 6.0契約について

- これらは中規模から大規模の会社を対象としています。
- 3年間のターゲット購入数量に基づいています。
このターゲット数量は、以下の製品グループで会社が購入しようとしているライセンスの合計数を対象とします。
 - アプリケーション製品
 - システム製品
 - サーバ製品
- これらのグループのそれぞれにおいて、最善の料率が得られるように会社は購入を調整することができます。
すべてのソフトウェアが同じ値段ではないため、Selectプログラムではライセンスをカウントする代わりに、ライセンスポイントという方式を採用しています。

また、ライセンスポイントが使用可能な場合、顧客は自動的にソフトウェアをコピーしてこれらのコピーを使用することができます。

- 価格レベルは4つあり、3つの製品グループのそれぞれにおける3年間のターゲット購入数量に基づいて決まります。
- 以下の購入方法を選択できます。
 - ライセンスのみ (L)。
ライセンス「L」は、ソフトウェア製品のフルバージョンのインストールを可能にします。
 - ソフトウェアアシュアランス (SA)
SAライセンスは、Select契約の期間中に、すべてのアップデート（メジャー、マイナー、サービスパック、パッチなど）の権限を保障します。
 - ライセンス+ソフトウェアアシュアランス (L+SA)

実用例でのMicrosoft Select契約に関する基本的情報

- 開始日：2003年1月1日
- 終了日：2006年12月31日
- 主契約は、会社とMicrosoftとの間のマスター契約です。
マスターリースは、アプリケーションプール内の新規ライセンスの取得を対象とする一括発注契約にリンクされます。この契約は、3年間を対象とした大量のポイント数（1500ポイント）を特に定義します。この契約は、（取得が1回限りの）新規ライセンス取得のリファレンスとしても使用されます。
一括発注契約は、アプリケーションプールのライセンス保障を対象とするメンテナンス契約にリンクします。
- 会社は契約の範囲内で、ExcelとProjectの2つのアプリケーションを導入します。
- この契約が発効するまでは、会社は100個のExcelライセンスと10個のProjectライセンスを所有していました。
100個のExcelライセンスは、Selectソフトウェアアシュアランスの対象となります。
10個のProjectライセンスのアップデートは、Select契約の対象ではありません。
- 会社はSelectソフトウェアアシュアランスを含む300個のExcelライセンスを新たに購入します。
また、ソフトウェアアシュアランスを含まない20個のProjectライセンスを新たに購入します。

実用例で管理する側面

- 取得ポイント数を確認し、契約ターゲットと比較します（契約の経済的側面）。

特殊フィールドを使って、ターゲットポイント数と実際に取得されたポイント数が比較されます。

- インストール数がライセンス数に適合することを確認します。
カウンタを使って、インストール数と購入ライセンス数が比較されます。

実用例の主要段階

- 1 属性とモデルを作成します。
- 2 契約を作成します。
- 3 ポートフォリオ品目を作成します。
- 4 カタログリファレンスを作成します。
- 5 依頼と発注を作成します。
- 6 特殊フィールドを作成します。
- 7 カウンタを作成します。

実行する手順

属性を作成します

- 1 属性を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/資産構成/属性] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力して4つの新規レコードを作成します。各レコードについて、[新規作成] をクリックして開始し、[作成] をクリックして終了します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - コンピュータ
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	コンピュータ (amComputer)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ソフトウェアをインストール (bHasSoftInstall)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - ライセンス
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
管理条件 (seMgtConstraint)	資産タグ
ライセンス (bSoftLicense)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - インストール
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目

フィールドまたはリンク	値
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)
管理条件 (seMgtConstraint)	個別管理しない

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - 一括発注契約
作成 (seBasis)	契約
契約のタイプ (seCtrType)	一括発注

ブランドを作成します

- 1 ブランドを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/カタログ/ブランド] リンク)。
- 2 存在しない場合は、次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Microsoft

任意管理項目の単位を作成します

- 1 単位を表示します (ナビゲーションバーの [管理/システム/単位] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	ポイント
次元 (Dimension)	カウント

注意:

「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。

記号 (Symbol)	pt.
-------------	-----

注意:

「値 'XXX' をリストデータ 'YYY' に追加しますか?」というメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。

フィールドまたはリンク	値
変換係数 (fConv)	0

モデルと契約の任意管理項目を作成します

- 1 任意管理項目を表示します（ナビゲーションバーの「管理／任意管理項目／任意管理項目」リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (TextLabel)	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、1つのライセンスを購入したときに取得されるポイント数を定義します。
【入力】 タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値
タイトル (TextLabel)	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の3年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間が1年未満）に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
【入力】 タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値
タイトル (TextLabel)	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の2年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間が1～2年）に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
【入力】 タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値

フィールドまたはリンク	値 ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の2年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間が1～2年）に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値 ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の1年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間が2～3年）に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
タイトル (TextLabel)	PC2SelectPointsSA3
[入力] タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値 特定のプールに対する一括発注契約と関連付けるこの任意管理項目は、ポイントターゲットを定義します。
タイトル (TextLabel)	PC2SelectPointsTarget
[入力] タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

任意管理項目にパラメータを追加します

- 1 任意管理項目を表示します（ナビゲーションバーの [管理 / 任意管理項目 / 任意管理項目] リンク）。
- 2 任意管理項目 **[PC2SelectPointsL]** を選択します。
- 3 **[パラメータ]** タブを表示します。
- 4 パラメータを追加します（ **[+]** ボタン）。
- 5 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
テーブル (TableName)	モデル (amModel)

- 6 **[PC2SelectPointsSA1]**、**[PC2SelectPointsSA2]**、および **[PC2SelectPointsSA3]** の各任意管理項目に対して、同じ手順を実行します。

- 7 任意管理項目 [**PC2SelectPointsTarget**] を選択します。
- 8 **[パラメータ]** タブを表示します。
- 9 パラメータを追加します (**[+]** ボタン) 。
- 10 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
テーブル (TableName)	契約 (amContract)

モデルを作成する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/資産構成/モデル]** リンク) 。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - コンピュータ
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC2 - コンピュータ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Excel - ライセンス
ブランド (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC2 - ライセンス
[任意管理項目] タブ	
PC2SelectPointsL	1
PC2SelectPointsSA1	1
PC2SelectPointsSA2	1
PC2SelectPointsSA3	2

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Project - ライセンス
ブランド (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC2 - ライセンス
[任意管理項目] タブ	
PC2SelectPointsL	4
PC2SelectPointsSA1	2
PC2SelectPointsSA2	4

フィールドまたはリンク	値
PC2SelectPointsSA3	6

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Microsoft Select - プール
ブランド (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC2 - 一括発注契約

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Excel - インストール
ブランド (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
属性 (Nature)	PC2 - インストール

契約を作成します

- 1 契約を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
	主契約。
リファレンス (Ref)	PC2MSML
目的 (Purpose)	PC2 - Microsoft Select - マスターリース
タイプ (seType)	マスターリース
契約ステータス (seStatus)	アクティブ
[全般] タブ	
支払属性 (sePayType)	なし
開始日 (dStart)	2011年1月1日
終了日 (dEnd)	2011年12月31日

フィールドまたはリンク	値
	[アプリケーション] プールの新規ライセンスの取得を対象とする一括発注契約。
リファレンス (Ref)	PC2MSA1
目的 (Purpose)	PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - 取得
タイプ (seType)	一括発注
モデル (Model)	PC2 - Microsoft Select - プール
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	[PC2MSML (PC2 - Microsoft Select - マスターリース)] 契約をリストから選択します。

フィールドまたはリンク	値
	[アプリケーション] プールの新規ライセンスの取得を対象とする一括発注契約。
支払属性 (sePayType)	なし
開始日 (dStart)	2011年1月1日
終了日 (dEnd)	2011年12月31日
[任意管理項目] タブ	
PC2SelectPointsTarget	1500

フィールドまたはリンク	値
	[アプリケーション] プールのライセンスのソフトウェアアシュアランスを対象とするメンテナンス契約。
リファレンス (Ref)	PC2MSA2
目的 (Purpose)	PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - アシュアランス
タイプ (seType)	メンテナンス
契約ステータス (seStatus)	アクティブ
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	「PC2MSA1 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - 取得)」 契約をリストから選択します。
支払属性 (sePayType)	賃貸料
開始日 (dStart)	2011年1月1日
終了日 (dEnd)	2011年12月31日

コストセンタを作成します

- 1 コストセンタを表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/IT財務管理/コストラッキング/コストセンタ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署 (Title)	PC2 - 国内マーケティング

ポートフォリオ品目を作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
	Select契約の開始以前に取得されたExcelライセンス。
モデル (Model)	PC2 - Excel - ライセンス
[全般] タブ	
数量 (fQty)	100
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング
[ライセンス] タブ	
権限 (ISoftLicUseRights)	1

フィールドまたはリンク	値
	Select契約の開始以前に取得されたProjectライセンス。
モデル (Model)	PC2 - Project - ライセンス
[全般] タブ	
数量 (fQty)	10
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング
[ライセンス] タブ	
権限 (ISoftLicUseRights)	1

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC2 - コンピュータ
[全般] タブ	
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング

フィールドまたはリンク	値
	Select契約の開始以前に行われたExcelインストールで、Selectソフトウェアアシュアランスの対象となるもの。
モデル (Model)	PC2 - Excel - インストール
[全般] タブ	
数量 (fQty)	1
親レコード (Parent)	リストから「 PC2 - コンピュータ 」レコードを選択します。
[ソフトウェアのインストール] タブ	
ポイント数 (IUseCount)	1

サプライヤを作成します

- 1 会社を表示します（ナビゲーションバーの [組織管理/組織/会社] リンク）。
- 2 存在しない場合は、次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Microsoft

製品を作成します

- 1 製品を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/カタログ/製品] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
説明 (Description)	PC2 - Excel - ライセンス
ブランド (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
モデル (Model)	PC2 - Excel - ライセンス

フィールドまたはリンク	値
説明 (Description)	PC2 - Project - ライセンス
ブランド (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
モデル (Model)	PC2 - Project - ライセンス

カタログを作成します

- 1 カタログを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/カタログ/カタログ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Microsoft
レコードの作成を有効にします ([作成] ボタン)	
[サプライヤ]	[Microsoft] にリンクを追加します
デフォルトのサプライヤ (DefSuppCat)	Microsoft

リファレンスを作成します

- 1 カタログを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/カタログ/カタログリファレンス] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
カタログ (Catalog)	Microsoft
製品 (CatProduct)	PC2 - Excel - ライセンス
価格 (sysCoreCatRefPrice)	200

フィールドまたはリンク	値
カタログ (Catalog)	Microsoft
製品 (CatProduct)	PC2 - Project - ライセンス
価格 (sysCoreCatRefPrice)	800

マスタリースからライセンスおよびアシュアランス依頼を作成します

- 1 依頼を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
目的 (Purpose)	PC2 - License + Excelソフトウェアアシュアランス
番号 (PONumber)	PC2-01

フィールドまたはリンク	値
目的 (Purpose)	PC2 - Projectライセンス
番号 (PONumber)	PC2-02

フィールドまたはリンク	値
目的 (Purpose)	PC2 - Excelアシュアランス
番号 (PONumber)	PC2-03

[PC2-01] 依頼の依頼明細を作成します

- 1 依頼を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼] リンク)。
- 2 依頼 [PC2-01] を選択します ([番号] (PONumber) フィールド)。
- 3 [明細] タブを表示します。
- 4 以下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下の依頼明細を追加します。

フィールドまたはリンク	値
契約の使用 (bCntrUtilization)	いいえ

フィールドまたはリンク	値
数量 (fQty)	300
リファレンス (CatalogRef)	「PC2 - Excel - ライセンス (Microsoft) - PC2 - Excel - ライセンス」レコードをリストから選択します。



ヒント:

Windowsクライアントで次の行を正しく作成するには、あらかじめ [変更] ボタンを使って依頼のレベルで最初の行を含めて保存しておく必要があります。

フィールドまたはリンク	値
契約の使用 (bCntrUtilization)	はい
数量 (fQty)	1
【依頼する契約】 (UsedReqLineCntr) フィールドの右側のアイコン	クリック
【数量】 (fQty) フィールドの下のドロップダウンリスト	使用契約
【使用契約】の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	「PC2MSA2 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - アシュアランス)」レコードをリストから選択します。
依頼する品目 (UsedReqLineAsset)	300 PC2 - Excel - ライセンス

【PC2-02】 依頼の依頼明細を作成します

- 1 依頼を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼] リンク)。
- 2 依頼 **【PC2-02】** を選択します ([番号] (PONumber) フィールド)。
- 3 **【明細】** タブを表示します。
- 4 以下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下の依頼明細を追加します。

フィールドまたはリンク	値
数量 (fQty)	20
リファレンス (CatalogRef)	「PC2 - Project - ライセンス (Microsoft) - PC2 - Project - ライセンス」レコードをリストから選択します。

【PC2-03】 依頼の依頼明細を作成します

- 1 依頼を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼] リンク)。

- 2 依頼 [PC2-03] を選択します（ [番号] （PONumber）フィールド）。
- 3 [明細] タブを表示します。
- 4 以下の表に示すフィールドとリンクを入力して、以下の依頼明細を追加します。

フィールドまたはリンク	値
契約の使用 (bCtrUtilization)	はい
数量 (fQty)	1
[依頼する契約] (UsedReqLineCtr) フィールドの右側のアイコン	クリック
[数量] (fQty) フィールドの下のドロップダウンリスト	使用契約
[使用契約] の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	「PC2MSA2 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - アシュアランス)」レコードをリストから選択します。
[依頼する品目] (UsedReqLineAsset) フィールドの右側のアイコン	クリック
[使用契約] の値を持つドロップダウンリストの下のドロップダウンリスト	使用資産
[使用資産] の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	Microsoft PC2 - Excel - ライセンス

発注 [PC2-01] および [PC2-02] の作成、発行、および受領

- 1 依頼を表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼] リンク）。
- 2 依頼 [PC2-01] を選択します（ [番号] （PONumber）フィールド）。
- 3 [見積/発注]、[完了] を順にクリックし、[OK] をクリックして、提示された値をそのまま使用します。
- 4 依頼から生成された発注の詳細で以下の手順を実行します。
 - a 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
番号 (PONumber)	PC2-01
[全般] タブ	
発行日 (dtSent)	2011年3月31日

- b [明細] タブを表示します。
- c 発注明細の詳細を表示します。
- d 発注明細の詳細で、[配賦] タブを表示します。
- e 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング

f 発注明細の詳細で、**【ファイナンス】** タブを表示します。

g 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
一括発注 (bUsesBlanketPO)	はい
一括発注契約 (BlanketPOCtr)	「PC2MSA1 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション)」 レコードをリストから選択します。

h 発注への変更を保存します (**【変更】** ボタン)。

- 5 **【発行】** をクリックし、**【完了】** をクリックします。**【OK】** をクリックして提示された値をそのまま使用します。
- 6 **【受領】** をクリックし、次に **【完了】** をクリックし、次に **【OK】** をクリックして提示された値を受け入れます。
- 7 発注の受領時に作成されたこのポートフォリオ品目の詳細を確認します。
- 8 Windowsクライアント：Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。
- 9 依頼を表示します (ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼】** リンク)。
- 10 依頼 **【PC2-02】** を選択します (**【番号】** (PONumber) フィールド)。
- 11 **【見積/発注】** をクリックし、**【完了】** をクリックします。提示された値をそのまま使用します。**【OK】** をクリックします。
- 12 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
番号 (PONumber)	PC2-02
【全般】 タブ	
発行日 (dtSent)	2011年3月31日

13 依頼から生成された発注の詳細で、以下の手順を実行します。

- a **【明細】** タブを表示します。
- b 発注明細の詳細を表示します。
- c 発注明細の詳細で、**【配賦】** タブを表示します。
- d 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング

- e 発注明細の詳細で、**【ファイナンス】** タブを表示します。
- f 次の表に示すフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
一括発注 (bUsesBlanketPO)	はい
一括発注契約 (BlanketPOCtr)	「PC2MSA1 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション)」 レコードをリストから選択します。

- g 発注への変更を保存します (**【変更】** ボタン)。
- 14 購入依頼から作成された見積で、**【発行】** をクリックしてから **【完了】** をクリックします。提示された値をそのまま使用します。**【OK】** をクリックします。
- 15 購入依頼から作成された発注の詳細で、**【受領】** をクリックしてから **【完了】** をクリックします。提示された値をそのまま使用します。**【OK】** をクリックします。
- 16 発注の受領時に作成されたこのポートフォリオ品目の詳細を確認します。
- 17 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

依頼 **【PC2-03】** を実行します

- 1 依頼を表示します (ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル/調達ライフサイクル/依頼/購入依頼】** リンク)。
- 2 依頼 **【PC2-03】** を選択します (**【番号】** (PONumber) フィールド)。
- 3 **【ステータス】** フィールド (seStatus) を **【承認済】** に設定します。
- 4 **【変更】** をクリックします。
- 5 **【実行】** をクリックし、**【完了】** をクリックします。提示された値をそのまま使用します。**【OK】** をクリックします。
- 6 **【明細】** タブを表示します。
- 7 依頼明細 **【契約の使用】** の詳細を表示します。
- 8 **【Microsoft PC2 - Excel - ライセンス】** に設定されたフィールドの右側の拡大鏡をクリックします。
- 9 **【契約】** タブを表示します。
資産が契約 **【PC2MSA2 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - アシュアランス)】** にリンクされているはずです。
- 10 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

ポイントトラッキングのための特殊フィールドを作成します

- 1 特殊フィールドを表示します（ナビゲーションバーの [管理/システム/特殊フィールド] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

ヒント:

ドキュメントの「chm」または「pdf」バージョンからスクリプトをコピーし、Asset Managerに貼り付けることをお勧めします（「chm」ファイルからテキストをコピーするには、テキストを選択し右クリックして、状況依存メニューから [コピー] を選択します）。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (TextLabel)	PC2 - Select - ライセンスポイント
SQL名 (SQLName)	PC2L
テーブル (TableName)	契約 (amContract)
フィールドタイプ (seType)	Basicスクリプト
結果のデータ型 (seDataType)	数値
特殊フィールドスクリプト (Script)	<pre>RetVal = AmDbGetDouble("SELECT SUM(fQty * * CatalogRef.CatProduct.Model.fv_PC2SelectPointsL) FROM amPOrdLine WHERE BlanketPOCntr = " & [ICntrId] & " AND POrder.dtSent >= #" & [dStart] & "# AND POrder.dtSent <= #" & [dEnd] & "#")</pre>

スクリプトの説明:

- **RetVal =** : このスクリプトは値を返します。
- **AmDbGetDouble(...)** : 戻り値は倍精度（8バイト）です。
- **FROM amPOrdLine** : このクエリは [発注明細] テーブルを検索します。
- **WHERE BlanketPOCntr = " & [ICntrId] & " AND POrder.dtSent >= #" & [dStart] & "# AND POrder.dtSent <= #" & [dEnd] & "#** : [発注明細] テーブル内のレコードは、[一括発注契約] (BlanketPOCntr) によって契約にリンクする必要がある、発注明細が含まれる注文書は、契約の開始 (**dStart**フィールド) から契約の終了 (**dEnd**フィールド) までに発行される必要があります (**POrder.dtSent**フィールドにリンク)。
- **SUM(fQty * CatalogRef.CatProduct.Model.fv_PC2SelectPointsL)** : このクエリは、**WHERE(...)**句によって選択される発注明細ごとに、発注明細書のカタログリファレンス製品モデルに関連付けられている

(CatalogRef.CatProduct.Model.fv_PC2SelectPointsLリンク) 任意管理項目値fv_PC2SelectPointsLを合計します (SUM(...))。

フィールドまたはリンク	値
タイトル (TextLabel)	PC2 - Select - アシュアランスポイント
SQL名 (SQLName)	PC2SA
テーブル (TableName)	契約 (amContract)
フィールドタイプ (seType)	Basicスクリプト
結果のデータ型 (seDataType)	数値
Script (特殊フィールドスクリプト)	<pre> RetVal = AmDbGetDouble("SELECT SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_CP2PointsSelectSA1) FROM amAstCntrDesc WHERE lCntrId = " & [lCntrId] & " AND dCntrIncluded >= #" & (Year([dStart] + 2) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# AND dCntrIncluded < #" & (Year([dStart] + 3) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#") RetVal = RetVal + AmDbGetDouble("SELECT SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_CP2PointsSelectSA2) FROM amAstCntrDesc WHERE lCntrId = " & [lCntrId] & " AND dCntrIncluded >= #" & (Year([dStart] + 1) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# AND dCntrIncluded < #" & (Year([dStart] + 2) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#") RetVal = RetVal + AmDbGetDouble("SELECT SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_CP2PointsSelectSA3) FROM amAstCntrDesc WHERE lCntrId = " & [lCntrId] & " AND dCntrIncluded >= #" & (Year([dStart] + 0) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# AND dCntrIncluded < #" & (Year([dStart] + 1) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#") </pre>

スクリプトの最初のRetVal =の説明：

- **RetVal =** : このスクリプトは値を返します。
読みやすくするために、計算は3つに分けて行います。その結果、計算式は：**RetVal = RetVal + ...**
- **AmDbGetDouble(...)** : 戻り値は倍精度 (8バイト) です。
- **FROM amAstCntrDesc** : このクエリは [契約上の資産] テーブルを検索します。
- **lCntrId = " & [lCntrId] & "** : **WHERE** 句の最初の条件。

契約上の資産は、**[ICntrId]** フィールドによって識別される対象の契約にリンクする必要があります。

- **dCntrIncluded >= #" & (Year([dStart]) + 2) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# : WHERE**句の2番目の条件。

契約上の資産は、契約開始後、少なくとも2年間は、含まれている必要があります (**dCntrIncluded** フィールド)。

文字「#」は基準日の区切りに使用されます。

基準日は、契約開始 (**dStart** フィールド) の年、月および日を連結することにより構成されます。

したがって、日付のフォーマットは#YYYY-MM-DD#となります。

- **dCntrIncluded < #" & (Year([dStart]) + 3) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# : WHERE**句の3番目の条件。

契約上の資産は、契約開始後、少なくとも3年間は、含まれている必要があります (**dCntrIncluded** フィールド)。

- **SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_PC2SelectPointsSA3) :** このクエリは、**[総数]** (**fTotalQty**) フィールドの製品と、**WHERE** 句によって選択される契約上の資産の任意管理項目**PC2SelectPointsSA3**を合計します。

この任意管理項目によって、ライセンスが契約の最初の年、すなわちソフトウェアアシュアランスの残り期間が2~3年のときに取得されたライセンスに対してカウントされるソフトウェアアシュアランスポイントの数が決まります。

特殊フィールドと契約の任意管理項目を表示します



注意:

この操作は、Windowsクライアントでのみ実行できます。

Asset Manager Application Designerを使用してウィンドウをカスタマイズして、詳細ウィンドウやWebクライアントのリストに特殊フィールドが表示されるようにする必要があります。

- 1 契約を表示します (ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約]** リンク)。
- 2 リストのヘッダーを右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから **[ユーティリティ/リストの設定]** を選択します。
- 4 特殊フィールド **[PC2 - Select - アシュアランスポイント (PC2SA)]** と **[PC2 - Select - ライセンスポイント (PC2L)]** を加算します。
- 5 **[OK]** をクリックします。
- 6 **PC2MSA1**と**PC2MSA2**の契約について加算した値を調べます。

Excelカウンタに必要なクエリを作成します

- 1 クエリを表示します (ナビゲーションバーの **[管理/クエリ]** リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	ライセンスとインストールを考慮するコストセンタの識別情報。
テーブル (TableName)	PC2 - コストセンタ1
[クエリ] タブ	
クエリ (memQueryText)	Title = 'PC2 - 国内マーケティング'

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Excelライセンスの識別情報
テーブル (TableName)	PC2 - Excel - ライセンス
[クエリ] タブ	
クエリ (memQueryText)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
クエリ (memQueryText)	Model.Name = 'PC2 - Excel - ライセンス'

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Excelライセンスの識別情報
テーブル (TableName)	PC2 - Excel - インストール
[クエリ] タブ	
クエリ (memQueryText)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
クエリ (memQueryText)	Model.Name = 'PC2 - Excel - インストール'

Excelカウンタを作成します

- 1 カウンタを表示します (ナビゲーションバーの **[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ]** リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	レコード
名前 (Name)	PC2 - Excel - ライセンス管理
テンプレートとして使用 (bType)	いいえ
コンプライアンスレポートには含めない (bInternal)	はい
ウィザードを使用してカウンタを編集 (bAutomated)	いいえ
権限カウント (bCountLic)	はい

フィールドまたはリンク	レコード
インストール/使用カウント (bCountInst)	はい
資格カウント (bCountEnt)	いいえ
グループ (Context)	コストセンタ (amCostCenter)
適用範囲 (Definition)	PC2 - コストセンタ1
ライセンス契約 (Contract)	「PC2MSA1 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - 取得)」レコードをリストから選択します。
[権限] タブ	
権限カウンタのコンテキスト (LicContext)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
カウントする権限の範囲 (LicQuery)	PC2 - Excel - ライセンス
権限 -> グループリンク (LicGroupBy)	CostCenter
注意:	
Asset Managerでは、ユーザが入力や貼り付けた文字列の最後にピリオド（フルストップ）が自動的に追加されます。 入力した文字列を有効にするには、このピリオド（フルストップ）を削除する必要があります。	
権限計算モード (seLicCountMode)	計算式によるカウント
権限カウントのフィールド (LicCountFormula)	SUM((fQty * Asset.lSoftLicUseRights))
[インストール/使用] タブ	
インストール/使用カウンタのコンテキスト (InstContext)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
カウント制限(インストール) (SoftInstQuery)	PC2 - Excel - インストール
インストール/使用 -> グループリンク (LicGroupBy)	Parent.CostCenter
注意:	
Asset Managerでは、ユーザが入力や貼り付けた文字列の最後にピリオド（フルストップ）が自動的に追加されます。 入力した文字列を有効にするには、このピリオド（フルストップ）を削除する必要があります。	
インストール/使用計算モード (seInstallCountMode)	計算式によるカウント
インストール/使用の計算式 (InstCountSQL)	Countdistinct(IParentId)

- 3 [計算] ボタンをクリックします。
- 4 [全般] タブを表示します：カウントの要約がこのタブに表示されます。
- 5 [結果] タブを表示します：カウントの詳細がこのタブに表示されます。

 **注意:**

Projectに対するカウンタも同様の方法で作成できます。

IV 付録

11 用語解説

次章の用語解説を参照してください。

▶ 主概念 [P. 23].

12 リファレンス

ナビゲーションバー、メニューとタブ

Windowsクライアントの以下のナビゲーションバーのリンクとメニューは、【ソフトウェア資産】モジュールに直接リンクしています。:

表 12.1. 【ソフトウェア資産】モジュール内のナビゲーションバーのリンク、メニュー、タブの一覧

メニューとナビゲーションバーリンク	メニューでアクセスするテーブル (テーブル名とSQL名)	専用のタブ、フィールド、またはリンク	コメント	参照するガイドのセクション
ファイル / 【モジュールの管理】	N/A	N/A	ライセンスファイルで承認されている場合は、ソフトウェア資産モジュールを有効または無効にすることができます。	『 Tailoring 』ガイドの「 Customizing Windows clients 」、 「Customizing a Windows client 」の章、 「Activating the modules 」のセクションを参照してください。

メニューとナビゲーションバーリンク	メニューでアクセスするテーブル (テーブル名とSQL名)	専用のタブ、フィールド、またはリンク	コメント	参照するガイドのセクション
[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ポートフォリオ品目] メニューまたはナビゲーションリンク	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [ソフトウェアのインストール] タブ ■ [使用] タブ ■ [ライセンス] タブ 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 方法2: メニューを使用する [P. 56] ■ 方法2: メニューを使用する [P. 56]
[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/資産とロット] メニュー	資産 (amAsset)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [ライセンス] タブ 		
[資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/資産] ナビゲーションリンク				
[ポートフォリオ管理/資産構成/ソフトウェアのインストールと使用] メニュー	ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)	<ul style="list-style-type: none"> ■ すべて 		ソフトウェアのインストールと使用の管理 [P. 63]
[ポートフォリオ管理/資産構成/ソフトウェアのインストール] ナビゲーションリンク				
[ポートフォリオ管理/資産構成/属性] メニューまたはナビゲーションリンク	属性 (amNature)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [オーバーフローテーブル] (OverflowTbl) フィールド ■ ソフトウェアをインストール (tHasSoftInstall) フィールド ■ [ライセンス] (tSoftLicense) フィールド 		<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアのインストール/使用を手動で作成する [P. 72] ■ ソフトウェアライセンスの属性を作成する [P. 53]

メニューとナビゲーションバーリンク	メニューでアクセスするテーブル (テーブル名とSQL名)	専用のタブ、フィールド、またはリンク	コメント	参照するガイドのセクション
[ポートフォリオ管理/資産構成/モデル] メニューまたはナビゲーションリンク	モデル (amModel)	<ul style="list-style-type: none"> [ソフトウェアのインストール] タブ [ライセンス] タブ 		<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアのインストール/使用を手動で作成する [P. 72] 方法2: メニューを使用する [P. 54]
[組織管理/特定資格] メニュー	特定資格 (amEntitlement)	<ul style="list-style-type: none"> すべて 		ソフトウェア資格の管理 [P. 59]
[組織管理/処理/特定資格] ナビゲーションリンク				
[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェア資産管理...] メニュー	N/A	N/A	[ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します。	レコードの作成方法 [P. 29]
[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ユーザのアクション/ソフトウェアの管理] ナビゲーションリンク				
[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/コントロールパネル...] メニュー	N/A	N/A	レポートコントロールパネルを表示します。	方法2: ナビゲーションバーのリンクを使用する [P. 115]
[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/コントロールパネル/ソフトウェアのコントロールパネル] ナビゲーションリンク				

メニューとナビゲーションバーリンク	メニューでアクセスするテーブル (テーブル名とSQL名)	専用のタブ、フィールド、またはリンク	コメント	参照するガイドのセクション
<p>[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/確定版メディアライブラリ] メニュー</p> <p>[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/確定版メディアライブラリ (DML)] ナビゲーションリンク</p>	モデル (amModel)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [ソフトウェアのインストール] タブ 	<p>[オーバーフローテーブル] (seOverflowTbl) フィールドが [ソフトウェアのインストール] または使用] (amSoftInstall) に設定されている属性にリンクされている [モデル] テーブルのレコードのリストを表示します。</p>	
<p>[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/棚卸されたソフトウェアキー] ナビゲーションリンク</p>	棚卸されたモデル (amInventModel)	<ul style="list-style-type: none"> ■ すべて 		Asset Manager データベースでのインポート結果 [P. 66]
<p>[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタの結果] メニューまたはナビゲーションリンク</p>	ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)	<ul style="list-style-type: none"> ■ すべて 	<p>モデルではない全カウンタの一覧を表示し、選択したカウンタの結果も表示します。</p> <p>カウンタの再計算、ウィザード使用によるカウンタの変更、ライセンス権限とインストール/使用間の不整合の解決にも使用できます。</p>	ソフトウェアカウンタの結果の更新 [P. 94]
<p>[資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理/ソフトウェアカウンタ] メニューまたはナビゲーションリンク</p>	ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)	<ul style="list-style-type: none"> ■ すべて 		方法2: カウンタを直接作成する [P. 88]

メニューとナビゲーションバーリンク	メニューでアクセスするテーブル (テーブル名とSQL名)	専用のタブ、フィールド、またはリンク	コメント	参照するガイドのセクション
[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約] メニューまたはナビゲーションリンク	契約 (amContract)	■ [ライセンス] タブ		方法2: メニューを使用する [P. 38]
[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/マスターリース] メニュー [資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/リース/マスターリース] ナビゲーションリンク	契約 (amContract)	■ [ライセンス] タブ		方法2: メニューを使用する [P. 38]
ツール/アクション/編集メニュー [管理/アクション] ナビゲーションリンク	アクション (amAction)	■ すべて		『はじめに』ガイドの「参考情報」の章、「アクション」のセクションを参照してください。
[ツール/アクション/<アクション名>] メニュー ナビゲーションバー上複数の場所は、アクションの機能ドメインによって異なります。	N/A	N/A	コンテキストアクションまたはコンテキスト外アクションにアクセスできます。 選択されたアクションをトリガします。	アクションとウィザード [P. 206]
[ツール/ツールバーのカスタマイズ...] メニュー	N/A	N/A	ツールバーに対して、アイコンを追加または削除できるようにする必要があります (ポートフォリオカテゴリ)。	Windowsクライアントツールバーのアイコン [P. 200]

メニューとナビゲーションバーリンク	メニューでアクセスするテーブル (テーブル名とSQL名)	専用のタブ、フィールド、またはリンク	コメント	参照するガイドのセクション
〔ツール/レポート機能/レポート〕メニュー 管理/レポート機能/レポートリンク	レポート (amReport)	■ すべて		レポート [P. 213]
〔管理/画面一覧〕メニュー	N/A	N/A	メニューからアクセスできないテーブルを表示します。 同メニューにアクセスできるのは管理者のみです。このようなテーブルは直接変更してはならないからです。	『はじめに』ガイドの「レコードリスト」の章、「リストを使用する」のセクションを参照してください。
〔管理/システム/リストデータ〕メニューまたはナビゲーションリンク	リストデータ (amItemizedList)	■ すべて		リストデータ [P. 205]
〔管理/システム/カウンタ〕メニューまたはナビゲーションリンク	カウンタ (amCounter)	■ すべて		カウンタ [P. 206]
〔管理/システム/特殊フィールド〕メニューまたはナビゲーションリンク	特殊フィールド (amCalcField)	■ すべて		特殊フィールド [P. 205]

この表には、〔ソフトウェア資産〕モジュールに含まれるアクションやレポートと、ナビゲーションバーの〔資産ライフサイクル/ソフトウェア資産管理〕ブランチにあるアクションやレポートは記載されません。

Windowsクライアントツールバーのアイコン

Windowsクライアントのツールバーに表示されるアイコンは、〔ソフトウェア資産〕モジュールに固有のものではありません。

ツールバーのカスタマイズの詳細については、『**Tailoring**』ガイド、パートIII「**Customizing Windows clients**」、「**Customizing a Windows client**」の章、「**Customizing the toolbar**」のセクションを参照してください。

Windows クライアントのインタフェースのオプション

【ソフトウェア資産】 モジュール専用のWindowsクライアントのインタフェースオプションはありません。

インタフェースのオプション設定に関する詳細は、『**Tailoring**』ガイド、パートIII「**Customizing Windows clients**」、「**Customizing a Windows client**」の章、「**General options**」のセクションを参照してください。

テーブル

【ソフトウェア資産】 モジュールには非常に多くのテーブルがあります。

【ソフトウェア資産】 モジュールに直接リンクするテーブルは次のとおりです。

表 12.2. テーブル (ソフトウェア資産) - 一覧

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するナビゲーションバーにあるリンク	参照するガイドのセクション
一般的なテーブル			
ポートフォリオ品目	amPortfolio	資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ポートフォリオ品目	<ul style="list-style-type: none">■ ソフトウェアライセンスを作成する [P. 55]■ ソフトウェアのインストール/使用を手動で作成する [P. 72]
モデル	amModel	ポートフォリオ管理／資産構成／モデル	<ul style="list-style-type: none">■ ソフトウェアライセンスモデルを作成する [P. 54]■ ソフトウェアのインストール/使用のモデルを作成する [P. 71]

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するナビゲーションバーにあるリンク	参照するガイドのセクション
属性	amNature	ポートフォリオ管理／資産構成／属性	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアライセンスの属性を作成する [P. 53] ソフトウェアのインストール/使用の属性を作成する [P. 71]
ソフトウェア用のテーブル			
契約	amContract	資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約	ライセンス契約の管理 [P. 37]
特定資格	amEntitlement	組織管理／処理／特定資格	ライセンスのための特定資格を作成する [P. 59]
ソフトウェアカウンタ	amSoftLicCounter	資産ライフサイクル／ソフトウェア資産管理／ソフトウェアカウンタ [管理／画面一覧] メニュー、 [ソフトウェアカウンタ(以前の書式)] 行	インストールのライセンスコンプライアンスを監視する [P. 83]
権限/使用カウント	amRightsUsesCount	[管理／画面一覧] メニュー、 [権限／使用カウント] 行	定期削除 [P. 96]
ソフトウェアのインストールまたは使用	amSoftInstall	ポートフォリオ管理／資産構成／ソフトウェアのインストール	ソフトウェアのインストールと使用の管理 [P. 63]
棚卸されたモデル	amInventModel	資産ライフサイクル／ソフトウェア資産管理／棚卸されたソフトウェアキー	Asset Managerデータベースでのインポート結果 [P. 66]
作成するインストール	amModelSoftInfo	[管理／画面一覧] メニュー、 [作成するインストール] 行	

テーブルの関係

[ソフトウェア資産] モジュールでは、Asset Managerデータベースの数多くのテーブルを使用します。これらのテーブル間には多数のリンクが存在します。そこで、テーブルの入力順を最適化することをお勧めします。

以下で記述する入力順に必ずしも従う必要はありません。Asset Managerでは、リンクするテーブルで欠けているレコードを必要に応じて作成することができます。

次の表は、リンクされているテーブルの一覧とレコードの能率的な入力順を示しています。

このガイドで記述したシナリオ例では、以下の入力順に従って操作が進められています。

表 12.3. テーブル間の依存関係 - 表

テーブル (テーブル名 とSQL名)	前もって入力する必要 のあるテーブル (テー ブル名とSQL名)	必須の値	自動的に作成されるレ コード
場所 (amLocation)			
部署と従業員 (amEmplDept)	場所 (amLocation)		
契約 (amContract)	部署と従業員 (amEmplDept)		

テーブル (テーブル名 とSQL名)	前もって入力する必要 のあるテーブル (テー ブル名とSQL名)	必須の値	自動的に作成されるレ コード
属性 (amNature)		<ul style="list-style-type: none"> ■ [作成] (sebasis) : ポートフォリオ品目 ■ [オーバーフローテーブル] (seOverflowTbl) : (テーブルなし) ■ [管理条件] (seMgtConstraint) フィールド: 固有資産タグ ■ ライセンス (bSoftLicense) : はい 	
モデル (amModel)	属性 (amNature)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [作成] (sebasis) : ポートフォリオ品目 ■ [オーバーフローテーブル] (seOverflowTbl) : [ソフトウェアのインストールまたは使用] (amSoftInstall) ■ 管理条件 (seMgtConstraint) : 個別管理しない 	
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	モデル (amModel)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 資産 (amAsset) ■ ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall) ■ 権限/使用カウント (amRightsUsesCount)
特定資格 (amEntitlement)	部署と従業員 (amEmplDept)		
クエリ (amQuery)			
カウンタ (amCounter)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 部署と従業員 (amEmplDept) ■ モデル (amModel) ■ クエリ (amQuery) ■ ポートフォリオ品目 (amPortfolio) ■ 特定資格 (amEntitlement) 	権限/使用カウント (amRightsUsesCount)	

リストデータ

フィールドに値を入力する際に、リストデータ（オープン/クローズド）を使って値を選択する場合があります

[管理/システム/リストデータ] メニューを選択して、[リストデータ] (**amItemizedList**) テーブルを表示します。

次のテーブルは、[ソフトウェア資産] モジュールに固有のリストデータについて詳しく説明しています。

表 12.4. リストデータ - 一覧

テーブル (テーブル名とSQL名)	リストデータを使って入力するフィールド (フィールド名とSQL名)	リストデータの識別子
ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)	属性 (Type)	amSLCountNature
ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)	言語 (Language)	amLanguage
ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)	OS (SoftOS)	amOS
ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall)	ステータス (Status)	amSoftInstStatus
契約 (amContract)	属性 (Nature)	amCntrNature
契約 (amContract)	ステータス (Status)	amCntrStatus

リストデータの詳細については、『高度な使い方』ガイドの「リストデータ」の章を参照してください。

特殊フィールド

[ソフトウェア資産] モジュールには非常に多くの特殊フィールドがあります。次のテーブルは、[ソフトウェア資産] モジュールに固有の特殊フィールドについて詳しく説明しています。

表 12.5. 特殊フィールド - 一覧

特殊フィールドの名前	特殊フィールドのSQL名	特殊フィールドの適用先テーブル (テーブル名とSQL名)	使用
インストール済み生産性ソフトウェア数	sysSamOfficeInst	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	プログラミング
生産性ソフトウェアライセンス数	sysSamOfficeLic	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	プログラミング
使用ポイント数	sysSamUses	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	プログラミング
ライセンスポイント数	sysSamLicences	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	プログラミング

特殊フィールドの詳細については、『高度な使い方』ガイドの「特殊フィールド」の章を参照してください。

スクリプトの記述の詳細については、『高度な使い方』ガイドの「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用の詳細については、『**Programmer's reference**』ガイドを参照してください。

カウンタ

【ソフトウェア資産】モジュールはカウンタを使用しません。

【カウンタ】 (amCounter) テーブルにアクセスするには、ナビゲーションバーの【管理/カウンタ】リンクを選択します。

アクションとウィザード

【ソフトウェア資産】モジュールは、アクションを使用して一般的なタスクを自動化します。

【アクション】 (**amAction**) テーブルにアクセスするには、ナビゲーションバーの【管理/アクション】リンクを選択します。

以下のフィールドにシンプルフィルタを使用すると、【ポートフォリオ】と【ソフトウェア資産】のモジュールに関連するアクションをフィルタできます。

- ドメイン (**Domain**)
- 属性 (**Nature**)

【ソフトウェア資産】モジュールに直接リンクするアクションは次のとおりです。

表 12.6. アクションとウィザード - 一覧

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するガイドのセクション
ソフトウェアライセンス管理カウンタの作成	sysSamCreateSoftwareCounter	ウィザード		方法1: [ソフトウェアライセンス管理カウンタを作成...] (sysSamCreateSoftwareCounter) ウィザードを使用してカウンタを作成する [P. 88]
全ソフトウェアのインストール数の計算	BstSamComputeAllLicAndInstall	スクリプト		[定期的なライセンス確認] ワークフロースキームの主要機能 [P. 106]
ソフトウェアのコントロールパネル	BstSamDashBoard	コントロールパネル		コントロールパネルをカスタマイズする [P. 116]
ライセンス数超過に関する管理者へのメール	BstSamLicenses_exceeded	メッセージ	amSoftLicCounter	ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する [P. 105]
見つからないソフトウェア割り当て	BstSamMissingSoftware	スクリプト	amComputer	前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアにフラグを設定する [P. 69]
違反ソフトウェアのインストールに関して管理者にメール	BstSamUnauthinstallm_fund	メッセージ	amSoftInstall	違反インストールが発生した場合に自動メッセージを送信する [P. 77]
ASPユーザの追加	sysSamAddAspUsers2Cntr	ウィザード		ユーザを対象のASP契約に追加する [P. 81]
ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成...	sysSamCreateLicModel	ウィザード		ソフトウェアライセンスを作成する [P. 55]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するガイドのセクション
インストーラからソフトウェアライセンスモデルを作成...	sysSamCreateLicModFromInst	ウィザード		ソフトウェアライセンスを作成する [P. 55]
新規ソフトウェアライセンスを作成...	sysSamCreateLicpfi	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ■ 方法1: [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する [P. 55] ■ これにより、[新規ソフトウェアライセンスを作成] (sysSamCreateLicpfi) ウィザードが開始します。 [P. 55]
特定資格の依頼を作成...	sysSamCreateReqFromEntitdEmp	ウィザード		方法1: [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する [P. 57]
ソフトウェア契約 (原案) を作成...	sysSamCreateSoftContract	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス契約を作成する [P. 37] ■ ライセンス契約を変更する [P. 48]
ASPユーザの削除...	sysSamDelAspUsersFromCntr	ウィザード		対象のASP契約からユーザを削除する [P. 82]
OEMインストールをフラグ付け...	sysSamFlagOEMInst	ウィザード		OEMインストールとしてインストールをフラグ付け [P. 80]
現在のソフトウェア契約を選択...	sysSamGetEnv	ウィザード		[ソフトウェアの管理] (sysSamLauncher) ウィザードで対象の契約を選択する [P. 39]
ソフトウェアコンプライアンスの問題を解決...	sysSamIdentifyIllegalInstall	ウィザード		インストール/使用とライセンス間の不整合を処理する [P. 96]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するガイドのセクション
ソフトウェアの管理...	sysSamLauncher	ウィザード		レコードの作成方法 [P. 29]
ライセンスおよびソフトウェアのインストールの準備...	sysSamLicenseProcess	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアライセンスを作成する [P. 55] ■ 方法1: [ソフトウェアの管理] ウィザード (sysSamLauncher) を使用する [P. 57]
契約に請求明細をリンク...	sysSamLinkInvoices2Cntr	ウィザード		請求明細を対象の契約にリンクする [P. 50]
権限数とインストール数を再計算	sysSamReCalcCounters	ウィザード		インストール/使用とライセンス間の不整合を処理する [P. 96]
外部ソフトウェアライセンスモデルの照合更新...	sysIvtReconcExtModelWiz	ウィザード	amInventModel	新しいレコードが [棚卸されたモデル] (amInventModel) テーブル内に作成された場合、または [棚卸されたモデル] テーブル内の既存のレコードがソフトウェアインストールに初めてリンクされた場合 [P. 68]
契約の承認依頼	sysSamReqContractApproval	ウィザード		対象の契約の承認を依頼する [P. 46]
棚卸モデルの解決を伝達	SYS_RES_MOD_ACT01	スクリプト	amInventModel	インポートによってトリガされる自動処理 [P. 68]
考慮に入れるインストールモデルのリストを変更...	sysSamAddInst2Counter	ウィザード	amSoftLicCounter	ソフトウェアカウンタを変更する [P. 92]
考慮に入れるライセンスモデルのリストの変更...	sysSamAddLic2Counter	ウィザード	amSoftLicCounter	ソフトウェアカウンタを変更する [P. 92]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するガイドのセクション
カウンタの適用範囲の定義	sysSamAddScope2Counter	ウィザード	amSoftLicCounter	ソフトウェアカウンタを変更する [P. 92]
ソフトウェアライセンスを依頼...	sysSamCreateLicReq	ウィザード		新規ソフトウェアライセンスを依頼する [P. 57]
ソフトウェアを割り当て...	sysSamEntitleUserOrItem	ウィザード		ライセンスのための特定資格を作成する [P. 59]
ソフトウェアライセンスを変更...	sysSamModifyLicpfi	ウィザード		ソフトウェアライセンスを変更する [P. 56]
不明なインストールと既知のソフトウェアのインストールとの照合更新...	sysSamNormalizeModels	ウィザード		不明なインストールの照合更新 [P. 79]

アクションの詳細については、『高度な使い方』ガイドの「アクション」の章を参照してください。

スクリプトの記述の詳細については、『高度な使い方』ガイドの「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用の詳細については、『**Programmer's reference**』ガイドを参照してください。

新しいアクションの作成や、既存のアクションのカスタマイズが可能です。

ワークフロー

【ソフトウェア資産】モジュールは、ワークフロースキームを使用して特定の手順を処理します。

【ワークフロースキーム】 (amWfScheme) テーブルにアクセスするには、ナビゲーションバーの【管理/ワークフロー/ワークフロースキーム】リンクをクリックします。

【ソフトウェア資産】 モジュールに直接リンクするワークフロースキームは次のとおりです。

表 12.7. ワークフロー - 一覧

ワークフロースキーム名	ワークフロースキームのリファレンス	ワークフロースキームのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するガイドのセクション
利用できるライセンスがありません	BST_SAM01	amSoftLicCounter	ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する [P. 105]
ライセンス数の定期検証	BST_SAM02	amSoftLicCounter	ソフトウェアカウンタの定期的な自動計算 [P. 106]
違反インストール	BST_SAM03	amSoftInstall	違反インストールが発生した場合に自動メッセージを送信する [P. 77]
前回のスキャンで見つからなかったソフトウェアの検出	BST_SAM20	amComputer	前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアにフラグを設定する [P. 69]
契約の承認モデルの正常化: amInventModel	sysSam_CNTR_APPR sysIvtExtModelEnd	amContract amInventModel	概要 [P. 40] 新しいレコードが [棚卸されたモデル] (amInventModel) テーブル内に作成された場合、または [棚卸されたモデル] テーブル内の既存のレコードがソフトウェアインストールに初めてリンクされた場合 [P. 68]
モデルの正常化: amInventModel	sysIvtExtModelNew	amInventModel	新しいレコードが [棚卸されたモデル] (amInventModel) テーブル内に作成された場合、または [棚卸されたモデル] テーブル内の既存のレコードがソフトウェアインストールに初めてリンクされた場合 [P. 68]

ワークフローの詳細については、『高度な使い方』ガイドの「ワークフロー」の章を参照してください。

新しいワークフロースキームを作成するか、既存のワークフロースキームをカスタマイズすることができます。

Asset Manager Automated Process Managerモジュール

特定のAsset Manager Automated Process Managerモジュールは、[ソフトウェア資産] モジュールに固有のモジュールです。

[Asset Manager Automated Process Manager] モジュールにアクセスするには：

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 Asset Managerデータベースに接続します。
- 3 [ツール/モジュールの設定] メニューを選択します。

表 12.8. Asset Manager Automated Process Managerモジュール - 一覧

モジュール名	説明
WkGrIddAcoupSYS_SAM	実行グループ'SYS_SAM'にワークフロー規則を適用
DDMISyncSoftwareNormalization	DDMI (Discovery and Dependency Mapping Inventory) 結果を使用して、ソフトウェア正規化情報を更新
DDMISyncCASoftwareEvents	DDMI (Discovery and Dependency Mapping Inventory) とCA (Client Automation) 結果を使用して、ソフトウェアイベントを更新
DDMISyncHardware	DDMI (Discovery and Dependency Mapping Inventory) 結果を使用して、ハードウェア情報を更新
DDMISyncSoftware	DDMI (Discovery and Dependency Mapping Inventory) 結果を使用して、ソフトウェア情報を更新

Asset Manager Automated Process Managerモジュールの詳細については、『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」の章、「**Asset Manager Automated Process Manager**でモニタするモジュールを設定する」のセクションを参照してください。

システムデータと専門分野データ

Asset Managerは、標準データパッケージと共に提供されています。

これらのデータパッケージは、以下のグループに分類できます。

- **システムデータ**：Asset Managerアプリケーションが適切に動作するために必要なデータ
- **専門分野データ**：自分の判断で本番データベースに挿入できるデータ

このデータは、機能別に分類されています。

- サンプルデータ：Asset Managerの使用に慣れるために便利なデータ

ソフトウェア資産モジュールに特有のシステムデータ

【ソフトウェア資産】モジュールの場合、システムデータパッケージに以下のテーブル用のデータが含まれています。

- アクション (amAction)
- スクリプト (amScriptLibrary)
- アプリケーションのオプション (amOption)

システムデータは、Asset Managerのデータベースにデフォルトで含まれています。

ソフトウェア資産モジュールに特有の専門分野データ

【ソフトウェア資産】モジュールの場合、専門分野データパッケージに以下のテーブル用のデータが含まれています。これらのテーブルの例は、次のとおりです。

- 従業員グループ (amEmplGroup)
- ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)
- アクション (amAction)
- ワークフロースキーム (amWfScheme)
- リストデータの値 (amItemListVal)
- 棚卸されたモデル (amInventModel)
- レポート (amReport)
- コントロールパネルアイテム (amDashboardItem)

専門分野データは、Asset Managerのデモ用データベースに自動的に含まれます。

専門分野データを本番データベースでも使用するには、Asset Manager Application Designerでこのオプションを指定する必要があります。

- ▶ 専門分野データの既存データベースへのインポート [P. 34].

レポート

Asset Managerには、そのまま使えるレポートが数多く添付されています。これらの多くは、【ソフトウェア資産】モジュールに固有のレポートです。

レポートと書式をデータベースで使用できるようにするには、Asset Manager Application Designerでレポートと書式をインポートする必要があります。

ソフトウェア資産モジュール特有のレポートをインポートおよび識別する

レポートのインポートについては、『高度な使い方』ガイドの「**SAP Crystal Reports**」の章、「**Installing and using the reporting tool (レポート作成ツールのインストールと使い方)**」のセクション、「**Installing preconfigured SAP Crystal Reports in your database (事前に構成されたSAP Crystal Reportsレポートをデータベースにインストールする)**」のサブセクションを参照してください。

[ソフトウェア資産] モジュールに関連するレポートを識別する方法については、『高度な使い方』ガイドの「**SAP Crystal Reports**」の章、「**モジュールに関連するCrystal Reportsを識別する**」のセクションを参照してください。

バックグラウンドプロセス

Asset Managerがバックグラウンドで実行する自動プロセスの詳細については、『**Database structure**』ガイドを参照してください。同ガイドで記述されている各テーブルの章ごとに、「**Background processes (自動プロセス)**」というセクションがあります。

▶ テーブル [P. 201].

API

いくつかのAsset Manager APIは [ソフトウェア資産] モジュールで使用されません。

[ソフトウェア資産] モジュールのAPIのリストと説明を入手するには、『**Programmer's reference**』を参照してください。

ビュー

[ソフトウェア資産] モジュール用のデフォルトのビューはありません。ビューの詳細に関しては、『**Tailoring**』ガイドのパート3「**Customizing Windows clients**」、**「Using views」**の章を参照してください。

その他のドキュメント

このガイドに記載されているのは、【ソフトウェア資産】モジュールに直接関連する情報のみです。

このガイドに加えて、以下のドキュメントも参照することをお奨めします。

表 12.9. その他のドキュメント - リスト

ドキュメント名	内容	フォーマット	Asset Managerのインストール先フォルダにおけるパス
インストールとアップグレード	■ Asset Managerのインストール方法	印刷版 オンライン	\doc\pdf*InstallationAndUpgrade*.pdf \doc\chm\install.chm
主要テーブル	■ 場所と従業員の管理	印刷版 オンライン	\doc\pdf\CommonTables*.pdf \doc\chm\commontables.chm
ユーザインタフェース	■ ソフトウェアのインタフェース	印刷版 オンライン	\doc\pdf*UserInterface*.pdf \doc\chm\userinterface.chm
ポートフォリオ	■ 属性、モデル、ポートフォリオ品目、資産の管理	印刷版 オンライン	\doc\pdf*Portfolio*.pdf \doc\chm\portfolio.chm
データベース管理	■ ウィザードの使用 ■ フィールドのカスタマイズ ■ 特殊フィールドの使用	印刷版 オンライン	\doc\pdf*Administration*.pdf \doc\chm\administration.chm
高度な使い方	■ リストデータの管理 ■ スクリプトの作成	印刷版 オンライン	\doc\pdf*AdvancedUse*.pdf \doc\chm\advanceduse.chm

ドキュメント名	内容	フォーマット	Asset Managerのインストール先フォルダにおけるパス
フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> データベースのフィールドおよびリンクの使用 	オンライン	<p>フィールドまたはリンクに関する状況依存ヘルプにアクセスするには：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フィールドまたはリンクを選択します。 2 次のアクションのいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 右クリックして、[フィールドのヘルプ] メニューを選択します。 ■ キーボードで [Shift+F1] キーを押します。 ■ [ヘルプ/フィールドのヘルプ] メニューを選択します。
プログラマーズリファレンス	<ul style="list-style-type: none"> APIの使用 	印刷版 オンライン	<p>\doc\pdf*ProgrammersReference*.pdf \doc\progref.chm</p>
データベースの構造	<ul style="list-style-type: none"> データベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスのリスト Asset Managerにトリガされた自動エージェント 	テキストファイル オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ■ doc\infos\database.txt ■ \infos\tables.txt <p>\doc\chm\dbstructure.chm</p>
標準オンラインヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの全機能 	オンライン	<p>標準オンラインヘルプにアクセスするには、以下の操作の1つを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 キーボードで [F1] キーを押します。 2 [ヘルプ/トピックの検索] メニューを選択します。

索引

- アイコン, 200
- アクション, 206
- インタフェースのオプション, 201
- インタフェース - オプション, 201
- ウィザード, 206
- カウンタ, 206
- システムデータ, 212
- ソフトウェア
 - (参考 ソフトウェアのインストール)
 - (参考 ソフトウェアライセンス)
 - (参考 ソフトウェア - 管理)
- Asset Managerライセンス, 33
- ITIL
 - 定義, 25
- Microsoft Select, 170
- コントロールパネル, 115
- ステータス, 115
- テーブル, 26
- モジュール, 33
- レコードの作成, 29
- レポート, 116, 115
- 概要, 23
- 管理タイプ, 28
- 契約, 37
 - メンテナンス, 49
- ユーザ - 削除, 82
- ユーザ - 追加, 81
- 承認 - 更新, 47
- 承認 - 却下, 47
- 承認 - 受領, 47
- 承認 - 依頼, 46
- 承認 - 進行状況, 46
- 作成, 37
- 変更, 49, 48
- 対象の契約, 39
- 請求書, 50
- 資産, 50
- 物理データモデル, 27
- 正常化
 - 定義, 24
- 実用例, 121
- 実装, 29
- ソフトウェアのインストール
 - (参考 ソフトウェア)
- OEM契約, 80
- インポートする, 66
 - トリガされる自動処理, 68
- ソフトウェア使用
 - 定義, 23
- テーブル, 73

- ポイント, 74, 72
- ポートフォリオ品目とのリンク, 75
- ポートフォリオ品目のリンクを解除, 75
- モデル, 71
- ライセンスとのリンク, 25
- 除却する, 78
- 定義, 23
- 属性, 71
- 消失, 69
- 作成
 - HP Discovery and Dependency Mapping Inventory, 64
 - 自動化, 63
 - 実際の使用, 74, 73
 - 権限 - 通知, 77
- ソフトウェアのインストール/使用
 - 作成, 72
- ソフトウェアのコントロールパネル, 115
- ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザード, 29
- ソフトウェアの管理 (ウィザード), 29
- ソフトウェアカウンタ (参考 ソフトウェア - 管理)
- SQL Server V2005 / V2008実用例, 108
- ソフトウェアライセンス (参考 ソフトウェア)
 - タイプ, 54
 - モデル, 54
 - ライセンスまたは資格の権限
 - 定義, 24
 - 除却する, 58
 - 定義, 24
 - 属性, 53
 - 照合更新, 79
 - 作成, 56, 55
 - 変更, 56, 56
- ソフトウェアレポート, 116
- ソフトウェア - 管理, 83
 - カウンタ
 - ウィザードなしで変更する, 94
 - コンプライアンス, 103, 101
 - ソフトウェアのアップグレード, 102, 100
 - ソフトウェアの不正を処理する, 96
 - ソフトウェアカウンタ間のリンク, 98
 - テーブル, 85
 - ライセンス権限の移譲, 98
 - ライセンス権限の転送, 99
 - リンク, 101
 - 参照フィールド, 91
 - 定期的な計算, 106
 - 定義, 24
 - 更新, 94
 - 合計コンプライアンス, 103
 - 旧モードカウンタ, 104
 - 削除, 96
 - 作成, 88
 - 変更, 92
 - 計算, 95
 - コンプライアンス, 103
 - ソフトウェアのアップグレード, 102
 - 概要, 83
 - 特定資格 - テーブル, 85
- ソフトウェア使用 (参考 ソフトウェアのインストール)
- ソフトウェア資格 (参考 ソフトウェアライセンス)
- タブ, 195
- ツール, 200
- ツールバー, 200
- テーブル, 201
 - 関係, 203
- データベース
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存のデータベース, 34
 - 新規データベース, 34
 - 準備, 34
- データベース記述ファイルを開く - 新規データベースの作成 (オプション), 34
- ナビゲーションバー, 195
- バックグラウンドプロセス, 214
- ビュー, 214
- マニュアル, 215
- メニュー, 195
- モデルの正常化 (グループ), 65
- ライセンスまたは資格の権限 (参考 ソフトウェアライセンス)
- ライセンスポリシー
 - IT機器へのリンク, 111
- リストデータ, 205

レポート, 213
ワークフロー, 210
棚卸されたモデル, 68
契約
 (参考 ソフトウェア)
 ライセンス, 27
特定資格
 (参考 ソフトウェア - 管理)
 定義, 24
 削除, 61
 作成, 59
 変更, 60
特殊フィールド, 205
正常化
 定義, 24
専門分野データ, 212, 34, 34
準備タスク, 33

A

API, 214
Asset Manager Application Designer
 専門分野データ - インポート
 既存のデータベース, 34
 新規データベース, 34
Asset Manager Automated Process Manager
 モジュール, 212
Asset Manager - インストールとアップグレード,
35

D

ddmiam-swnorm.scn (シナリオ), 64

H

HP Connect-It, 63

I

ITIL
 定義, 25

M

Microsoft Select, 170

S

Select, 170
SQL Server V2005
 ソフトウェアカウンタ, 108
SQL Server V2008
 ソフトウェアカウンタ, 108
sysSamLauncherウィザード, 29

